

第82図 第26号住居跡出土遺物 (2)

第26号住居跡出土遺物観察表（第81・82図）

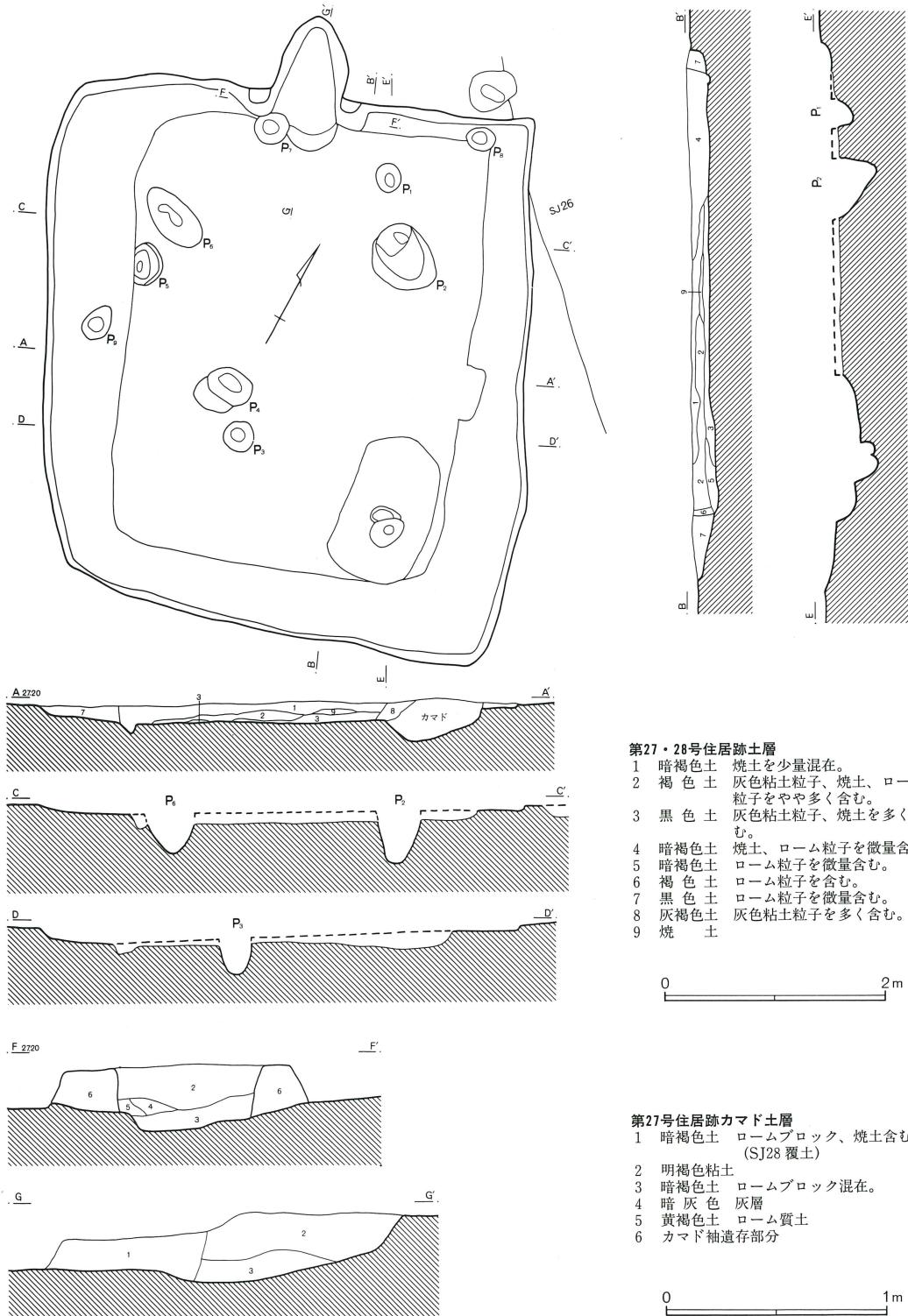
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	10.4	3.4		B C F G	A	赤褐	90%	No.84・87・110・床上1～7cm、赤彩
2	壺	(10.1)	3.0		A B C H	B	赤褐	50%	No.219・床上1.5cm、赤彩
3	壺	10.3	3.4		B C G	A	赤褐	80%	No.1・4・12・床上3～12cm、赤彩
4	壺	(9.6)	(3.2)		B C F G	B	赤褐	20%	No.221・床上4cm、赤彩
5	壺	(9.0)	3.4		A C H	C	橙	70%	No.24・29・146・床面直上～12cm
6	壺	(11.2)			A B C	A	赤褐	15%	No.14・19・床上2～4cm、赤彩
7	壺	(10.5)			B C F G	A	橙	15%	覆土一括、赤彩
8	壺				A B C D H	A	橙	40%	No.46・床面直上、赤彩
9	壺	(12.2)			B C G	D	オーブ灰	15%	No.18・床上11cm
10	壺	(12.0)			B C G	A	赤褐	20%	No.193・床上3cm、赤彩
11	椀	12.6	5.0		A B C F H	A	赤褐	80%	No.68・床面直上、赤彩
12	蓋	10.5	2.6		A B C E	A	黒	100%	No.227・床上3cm、天井部は手持箆削り
13	蓋	10.5	3.0		A B C F	A	暗青灰	100%	No.43・床面直上
14	甕	(22.0)			A B C G H	A	にぶい橙	30%	No.150・186・187・237・カマド床上15～25cm
15	甕	(19.6)			A B C D F G	B	橙	20%	No.265・カマド床面直上
16	甕	(19.8)			A B C D F J	A	橙	30%	No.88・91・101・105・床上2～6cm
17	甕	(18.3)			A B D F G	B	にぶい橙	10%	No.61・63・床上15cm
18	甕	(20.4)			A B C D G	A	橙	20%	No.111・112・床上2～5cm
19	甕	(19.8)			A B C E F G	B	淡橙	20%	No.116・床上9cm
20	甕	(20.6)			A B C D G	B	淡橙	20%	No.153・154・161・167・カマド床上14～18cm
21	甕	(21.0)			A B C D F G	B	淡橙	20%	No.47・54・55・183・カマド床上10～14cm
22	甕	(20.0)			A B D G	B	淡橙	30%	No.162・241・244・247・266・床上3～6cm
23	甕	(23.1)			A B G H	A	浅黄橙	40%	No.267・カマド右袖
24	甕	(21.0)			A B C D F	B	淡橙	30%	No.114・115・123・125・床上7～9cm
25	甕	(23.5)		6.2	A B C F G H	A	淡橙	15%	No.138・191・カマド床上7～11cm
26	甕				A B F G	B	淡橙	10%	No.128・143・床上4～8cm
27	甕				A B E G	B	淡橙	20%	No.224・231・233・234・239・床上3～7cm
28	支脚	5.5	18.3	12.8	A B D G H	B	淡橙	80%	No.195・205・カマド覆土、貯藏穴
29	台付甕	(12.0)			A B C E G	A	橙	5%	No.68・72・73・床上1～14cm
30	台付甕	(11.8)			A B C D F	B	橙	20%	No.253・255・貯藏穴床上22cm
31	台付甕			10.2	A B C E F G	B	橙	10%	No.220・貯藏穴床上5cm

第27・28号住居跡（第83～86図）

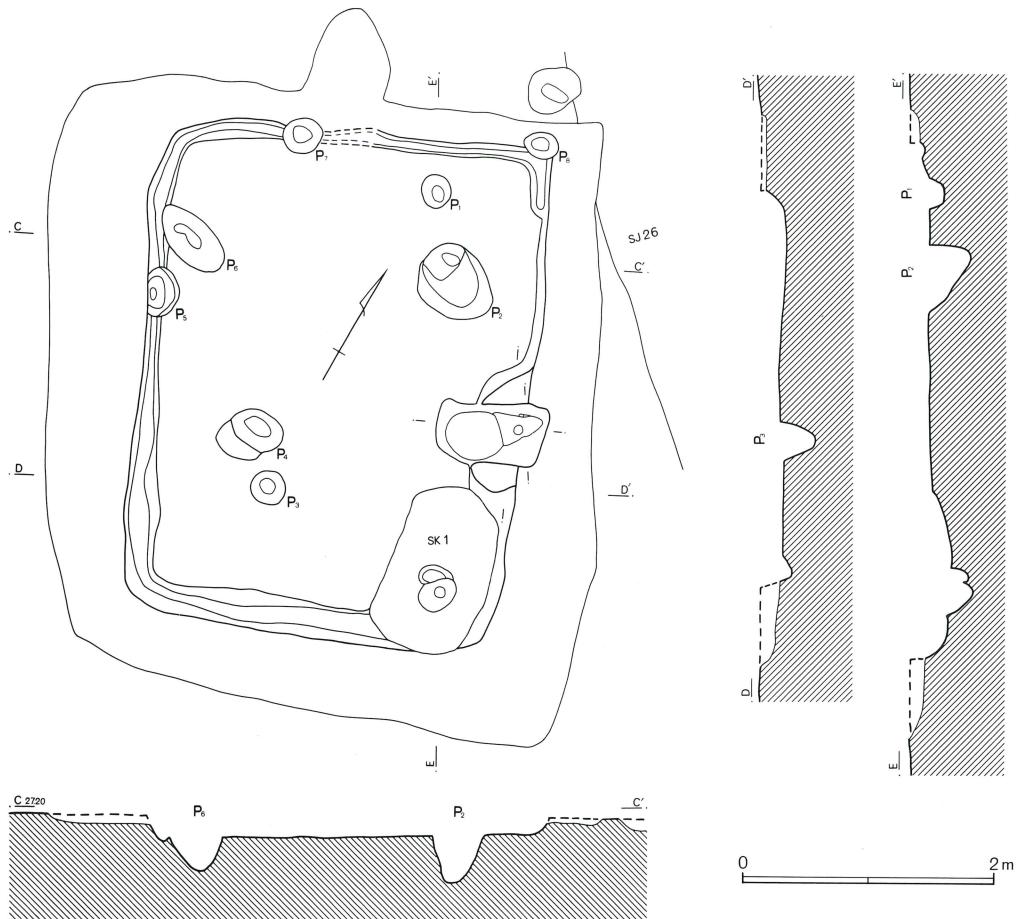
遺跡南東部、J-23グリッドに位置する。歪んだ長方形を呈する。外側の第27号から内側の第28号へと縮小する住居跡である。

外側の第27号住居跡から述べる。規模は長径4.9m、短径4.4m、深さ約15cmである。主軸方向はN-28°-Wで、北西向きの住居跡である。カマドは北壁ほぼ中央に位置し、残りはよい方であったが、内側の住居に焚出口を切っていた。袖の幅は約30cmほどで、燃焼部は丸底状に窪まり、壁に向って徐々に立上がる。カマド土層の3層はカマドの掘方と思われる。左袖下のP7はカマドに伴うものではない。本遺構に伴う柱穴はP9で、他の柱穴はどちらの住居跡に帰属するか不明である。

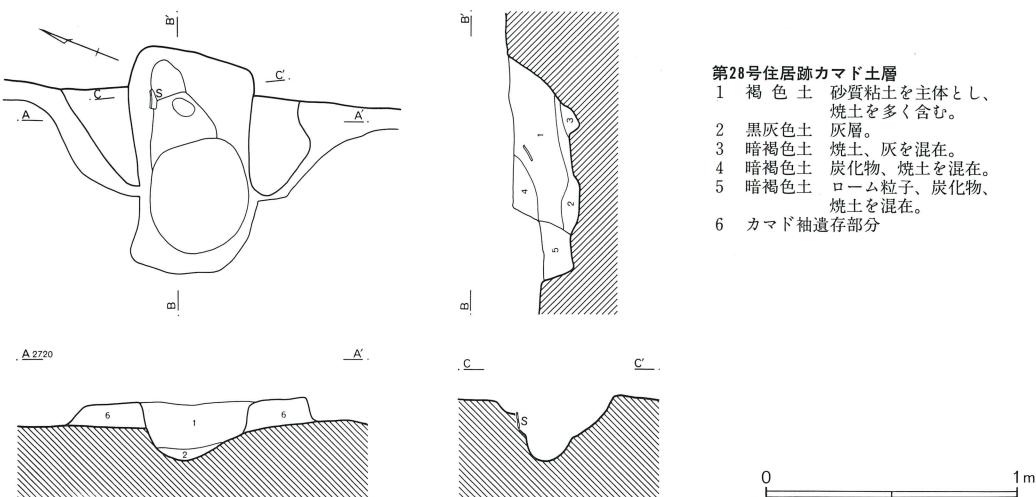
内側の第28号住居跡は規模は長径4.05m、短径3.15m、深さ約18cmである。主軸方向はN-65°-Eで、北東向きの住居跡である。カマドは東壁やや南寄りに位置する。ローム混じりの暗褐色土で造



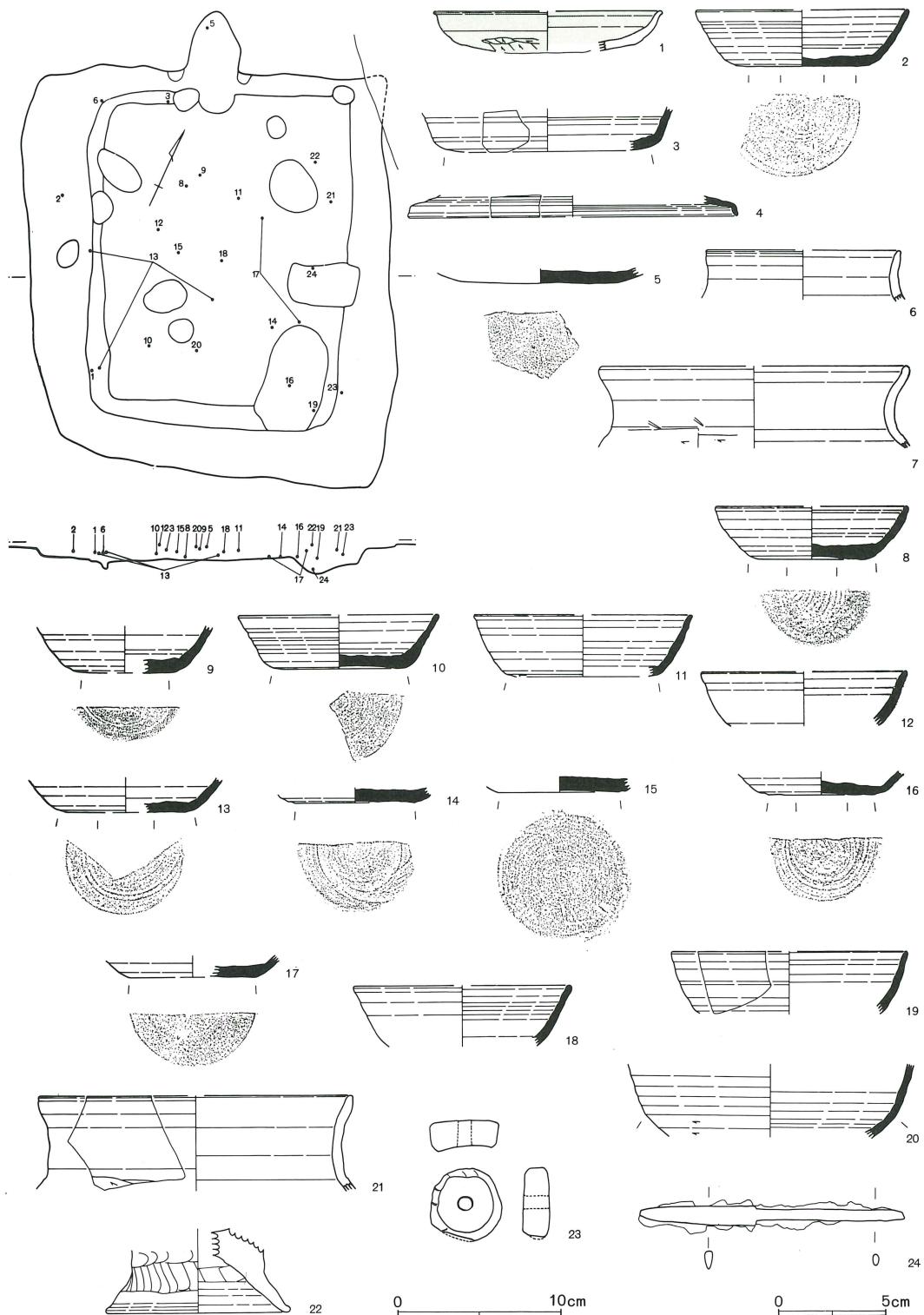
第83図 第27号住居跡・カマド土層



第84図 第28号住居跡・住居内1号土壤



第85図 第28号住居跡カマド



第86図 第27・28号住居跡出土遺物

られた袖を持ち、袖幅は約25cmほどである。燃焼部は大きく丸底状に掘り込まれ、住居の床面より20cmほど深くなっていた。カマド南側に住居内1号土壙があり、須恵器の壺が検出された。周溝は幅約20cmで、東壁を除き全周する。ピットは7本検出されたが、主柱穴にはならないようである。土層断面から焼土の9層が観察され、この層が当時の生活面である可能性がある。

遺物は1~7までが外側の27号住居跡、8~24までが内側の28号住居跡に属すると思われる。1の壺は白色針状物質を含む在地産のものである。2の壺は口径の小さいものである。5の椀は底部左回りの回転箆削りである。8、9は底径の小さい土器である。20は鉄鉢で外面体部下半を左回りの回転箆削りで整形されている。23の紡錘車は上面は滑らかで、裏面は未整形でごつごつする。孔は径8mmで、正円に削り抜かれる。出土遺物から外側の第27号住居跡が稻荷前VII~VIII期、内側の第28号住居跡が稻荷前IX期であろう。

第27・28号住居跡出土遺物観察表（第86図）

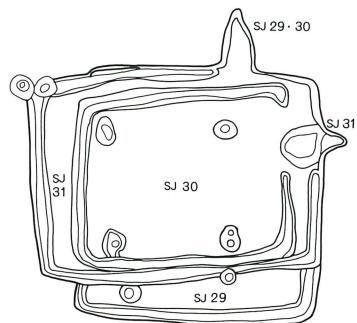
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(13.8)			B C G	A	赤褐	5%	No.317・床上23cm、赤彩
2	壺	(12.8)	3.4	(8.2)	B C F G	A	青灰	40%	No.40・床上5cm
3	壺			(12.5)	B C G	A	灰白	5%	No.294・床上20cm
4	蓋	(20.0)			B C G	A	暗青灰	5%	27号住カマド覆土
5	椀?				B C G	B	暗青灰	5%	No.363・27号住カマド床上9cm
6	甕?	(11.6)			A B G	B	橙	5%	No.299・床上11cm
7	甕	(18.6)			A B C E F G	A	橙	10%	27号住カマド覆土
8	壺	(11.6)	3.2	(6.4)	B C F	B	オーブ灰	45%	No.296・床上6cm
9	壺			(6.4)	B C F G	B	オーブ灰	30%	No.181・床上17cm
10	壺	(12.1)	(3.3)	(7.0)	B C F G	B	オーブ灰	25%	No.200・床上12cm
11	壺	(13.2)		(9.0)	B C G	B	暗青灰	10%	No.241・床上10cm
12	壺	(12.4)			B C G	A	オーブ灰	5%	No.13・床上14cm
13	壺			(7.2)	B C F G	A	オーブ灰	30%	No.254・316・332・床上5~12cm
14	壺			(7.3)	A B C F G	C	灰白	20%	No.267・床上5cm
15	壺			7.3	B C E F G	A	オーブ灰	30%	No.329・床上10cm
16	壺			(6.4)	A B C G	A	暗青灰	20%	No.270・床上17cm
17	壺			(7.7)	B C G	A	暗青灰	5%	No.134・347・床上4~18cm
18	壺	(13.1)			B C G	A	オーブ灰	5%	No.354・床上8cm
19	壺	(14.3)			B C G	A	暗青灰	5%	No.275・床上12cm
20	鉄鉢				B C F G	A	暗青灰	5%	No.111・床上14cm
21	甕	(19.0)			B C E F G	A	淡橙	5%	No.220・床上11cm
22	台付甕		10.8		A B C F G	A	橙	10%	No.83・床上16cm
23	紡錘車				径4.2cm 厚さ1.7cm 重さ40g				No.147・床面直上、泥岩製
24	刀子				長さ12.1cm 厚さ0.4cm				No.357・28号住カマド床上18cm

第29・30・31号住居跡（第87~93図）

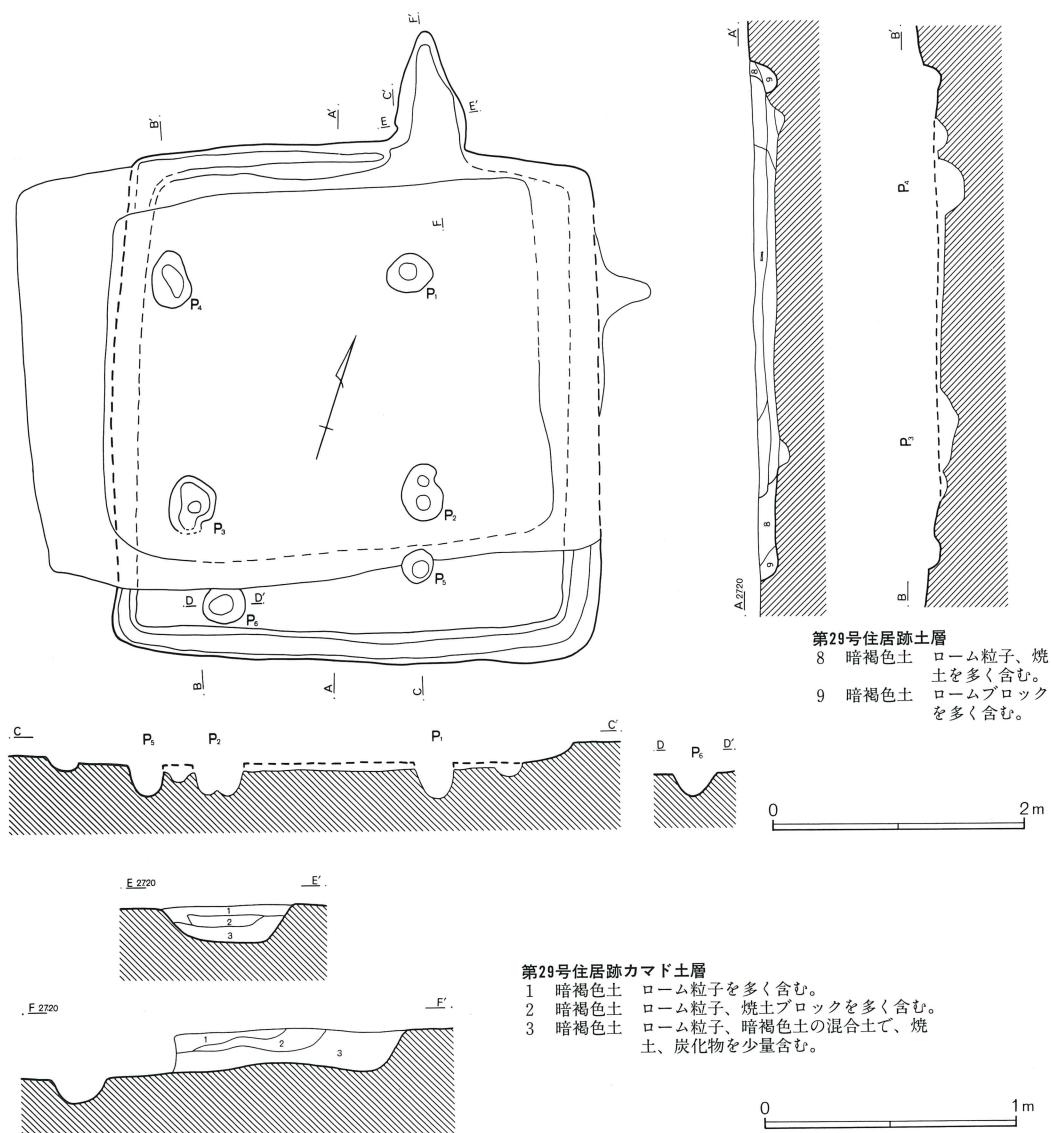
遺跡南部、J-22グリッドに位置する。3軒の重なった遺構で、土層観察から南に床が突出た北カマドの第29号が最も古く、次に内側で北カマドを共有する第30号、最も新しいのが西に床が突出た東カマドの第31号である。

第29号住居跡から述べる。土層断面で本住居跡は8、9層が該当する。形態は長方形で、規模は長径4.1m、短径3.7m、深さ約15cmである。主軸方向はN-18°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居

跡である。カマドは北壁やや東寄りに位置し、焚き口は第31号住居跡に切られていた。このカマドは本住居で使用され、第30号でも使われたと思われる。カマド土層の3層はカマド構築時の掘方になると考えられる。周溝は幅約25cmで、南壁とカマド西側の北壁は遺存するが、その他は2軒の住居跡に大きく壊されている。主柱穴と思われるピットは3軒とも同じピット、P1・P2・P3・P4の4本を想定せざるを得ない。

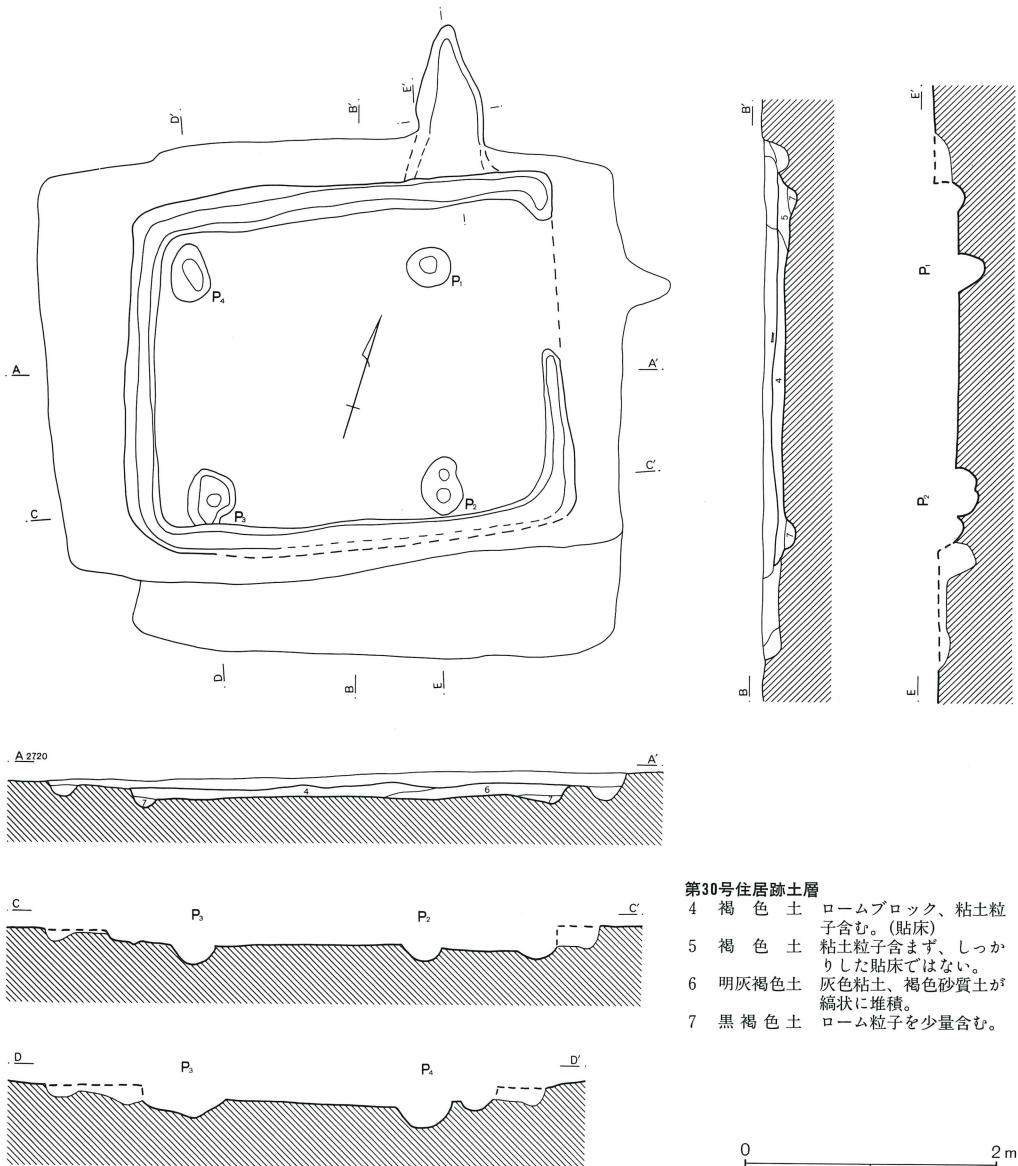


第87図 第29・30・31号住居跡



第88図 第29号住居跡・カマド土層

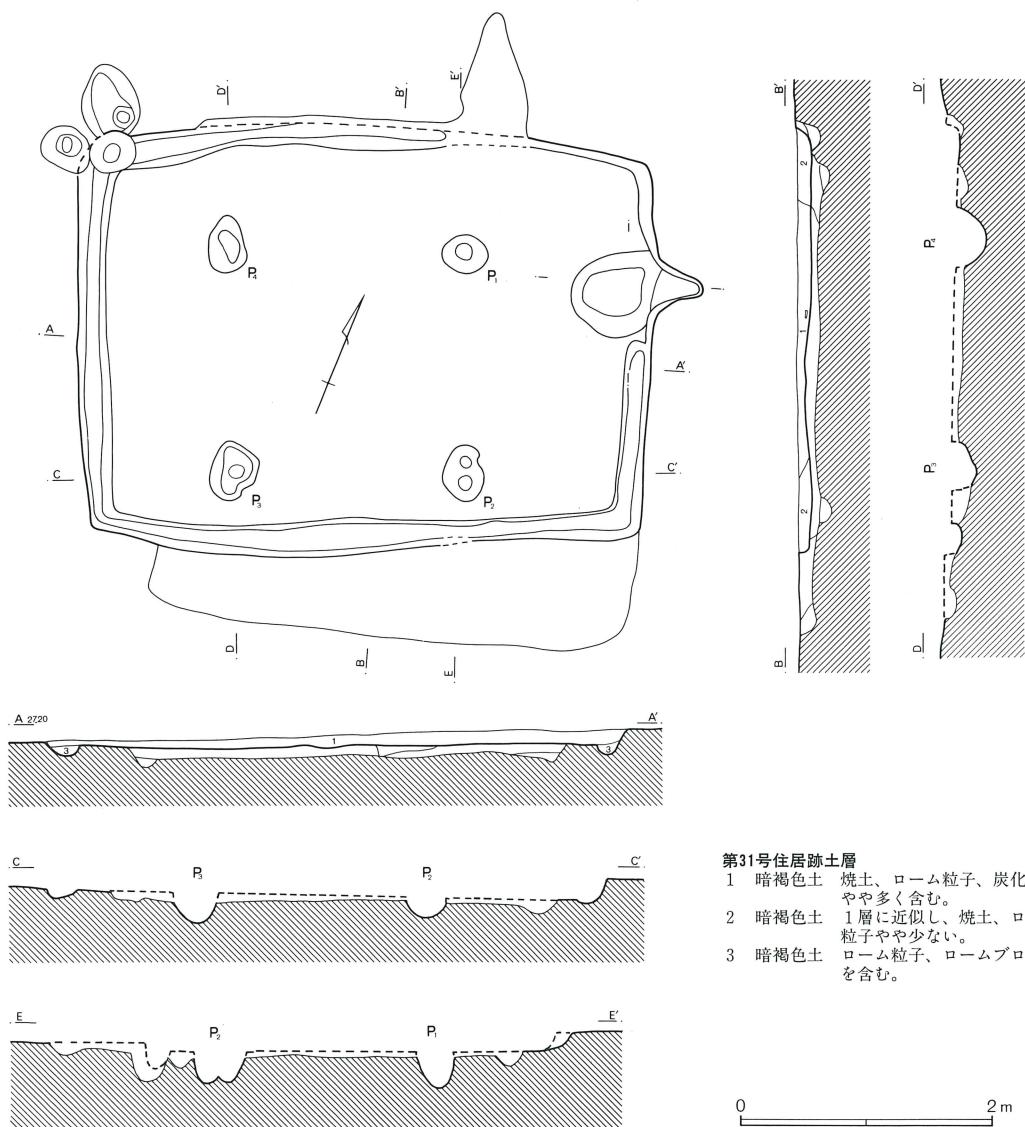
第30号住居跡は3つ重なった中で、最も狭い住居跡である。形態はやや歪んだ長方形で、規模は長径3.55m、短径2.9m、深さは約20cmである。カマドは第29号住居跡と同じものと思われる。主軸方向は第29号と同じで、N-18°-Wである。周溝は幅約15cmで、全周すると思われるが、第31号の周溝に南側を、第31号のカマドに東側を壊されていた。主柱穴と思われるピットは他の住居跡と同じく、P1・P2・P3・P4の4本である。土層断面で本住居跡は4、5、6、7層が該当する。覆土はロームブロック、粘土粒子、砂を含んだ4、5、6層が人為的に埋め戻され、貼床を構築し、上面の第31号住居跡の床面として利用されたと思われる。



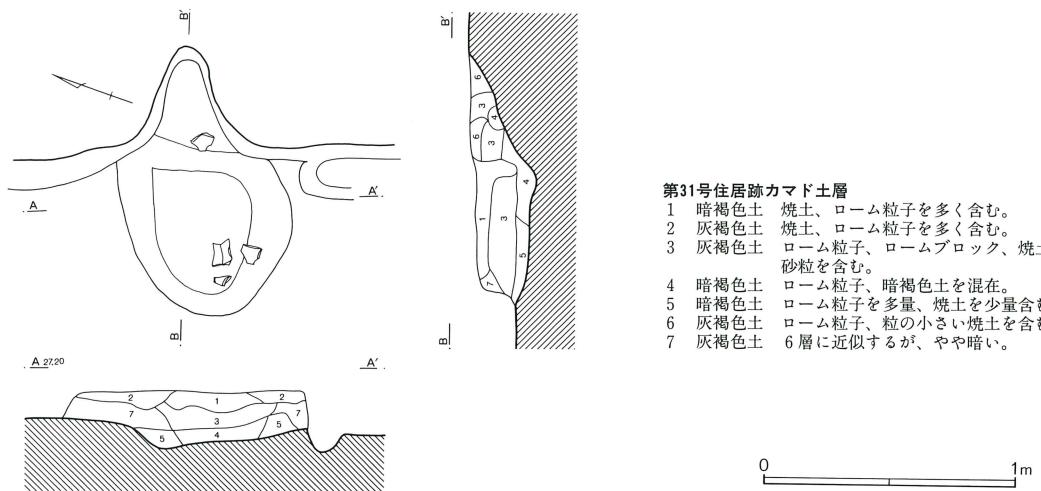
第89図 第30号住居跡

第31号住居跡の形態は長方形で、規模は長径4.6m、短径3.35m、深さは約10cmである。主軸方向はN-72°-Eで、北東向きの住居跡である。本住居跡の土層断面は1、2、3層が該当する。下層の4層に住居構築時の貼床が認められた。カマドは東向きで、残りはよくない。袖は断面観察で5、7層がその残遺と想定できるが、平面プランとしては確認できなかった。燃焼部は丸底状の掘込みを持つ。主柱穴は4つで、他と同じくP1・P2・P3・P4と思われるが、やや南側に片寄る。北西コーナーの周溝上と遺構外のピットは本遺構には伴わないと思われる。

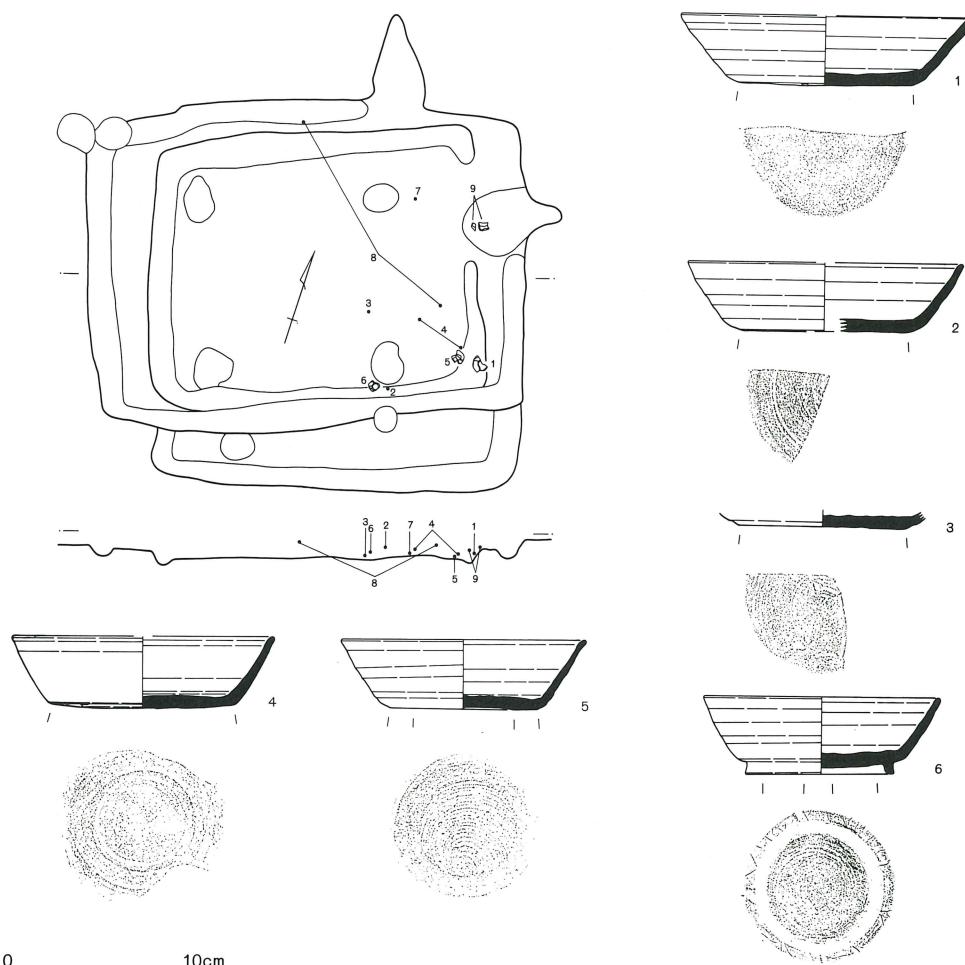
出土遺物は最も新しい第31号住居跡の床面付近から出土したものが多く、第31号住居跡の時期は稻荷前VIII期であろう。



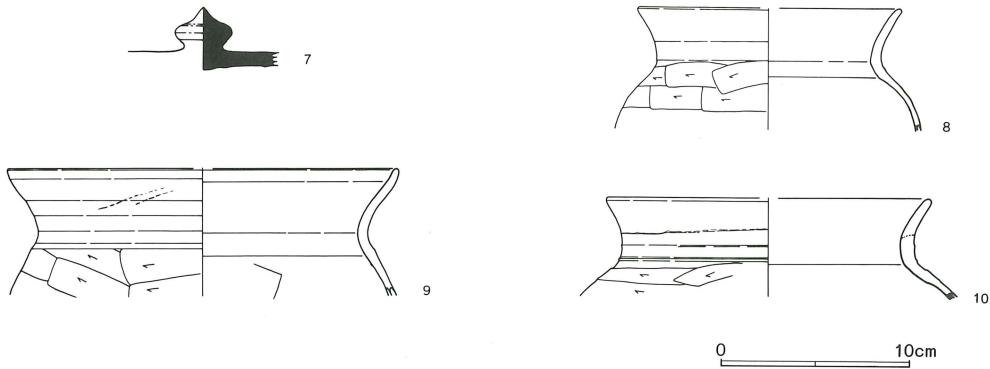
第90図 第31号住居跡



第91図 第31号住居跡カマド



第92図 第29・30・31号住居跡出土遺物 (1)



第93図 第29・30・31号住居跡出土遺物 (2)

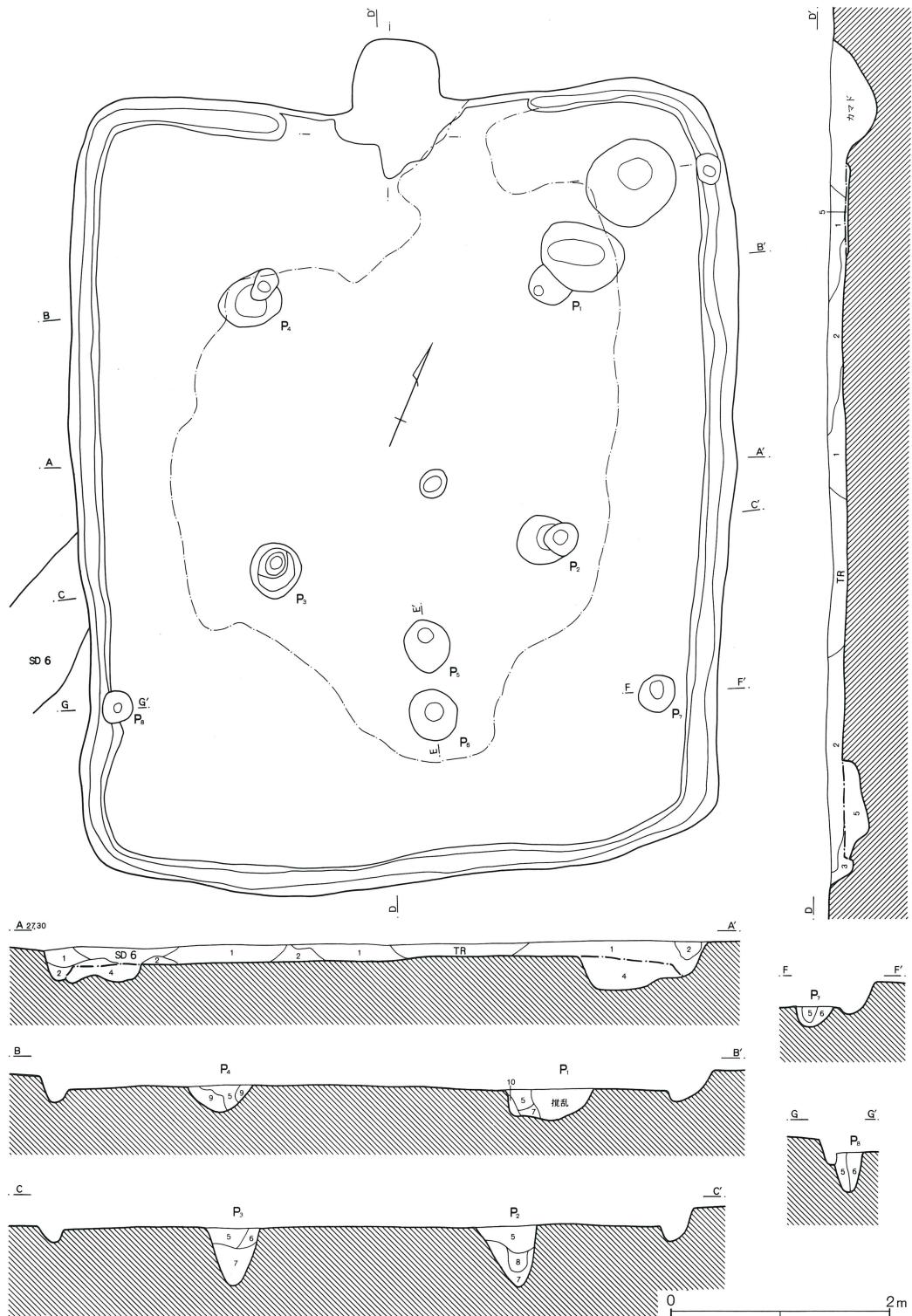
第29・30・31号住居跡出土遺物観察表 (第92・93図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(15.4)	3.7	(9.0)	B C G	A	暗青灰	50%	No.17・21・28・床上5cm
2	壺	(14.4)	3.6	(8.8)	B C F G	A	暗青灰	15%	No.18・床上13.5cm
3	壺			(8.8)	B C F	A	暗青灰	15%	No.5・床上1cm
4	壺	(13.7)	3.8	(10.0)	A B C E G	C	オーブ灰	30%	No.13・28・床上5.5~8.2cm
5	壺	13.0	3.6	7.8	B C F G	A	暗青灰	90%	No.16・床上9.9cm
6	高台壺	12.6	4.1	7.8	B C F	A	灰白	70%	No.17・床上7.5cm
7	蓋				B C G	A	灰白	20%	No.8・床上7.5cm
8	甕	(13.8)			B E F G	B	橙	20%	No.1・14・床上9~16cm
9	甕	(20.6)			B F G	C	にぶい橙	20%	No.32・33・床上12~15cm
10	甕	(17.0)			B E G	B	橙	20%	覆土一括

第32号住居跡 (第94~97図)

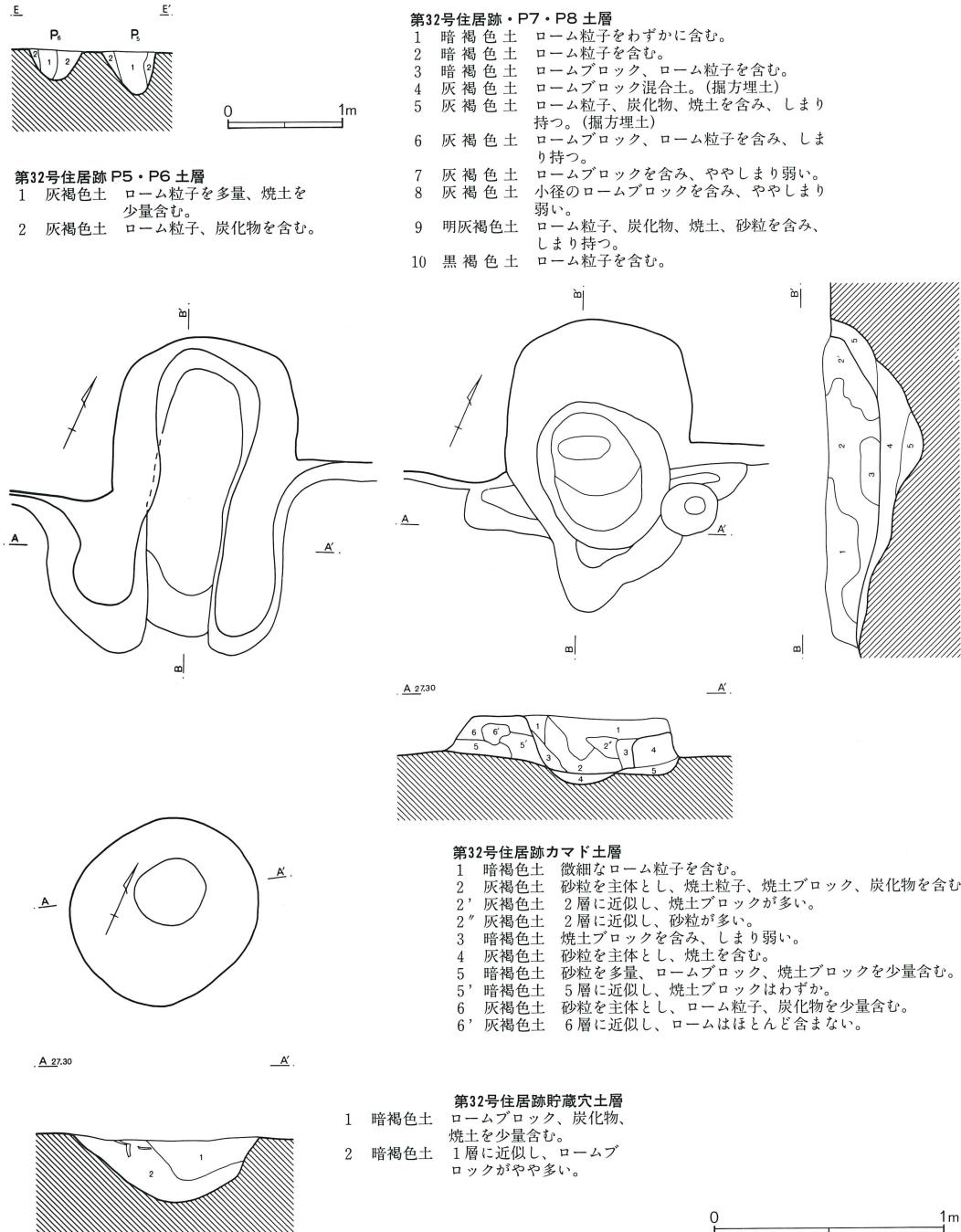
遺跡南部、I-21グリッドに位置する。形態は長方形で、規模は大きく、長径7.2m、短径6.1m、深さは約15cmである。第6号溝跡に切られていた。主軸方向はN-23°-Wで、やや西に傾いた北向きの住居跡である。カマドは北壁中央に位置する。残りがよい方で、両袖が検出できた。焚き口幅は約30cm、燃焼部幅は約32cmほどで、底はやや掘り込まれる。カマド土層断面から4、5層より上部がカマド使用時の面と思われる。貯蔵穴は83cm×75cmの円形で、深さは約23cmである。周溝は幅約25cmで、カマド周辺を除き全周する。主柱穴と思われるピットはP1・P2・P3・P4の4本である。また、P7、P8はP3、P2と平行することから主柱穴を補助する柱穴になる可能性がある。住居跡中央部は硬く締まっていたが、周辺には貼床を構築する際に埋め戻した調整土が確認できた。

1の土師器壺は色調淡く、在地産の胎土とちがって、白色針状物質を含まない北武藏系の壺である。2~10は白色針状物質を含む在地産の土師器壺である。2は口唇内面に薄く沈線を持ち、外面ヨコナデ部が薄く、器高が低く、底部は平底である。3は口唇内面にわずかに沈線を持ち、底部立上がり部に輪積み痕が観察できる。9、10は覆土一括の土器で本遺構の時期よりやや古いよう、混入土器であろう。11~13の須恵器壺は底部笠削りで体部との境に屈曲を持って外側に開き、口径が約14.5cmほどである。12、13は底部回転糸切り後、左回りの回転笠削り。14、15は底部厚く、焼きが悪い。底部外面より底部内面が外側に張り出る特徴を持つ。20は底部回転糸切り後、左回りの回転笠削り。

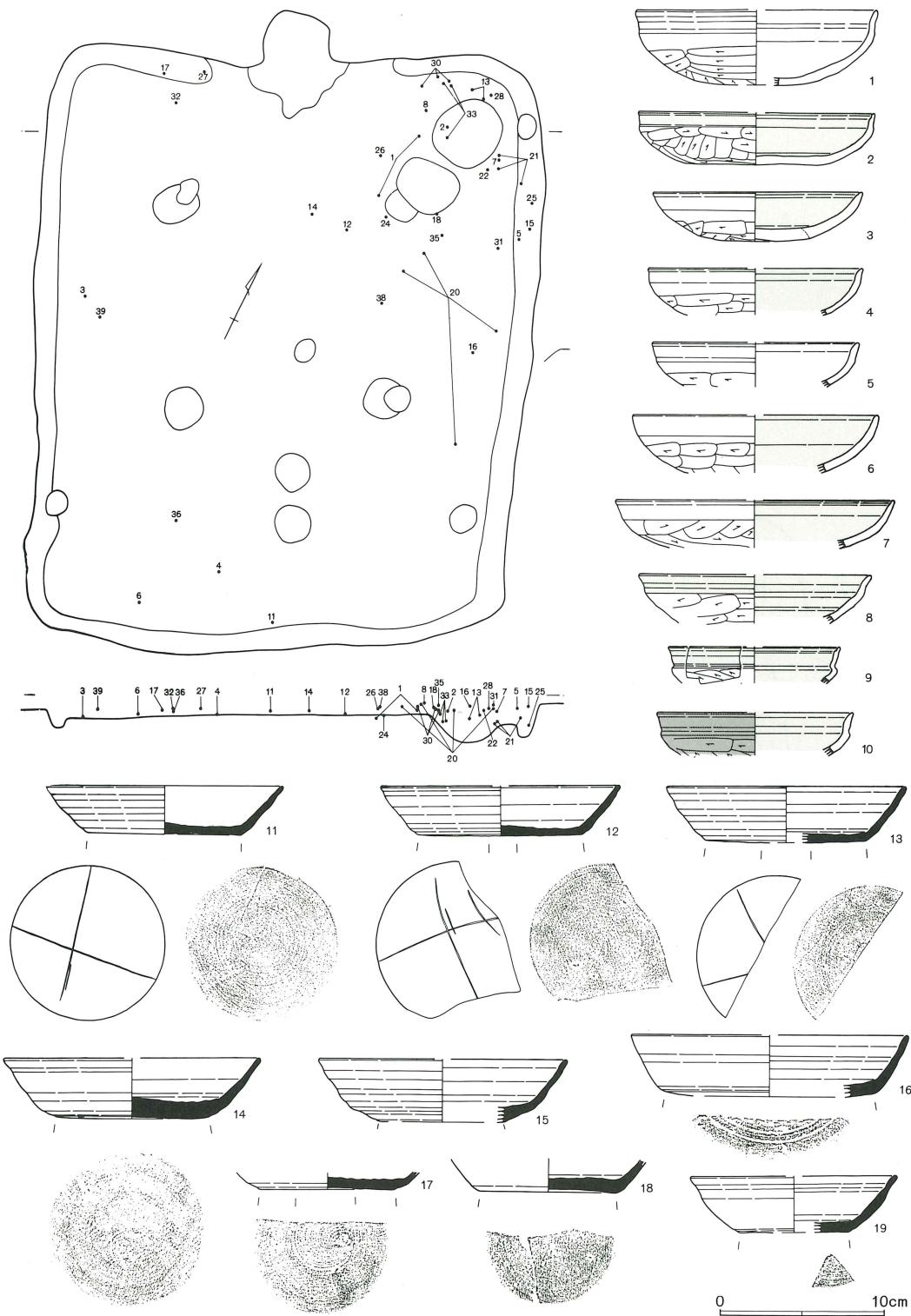


第94図 第32号住居跡

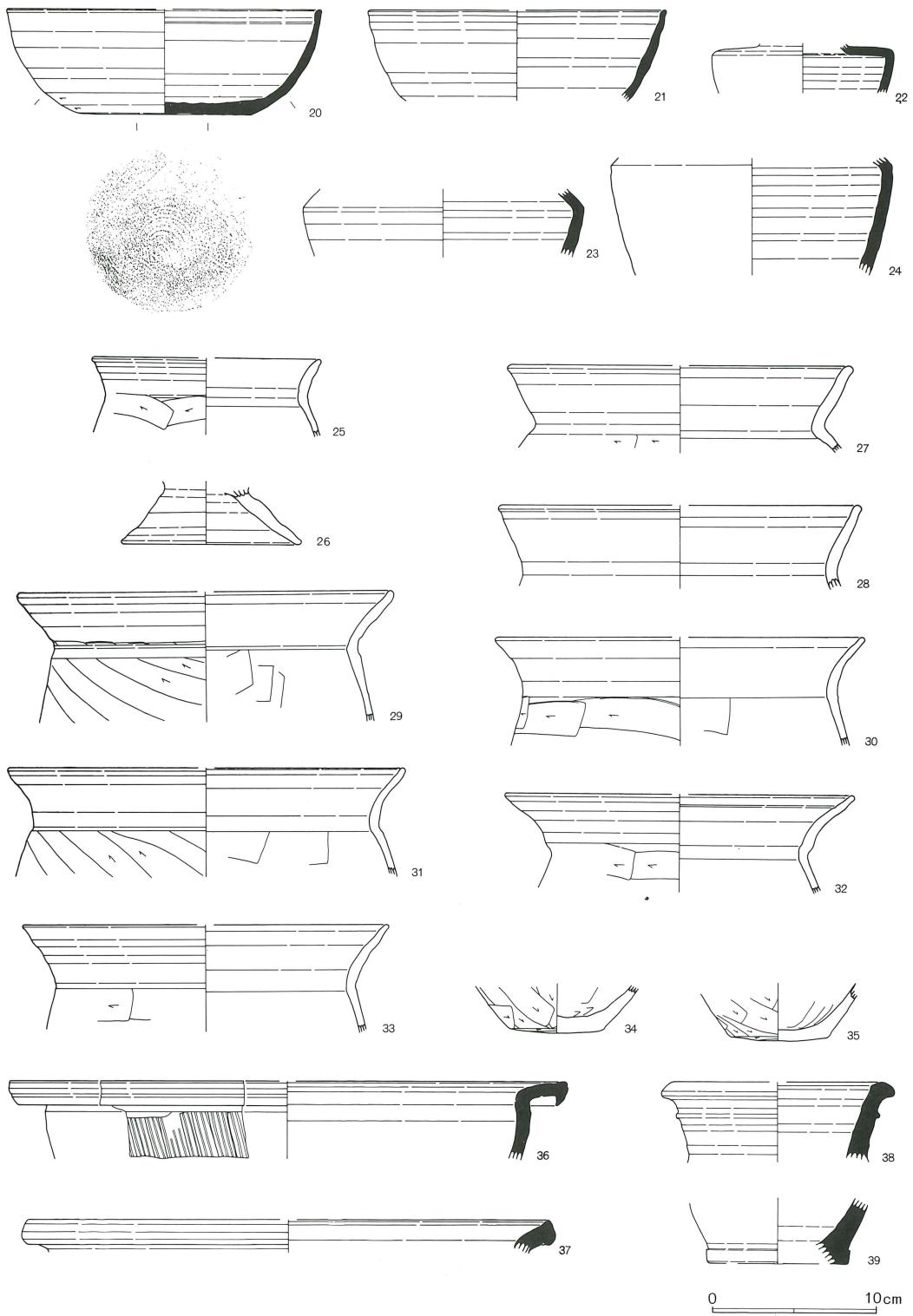
20・21は外面肩部に部分的に自然釉が付着する。38の須恵器壺は平瓶の口縁部であるかも知れないが、他の遺物より古い様相がある。遺構の時期は出土遺物の須恵器壺、椀から稻荷前VII期であろう。



第95図 第32号住居跡カマド・貯蔵穴



第96図 第32号住居跡出土遺物 (1)



第97図 第32号住居跡出土遺物 (2)

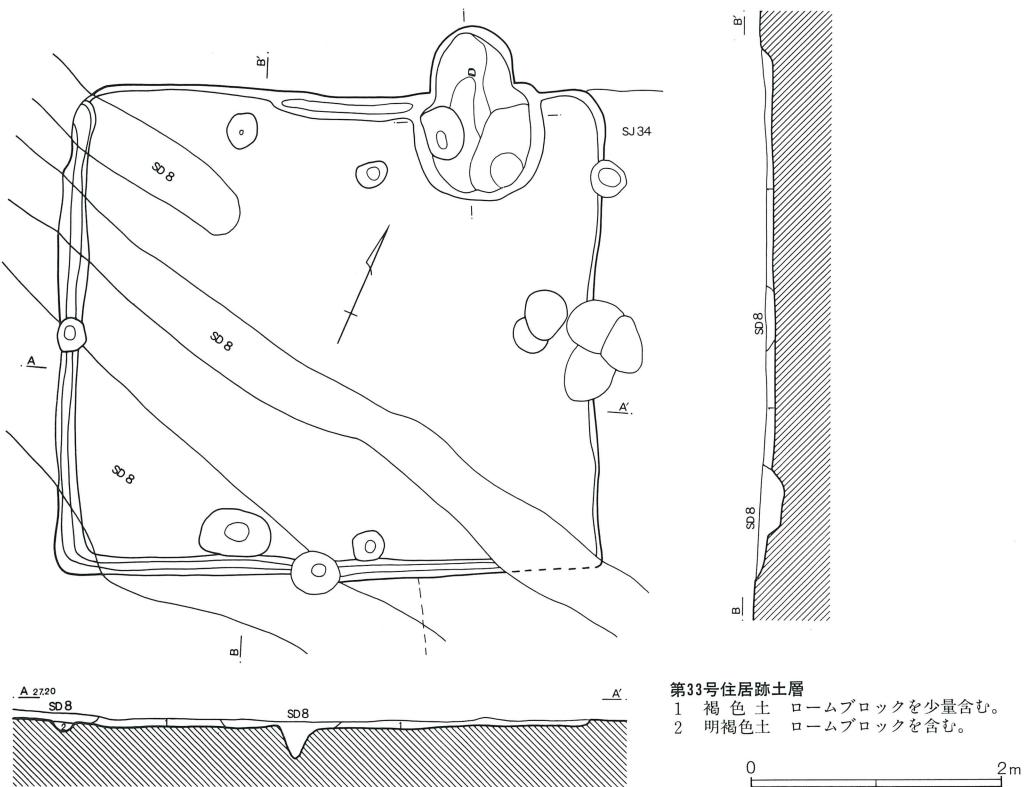
第32号住居跡出土遺物観察表 (第96・97図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(14.5)	(4.5)		A B E F G	A	淡橙	30%	No.15・床上10cm、No.52・床面直上
2	壺	(14.2)	3.2		A B C G	A	赤褐	40%	貯蔵穴一括、貯蔵穴床上12cm、赤彩
3	壺	12.6	3.0		B C G	A	橙	80%	No.107・床上4.5cm、内面赤彩
4	壺	(12.9)			B C F G	B	橙	10%	No.112・床上15cm、内面赤彩
5	壺	(12.4)			B C G	A	橙	10%	No.43・周溝床上22cm
6	壺	(14.8)			B C F G	A	橙	15%	No.118・床上4 cm、内面赤彩
7	皿	(16.8)			B C E G	A	橙	15%	No.33・床上10cm、内面赤彩
8	壺	(14.0)			B C E F G	A	橙	10%	No.9・床上18cm、赤彩
9	壺	(10.3)			B C F G	A	赤褐	5 %	覆土一括、赤彩
10	壺	(11.8)			B C G	A	黒褐	10%	覆土一括、外面黒色処理、内面赤彩
11	壺	14.3	2.9	9.3	B C G	A	暗青灰	95%	No.111・床上9 cm、左回りの回転範削り
12	壺	(14.5)	3.0	(10.0)	B C G	A	暗青灰	50%	No.68・床上2 cm
13	壺	14.4	3.4	(9.7)	B C G	A	暗青灰	55%	No.22・23・床上1 ~ 8 cm
14	壺	(15.4)	3.7	9.2	A B C G	C	オーブ灰	70%	No.67・床上5 cm、左回りの回転範削り
15	壺	(15.0)	3.8	(7.6)	A B C G	C	オーブ灰	20%	No.42・床上17cm、右回りの回転範削り
16	壺	(16.7)	(3.7)	(12.6)	B C E G	C	暗青灰	20%	No.74・床上9 cm、右回りの回転範削り
17	壺			8.2	A B C G	C	灰白	30%	No.64・床上18cm
18	壺			(8.3)	B C G	A	灰白	30%	No.50・床上8 cm、左回りの回転範削り
19	壺	(12.4)	3.4	(6.6)	B C F G	B	暗青灰	10%	覆土一括、底部左回りの回転範削り
20	椀	(19.0)	6.4	10.6	B C G	A	暗青灰	60%	No.47, 70, 77, 78, 96・床上7 ~ 11cm
21	椀	(18.1)			B C G	A	暗青灰	30%	No.32・36・40・床上7 ~ 8 cm
22	短頸壺				B C G	A	灰白	10%	No.37・床上11cm、外面肩部に自然釉付着
23	短頸壺				B C G	A	暗青灰	10%	覆土一括、外面肩部に自然釉付着
24	長頸壺				B C G	A	暗青灰	10%	No.51・床上1 cm、外面肩部に自然釉付着
25	台付甕	(13.7)			B C E G	A	橙	10%	No.41・床上1 cm、貯蔵穴一括
26	台付甕			10.7	B C E G	A	橙	20%	No.61・床上10cm
27	甕	(20.7)			A B C E G	A	橙	30%	No.19・55・床上7 cm、貯穴一括、覆土一括
28	甕	(21.7)			B C E G	A	淡橙	10%	覆土一括
29	甕	(22.6)			A B C E G	A	橙	20%	掘方出土、覆土一括
30	甕	(22.3)			A B E G	A	にぶい橙	20%	No.2・3・7・床上11 ~ 16cm、覆土一括
31	甕	(24.1)			B E F G	A	橙	20%	No.45・床上16cm
32	甕	(21.1)			B E F G	A	橙	10%	No.62・床上8 cm
33	甕	(22.2)			B E G	A	橙	15%	No.8・11・20・床上8 ~ 12cm
34	甕			5.5	A B C E G	A	橙	15%	覆土一括
35	甕			(6.0)	B C E G	A	橙	10%	No.48・床面直上、覆土一括
36	鉢	(34.0)			B C G	A	暗青灰	10%	No.114・床上27cm、外面体部はタタキ
37	鉢	(31.8)			B C G	A	暗青灰	5 %	覆土一括
38	壺?	(12.8)			B C G	A	暗青灰	20%	No.85・床面直上、平瓶か?
39	擂鉢			(8.6)	B C G	A	暗青灰	10%	No.106・床上16cm

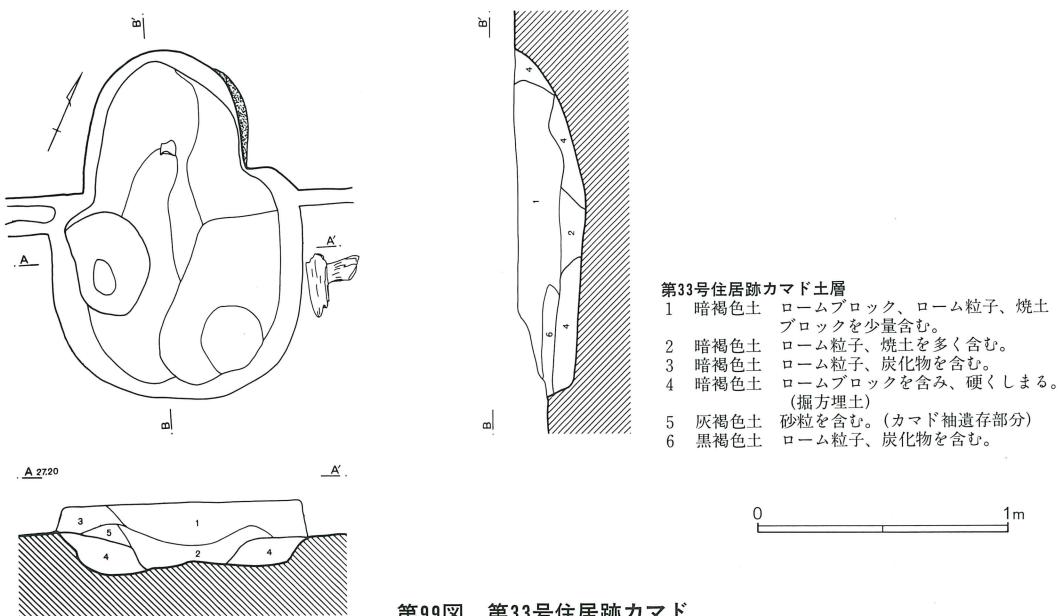
第33号住居跡 (第98~100図)

遺跡南部、I-21グリッドに位置する。形態はやや歪んだ長方形で、規模は長径4.3m、短径3.8m、深さ約5 cm である。主軸方向はN-24°-Wで、北西向きの住居跡である。第34号住居跡と重複関係にあり、第34号の西壁が本遺構のカマドを壊していないこと、本遺構が第34号の床を壊していることより本遺構の方が新しい。また住居跡の北西から南東にかけて第8号溝跡がピット状の断続的

な掘方を持って本遺構を切っていた。カマドは北壁右隅に位置し、残りは悪かった。カマド土層の5層が左袖の残遺であるが、平面では捉えられなかった。4層はカマドを構築する際に埋め戻し、



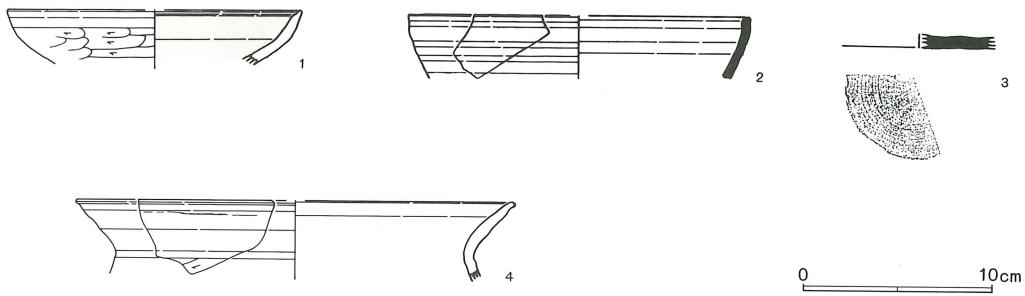
第98図 第33号住居跡



第99図 第33号住居跡カマド

形を整えた掘方と思われる。カマド内に浅い掘込みが2箇所あるのは燃焼部の底ではなく、掘方時のものであろう。カマド右の床面から被熱した片岩を2枚検出した。周溝は幅約15cmで、北壁の一部と東壁を除き全周する。主柱穴と思われるピットはなかった。

遺物1の壺は口縁内面に薄く沈線を持つ。2の椀は口縁内側に明瞭な沈線を持たない。4の甕は口縁外面中位で肥厚した後、内側にへこみ、つまみ出される。遺構の時期は、稻荷前VI期の後半であろう。



第100図 第33号住居跡出土遺物

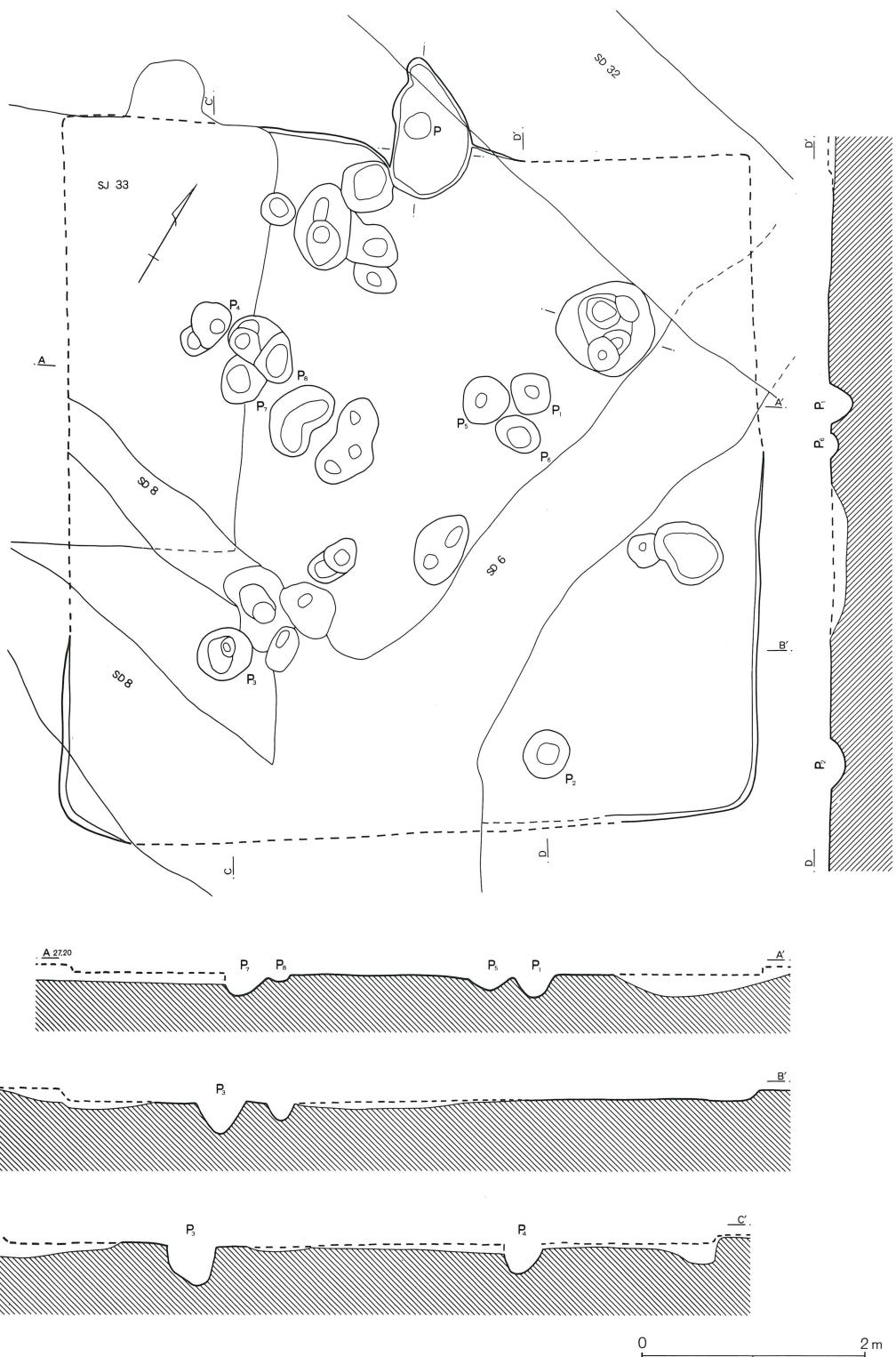
第33号住居跡出土遺物観察表 (第100図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(15.4)			B C G	A	橙	10%	覆土一括、内面赤彩
2	椀	(18.0)			B C F G	A	暗青灰	5%	覆土一括、右回りの回転範削り
3	椀?				B C G	A	暗青灰	5%	P1出土、右回りの回転範削り
4	甕	(23.0)			B C E F G	A	橙	5%	No.1・カマド床上 4 cm

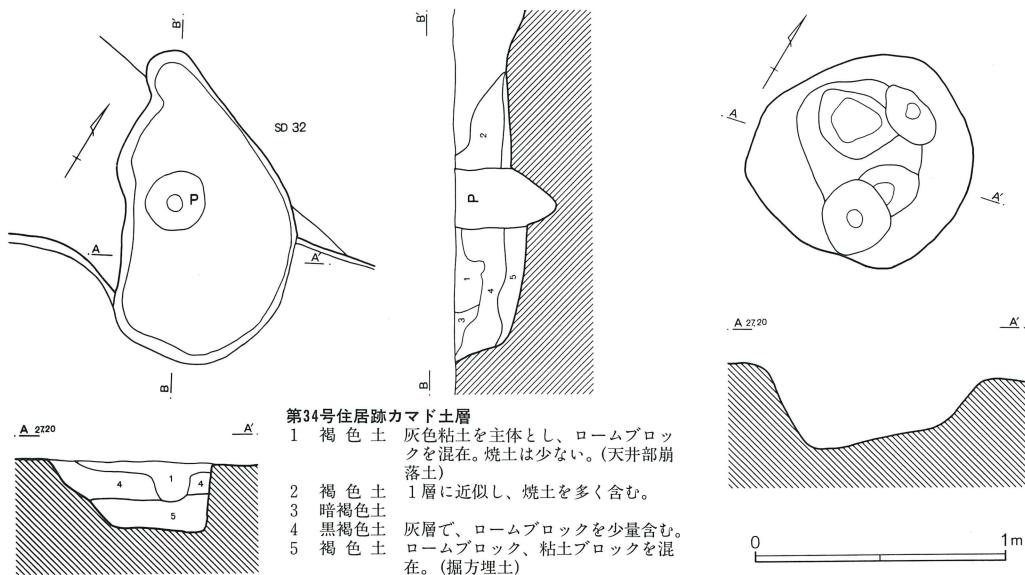
第34号住居跡 (第101~103図)

遺跡南部、H-21グリッドに位置する。形態は長方形で、規模は長径6.3m、短径6.2m、覆土はなかった。主軸方向はN-31°-Wで、北西向きの住居跡である。第33号住居跡と重複し、第33号のカマドを壊していないことから、本遺構の方が古い。第68号溝跡に南側の床を、第32号溝跡によってカマドの一部と北東の壁を切られる。カマドは北壁に位置し、袖がなく、残りがよくない。カマド土層の5層はカマドの掘方を埋めた土であり、本来の火床面は5層の上面である。燃焼部や奥のピットは本住居跡に伴うものではなく、新しい時期のものである。貯蔵穴は底部に4つのピット状の掘込みをもつ不整楕円形で、規模は90cm×85cm、深さは約30cmである。貯蔵穴の位置が壁に寄っていないのでやや疑問が残るが、貯蔵穴として報告しておく。主柱穴はややずれるが、P1・P3・P4の3本であると思われる。

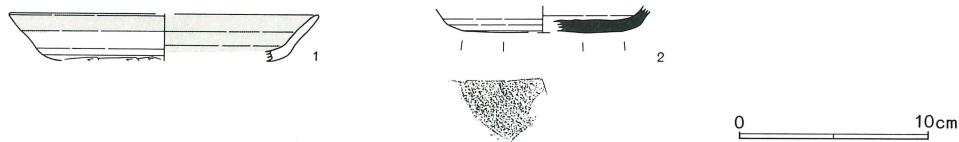
遺物1の皿は赤彩がやや明瞭でなく、内面は斑状に赤彩の痕跡を残すのみである。体部の湾曲がゆるい。2の壺は遺存状態悪く、底部回転糸切りが不明瞭である。遺構の時期は、カマド覆土出土の土師器皿から稻荷前VI期前半であろう。



第101図 第34号住居跡



第102図 第34号住居跡カマド・貯蔵穴



第103図 第34号住居跡出土遺物

第34号住居跡出土遺物観察表 (第103図)

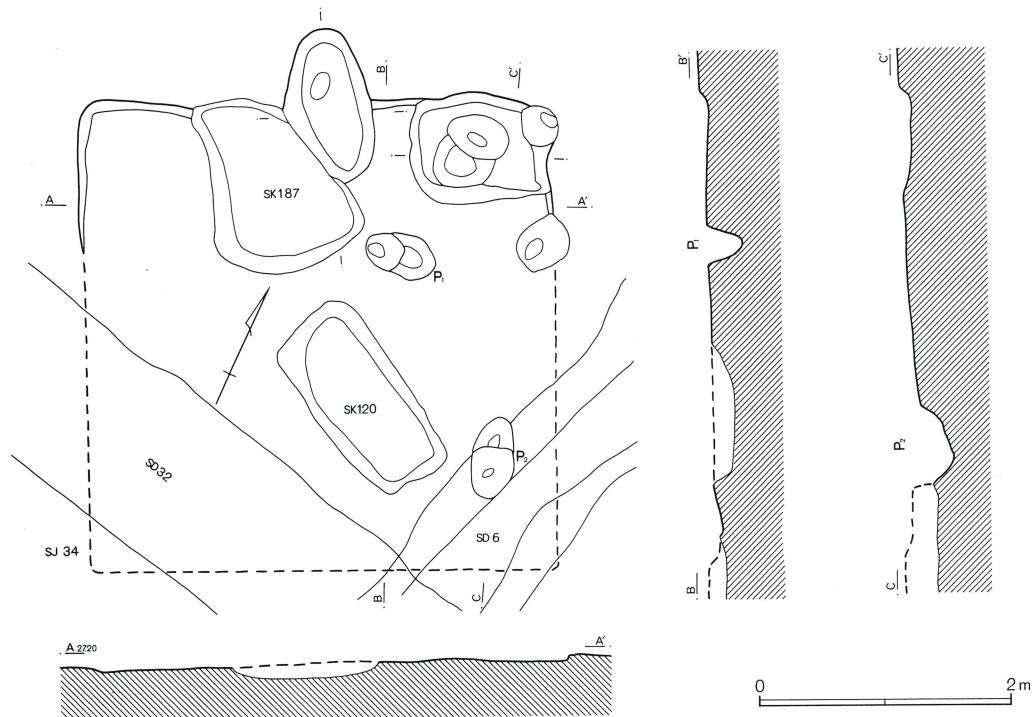
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	皿	(16.2)			B C E G	C	淡橙	15%	カマド覆土、赤彩
2	壺			(8.5)	B C G	A	暗青灰	10%	P2出土、回転糸切後左回りの回転範削り

第35号住居跡 (第104~106図)

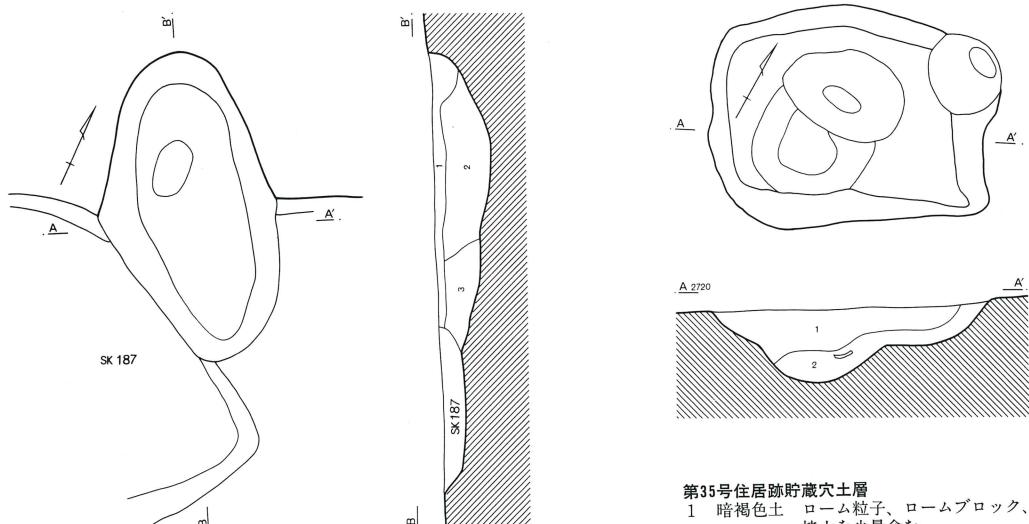
遺跡南部、H-21グリッドに位置する。形態は方形で、規模は遺存した東西方向で3.75m、南北方向は第6・32号溝跡に切られ不明である。主軸方向はN-27°-Wで、北西向きの住居跡である。覆土の掘込みは浅く、南側半分以上は、途中で立上がりってしまった。住居跡内にある第120・187号土壙は本住居跡に伴わないと思われる。住居跡南側には第34号住居跡が隣接する。

カマドは北壁中央に位置し、残り悪く、第187号土壙によって西側を切られていた。燃焼部はやや浅く掘込まれ、徐々に立上がりながら煙道に続く。貯蔵穴は約110cm×85cmの長方形で、深さは約28cmである。底部中央に2つの掘込みをもち、そこから4の蓋を検出した。貯蔵穴右端のピットは本住居跡に伴わないと思われる。主柱穴と思われるピットは検出しなかった。

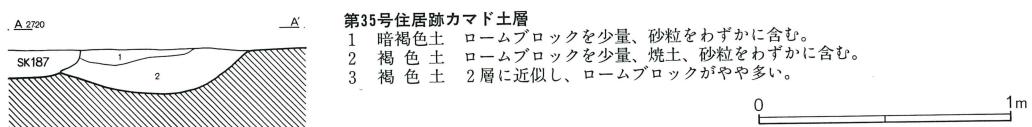
遺物1の壺は色調がやや淡く、白色針状物質を含まない北武藏型の壺である。2の壺底部は右回りの回転範削りである。3の蓋は環状鉢が大きく、天井部は笠形に開く。4の蓋は環状鉢やや小さく、天井部の立上がりは小さい。遺構の時期は稻荷前V期と思われる。



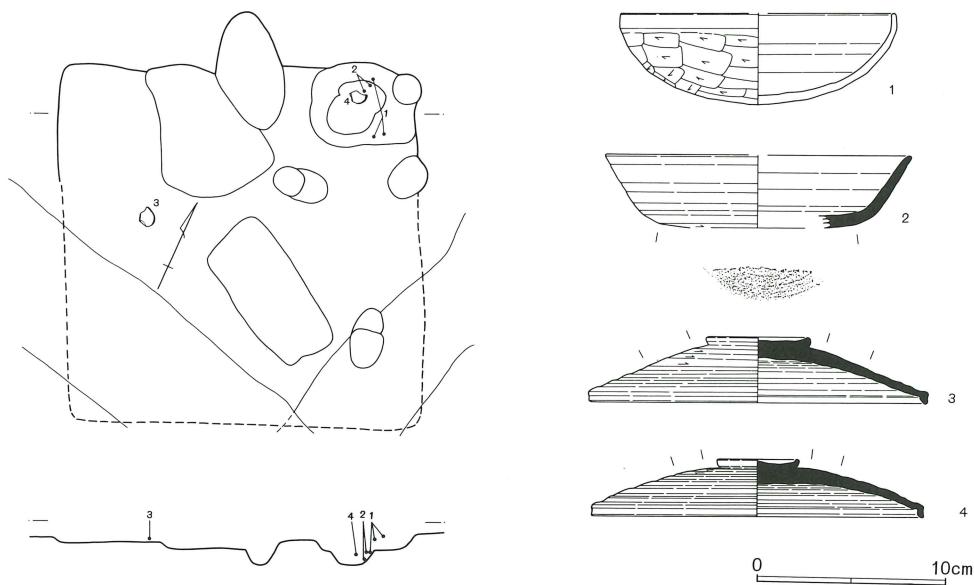
第104図 第35号住居跡



第35号住居跡貯蔵穴土層
 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、焼土を少量含む。
 2 暗褐色土 1層に近似するが、やや暗い。



第105図 第35号住居跡カマド・貯蔵穴



第106図 第35号住居跡出土遺物

第35号住居跡出土遺物観察表 (第106図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(14.4)	4.8		B E G	A	淡橙	45%	No.6・7・8・貯蔵穴床上 4~15cm、北武藏型
2	壺	(16.0)	(3.8)	(10.4)	B C G	A	灰白	20%	No.3・5・貯蔵穴床上 7~14cm
3	蓋	17.8	3.4		B C G	A	暗青灰	70%	No.1・床面直上
4	蓋	(17.4)	3.0		B C G	A	暗青灰	40%	No.2・貯蔵穴床上 15cm

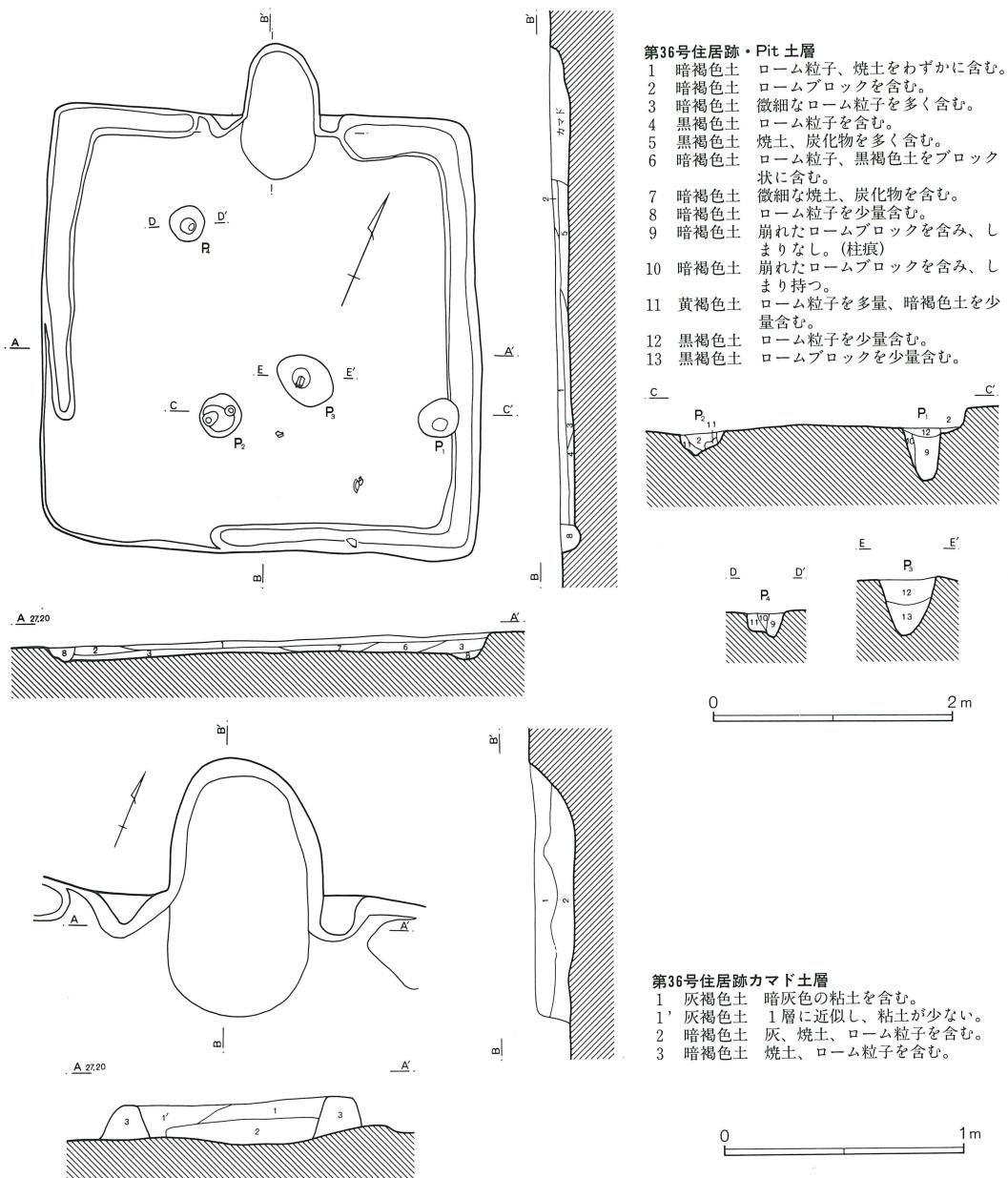
第36号住居跡 (第107・108図)

遺跡南西部、I-20グリッドに位置する。形態は方形で、規模は小さく、長径3.7m、短径3.65m、深さは約12cmである。主軸方向はN-23°-Wで、北西向きの住居跡である。カマドは北壁中央に位置し、残りはよくなかった。袖は小さく残遺し、焚出部が前にやや突出していた。燃焼部は丸底状に堀込まれていたが、住居の床面とほぼ同じレベルであった。周溝は幅約25cmで、カマドと南西コーナーを除き全周する。ピットは4本検出したが、主柱穴と思われるものはなかった。P1とP2は柱痕を持っていた。

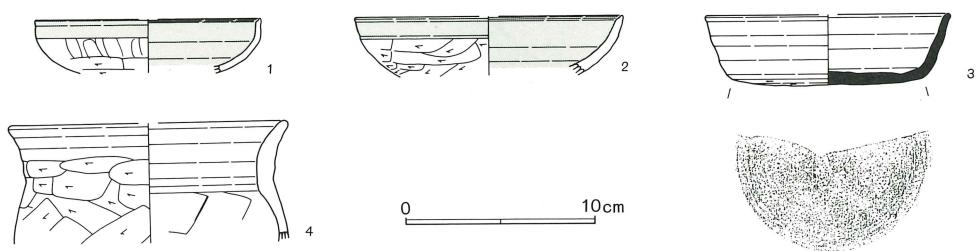
遺物1の壺は器壁が薄い作りで、口縁内面に沈線、体部外面に指押え痕を持つ。2の壺は器壁や厚く、口縁内面に微妙な沈線を持つ。3の壺は底径が大きく、体部の外反が少ない。遺構の時期は稻荷前VI期であろう。

第36号住居跡出土遺物観察表 (第108図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(12.0)			B C E G	A	淡橙	10%	覆土一括、赤彩
2	壺	(14.0)			B C G	A	橙	10%	覆土一括、赤彩
3	壺	(12.8)	3.7	10.0	B C G	A	暗青灰	50%	No.2・床上10cm、左回りの回転窓削り
4	台付甕	(14.3)			B C E F G	A	橙	10%	No.4・P3床上50cm



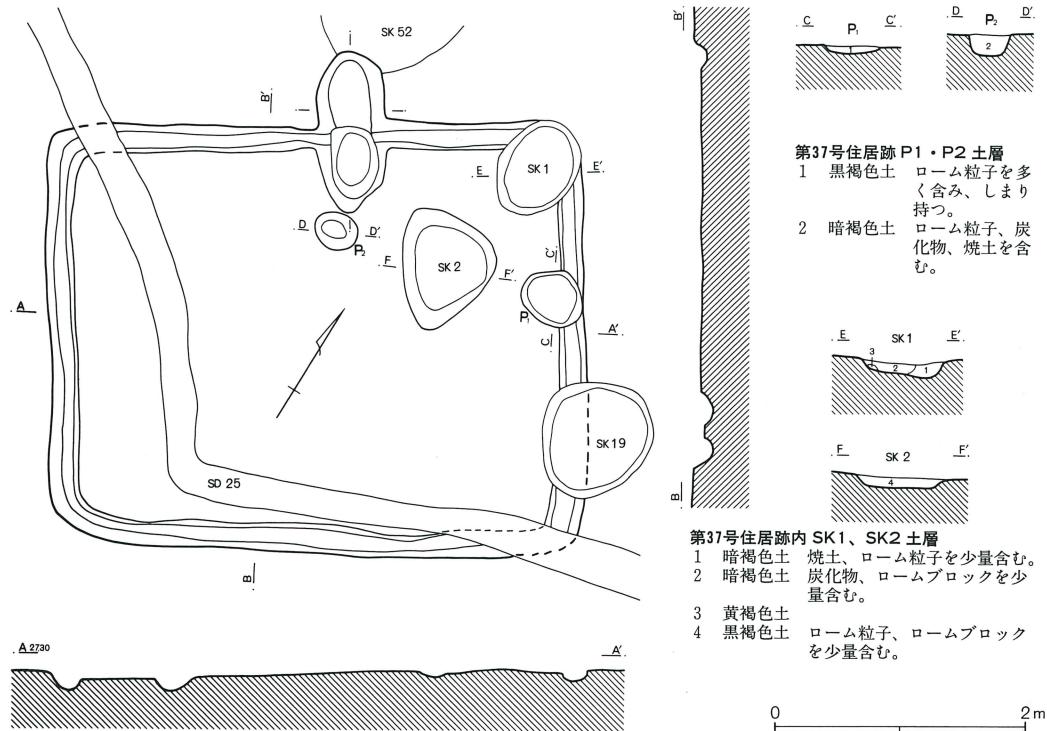
第107図 第36号住居跡・カマド



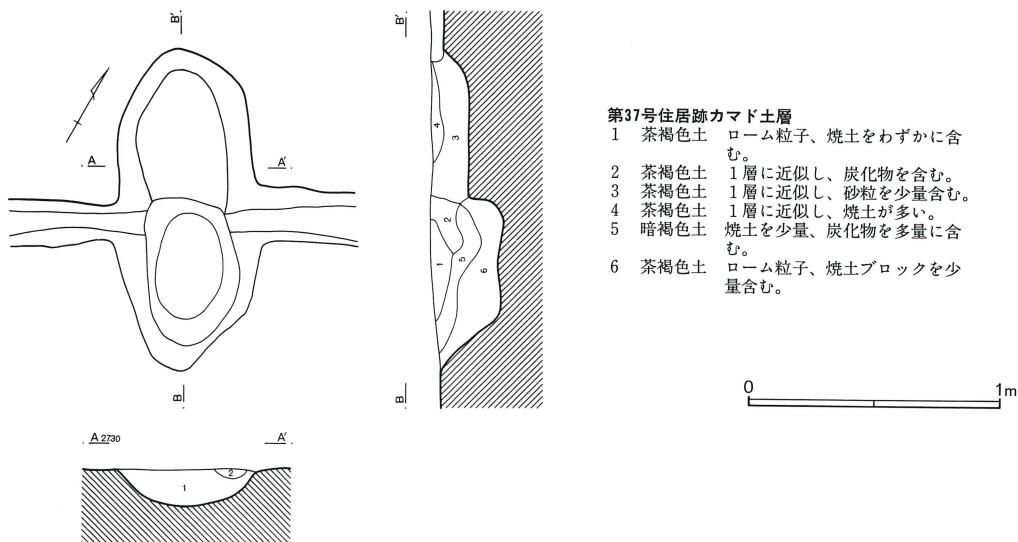
第108図 第36号住居跡出土遺物

第37号住居跡（第109～111図）

遺跡西部、G-20グリッドに位置する。形態は横長の長方形で、規模は長径4.3m、短径3.35m、覆土はなかった。主軸方向はN-30°-Wで、北西向きの住居跡である。第25号溝跡に北壁から南壁にかけて切られていた。カマドは北壁中央よりやや右側に位置する。袖はなく、残り悪かった。焚口部には深い丸底状の掘込みが検出され、カマド土層の6層は構築時の掘方であると思われる。



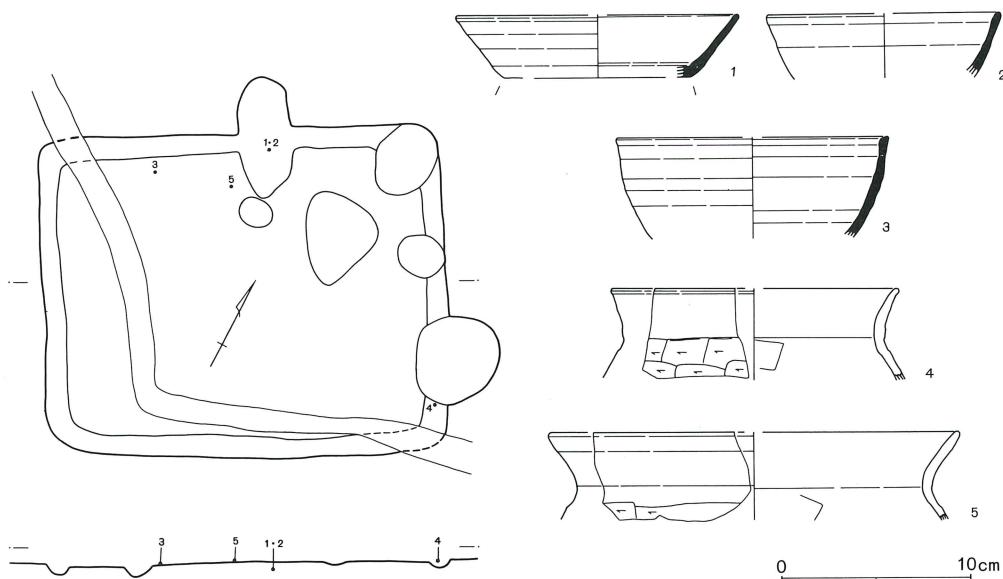
第109図 第37号住居跡・住居内1、2号土壌



第110図 第37号住居跡カマド

断面観察では3層、6層がカマドの掘方、1、2、4、5層が燃焼部または天井部崩落土に該当すると考えられる。カマド右側のSK1、SK2は本住居跡に覆土がないので、伴うかどうか不明であるが、住居内1、2号土壙として報告する。住居内1号土壙は貯蔵穴の可能性もある。周溝は幅約20cmで、住居跡内を全周する。ピットは2本検出されたが、主柱穴になるものはなかった。

遺物1の須恵器壺は焼成がよくなく、体部の色調は緑灰だが、底部は褐色気味である。2の壺は内面のロクロナデが粗く、体部中位から口縁部にかけて器壁が薄くなっている。遺構の時期は出土遺物から稻荷前VII期であろう。



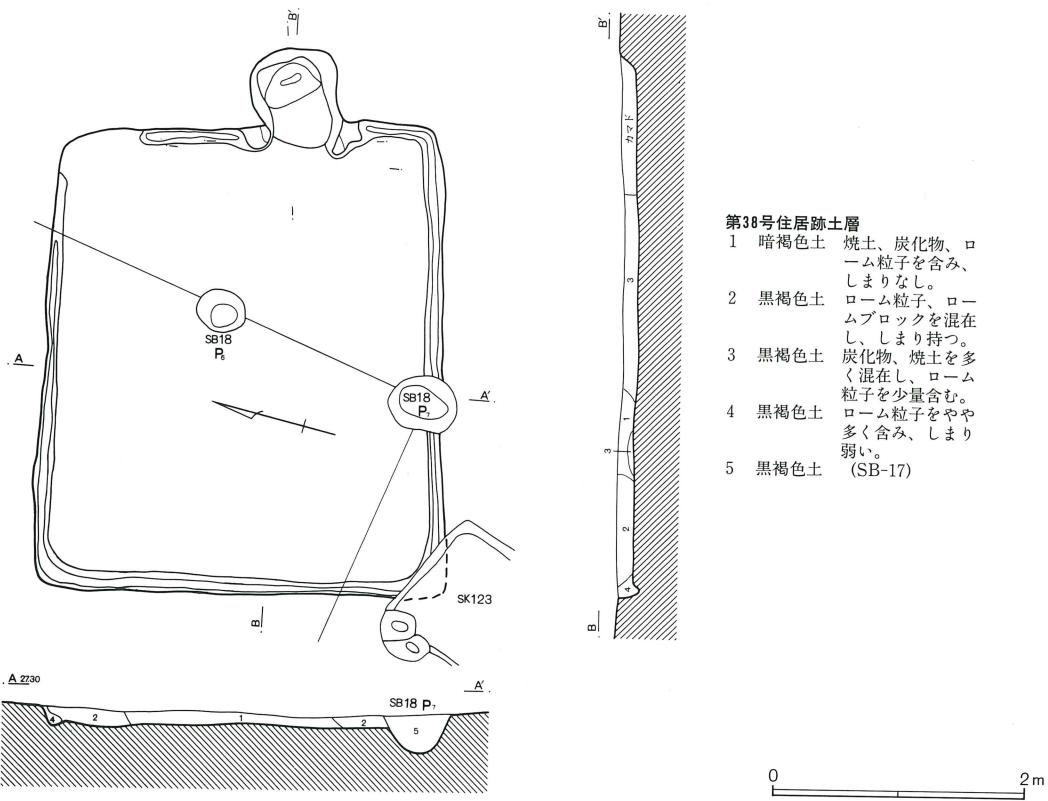
第111図 第37号住居跡出土遺物

第37号住居跡出土遺物観察表（第111図）

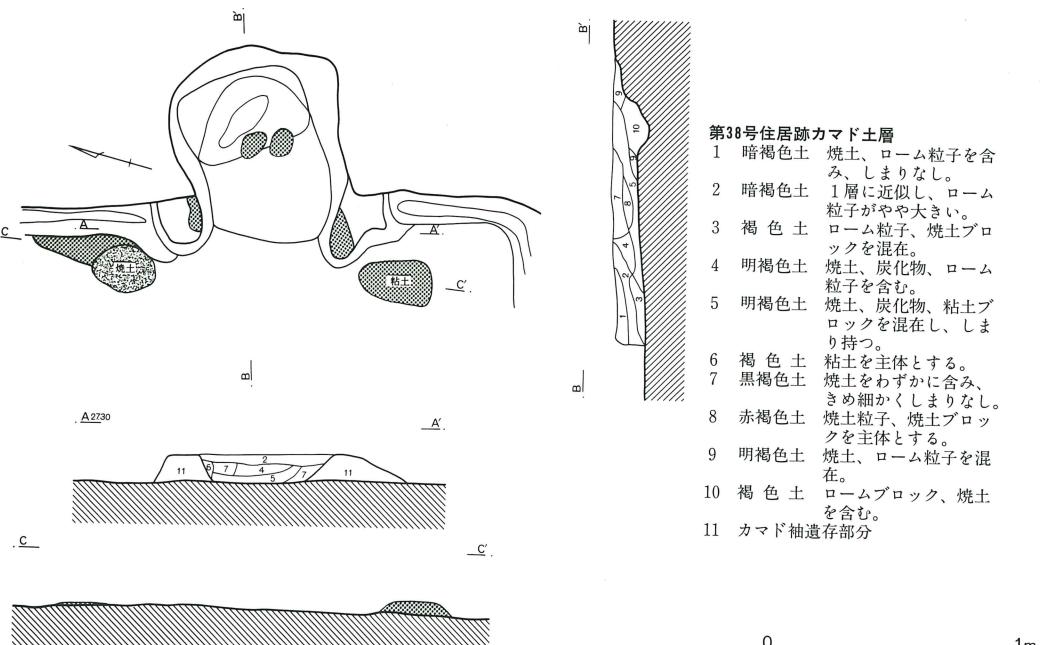
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(14.8)		(9.9)	A B C F G	C	緑灰	15%	No.53・カマド床上8cm、左回りの回転範削り
2	壺	(12.1)			B C F G	A	暗青灰	10%	No.53・カマド床上 8 cm
3	椀	(14.3)			B C F G	A	暗青灰	15%	No.9・床上 1 cm
4	甕	(15.0)			A B E G	A	橙	10%	No.25・床上 9 cm
5	甕	(21.5)			B E F G	B	にぶい橙	15%	No.22・床上 4 cm

第38号住居跡（第112～115図）

遺跡西部、F-19グリッドに位置する。第18号掘立柱建物跡、第123号土壙に切られていた。形態は縦長の長方形で、規模は長径3.75m、短径3.28m、深さは約12cmである。主軸方向はN-75°-Eで、ほぼ東向きの住居跡である。カマドは東壁やや南寄りに位置する。カマド土層の9・10層はカマド構築時の掘方で、5層が天井部崩落土であると思われる。粘土がカマド両袖、燃焼部、床面に、ブロック状に残されていた。周溝は幅約14cmで、北西コーナーを除き全周した。主柱穴やピットは検出しなかった。土層観察から第18号掘立柱建物跡に切られていることが確認できた。



第112図 第38号住居跡

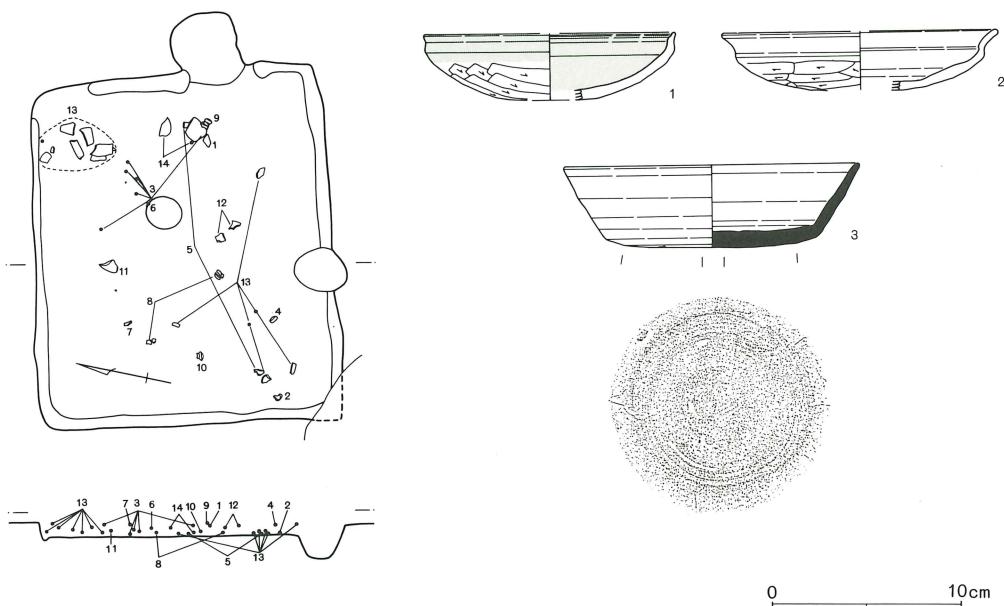


第113図 第38号住居跡カマド

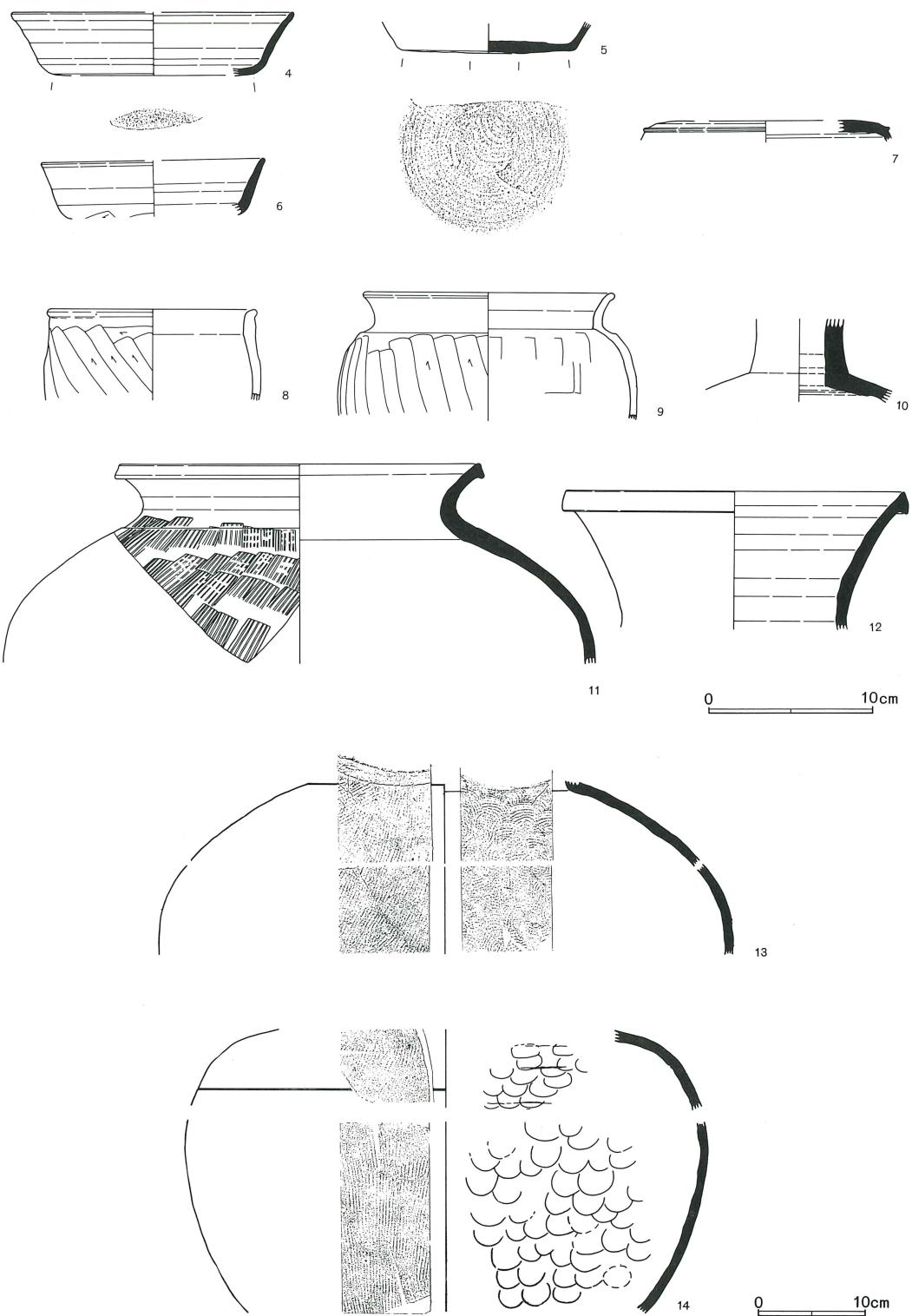
遺物1の壺は底部、体部とも器壁が厚めで、口縁部内面に明瞭な沈線を持ち、白色針状物質を含む在地産の土器である。2の壺は体部が大きく外反し、色調が淡く、白色針状物質を含まない北武蔵系の土器である。3の須恵器壺は焼成悪く、底部は回転糸切り後、左回りの回転籠削りで、体部はほぼ直線的に外反する。13、14の甕は大形の土器で、共に外面はタタキ、内面は当て具痕を持つ。14は外面タタキ後、浅いが鋭い沈線を持つ。遺構の時期は稻荷前V期であろう。

第38号住居跡出土遺物観察表（第114・115図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(13.2)			B C G	B	橙	20%	No.20・床上5cm、赤彩
2	壺	(14.2)			A B E G	A	淡橙	15%	No.21・床面直上、北武蔵系
3	壺	15.5	4.3	11.2	B C F G	B	灰白	90%	No.2・9・10・12・42・床上3~11cm
4	壺	(16.9)	(3.8)	(12.0)	B C G	B	暗青灰	15%	No.25・床上7cm、右回りの回転籠削り
5	壺			10.8	B C F G	A	暗青灰	40%	No.19・24・床上1~2cm
6	壺	(13.4)			A B C G	A	暗青灰	10%	No.33・床上5cm、手持ち籠削り
7	蓋				B C F	A	暗青灰	15%	No.35・床上10cm
8	甕	(12.4)			A B G	C	赤褐	15%	No.29・34・床上4cm
9	甕	(15.0)			B C F G	A	赤褐	15%	No.50・床上9cm
10	長頸壺				B C G	A	灰白	15%	No.31・床上3cm
11	甕	(21.8)			B C G I J	D	灰白	20%	No.41・床上5cm、外面はタタキ
12	甕	(20.6)			B F G	A	灰白	20%	No.44・45・床上3~8cm、自然釉付着
13	甕				B C G	C	灰白	30%	No.4・5・7・8・26・床上1~7cm
14	甕				B C G J	A	灰白	30%	No.18・14・床面直上~5cm、自然釉付着



第114図 第38号住居跡出土遺物 (1)

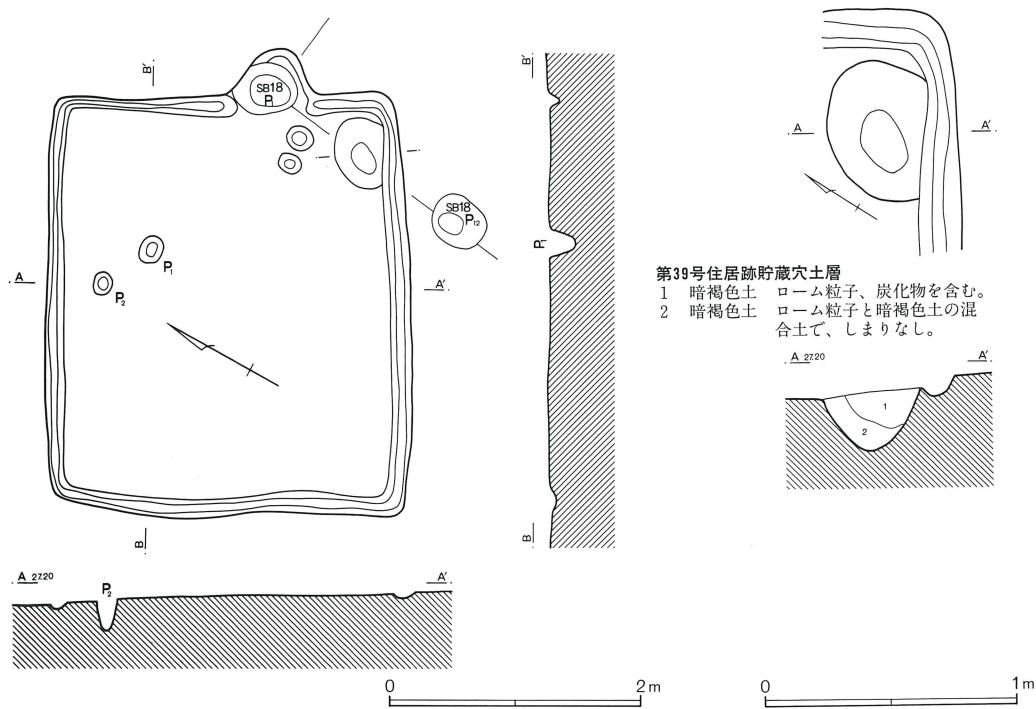


第115図 第38号住居跡出土遺物 (2)

第39号住居跡（第116・117図）

遺跡西部、F-19グリッドに位置する。形態は長方形で、規模は小さく、長径3.35m、短径2.78mで、覆土はなかった。主軸方向はN-61°-Eで、北東向きの住居跡である。カマドが東壁南寄りに位置するが、第18号掘立柱建物跡に大きく切られていたので、実態は不明である。貯蔵穴は約55cm×40cmの楕円形で、深さは約25cmである。周溝は幅約17cmで全周する。ピットは4本検出されたが主柱穴を構成するものはなかった。

遺物はほとんどなかったが、底部左回りの回転箇削りの須恵器坏の小片が覆土一括で検出された。また第117図の出土遺物は本遺構のカマドを切る第18号掘立柱建物跡のP1から検出されたものであるが、本遺構に伴うと考えられる。というのは第18号掘立柱建物跡は、古代の遺構である第38号住居跡・第18号井戸跡を切る、古代より新しい中世の遺構であるからである。遺物1の蓋は環状鉢で、天井部肩から口縁部にかけて器壁が薄い。2の蓋も環状だが1より大きく、厚みを持つ。本遺構の時期は出土遺物から稻荷前VI期であろう。



第116図 第39号住居跡・貯蔵穴



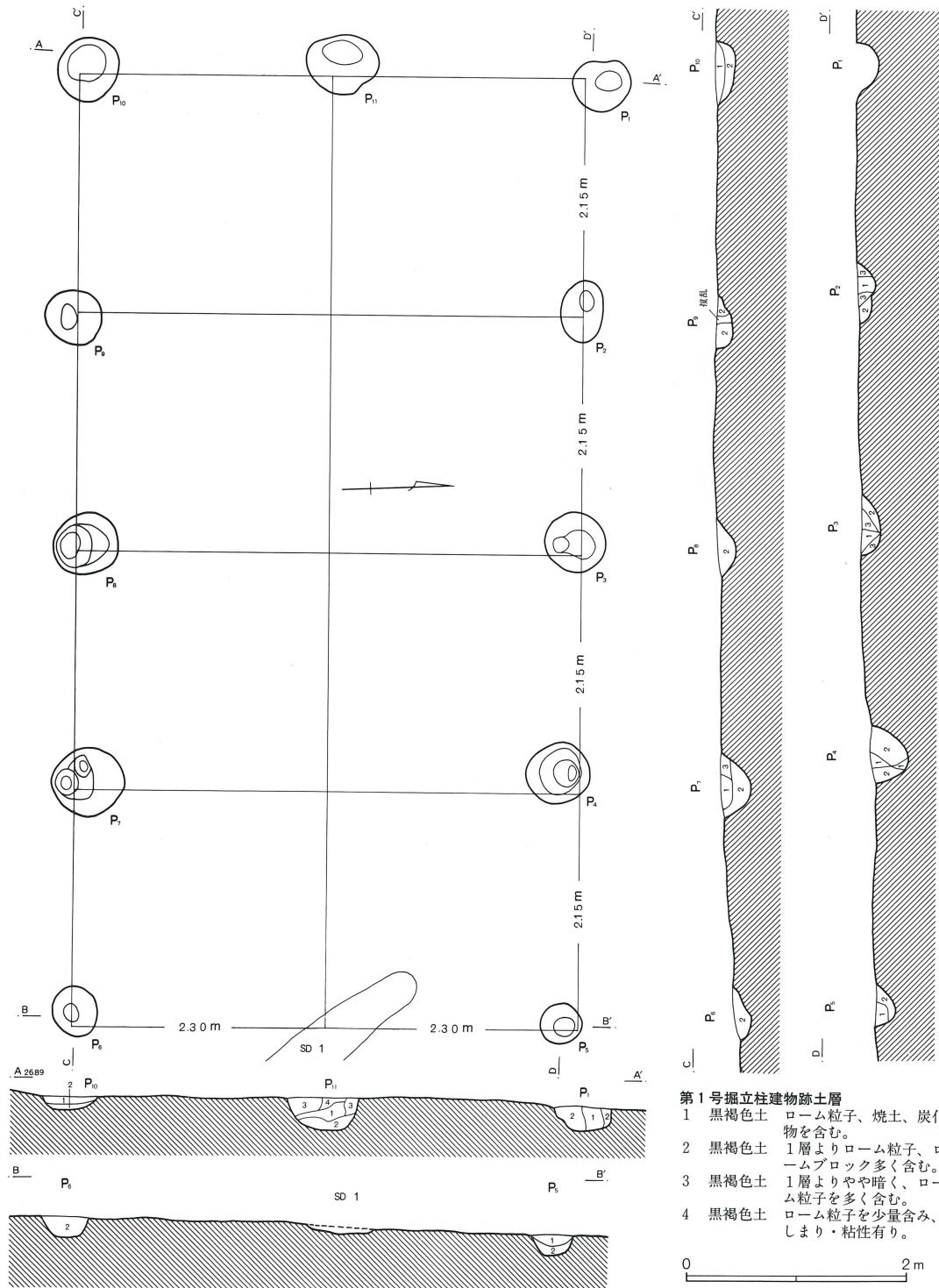
第117図 第39号住居跡出土遺物

第39号住居跡出土遺物観察表（第117図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	蓋	(17.4)	3.2		B C G	A	暗青灰	30%	SB18・P1出土
2	蓋				B C G	A	灰白	15%	SB18・P1出土、外面に自然釉付着

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第118図）

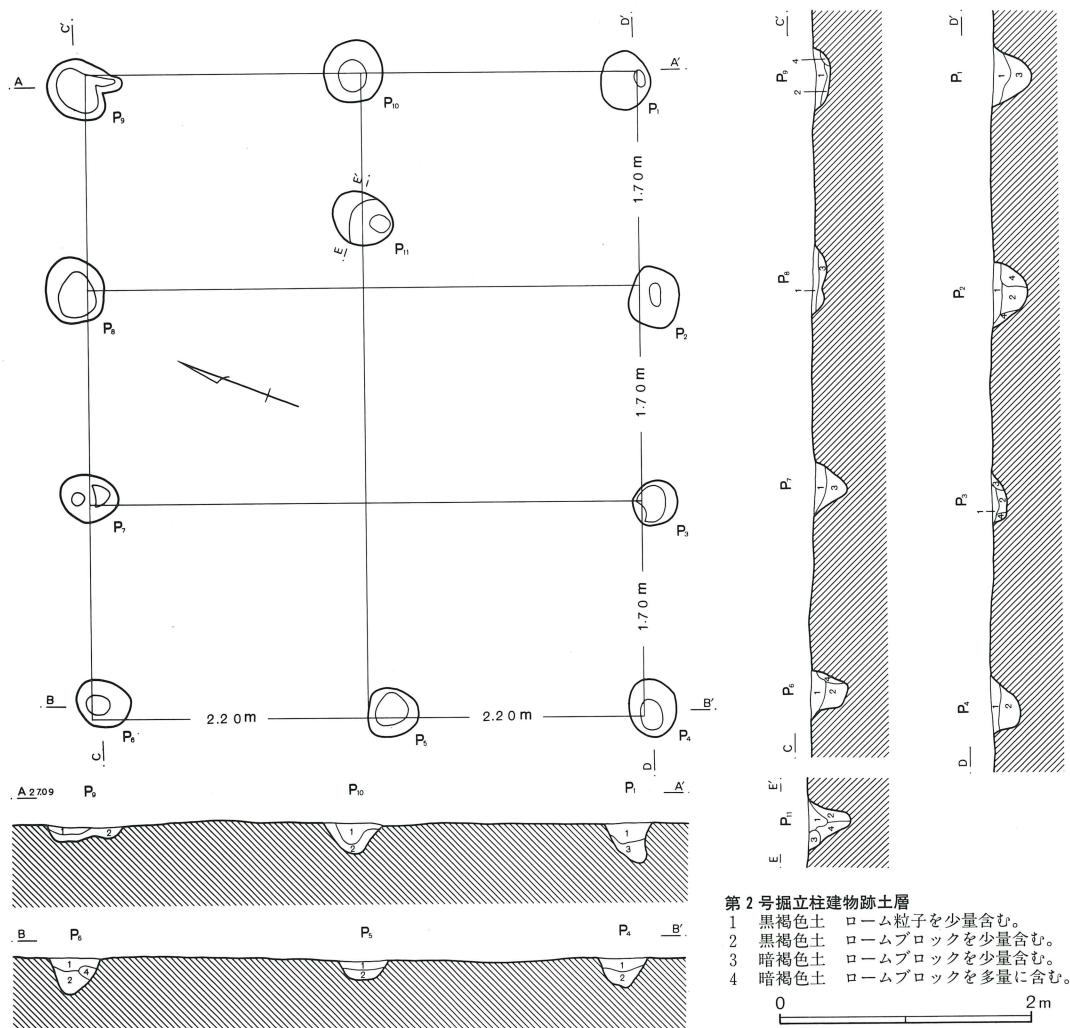


第118図 第1号掘立柱建物跡

遺跡北東端、C-27グリッドに位置する。主軸方位はN-87°-Wでほぼ東西を向く。桁行は4間で8.6m、柱間は2.15m。梁行は2間で4.6m、柱間は2.3m。柱穴は径約65cmのほぼ円形のものが多く、深さは約25cm、柱痕が確認できたのはP1、P2、P4、P7で、土層断面の1層が該当する。浅い第1号溝跡に東側梁の柱穴が切られていた。出土遺物は8世紀と思われる土師器の小片を検出したが、付近の第2、3、4号住居跡が北西方向の主軸であるのに、本遺構はほぼ東西で主軸を異にすることから中世の遺構と想定される。

第2号掘立柱建物跡（第119図）

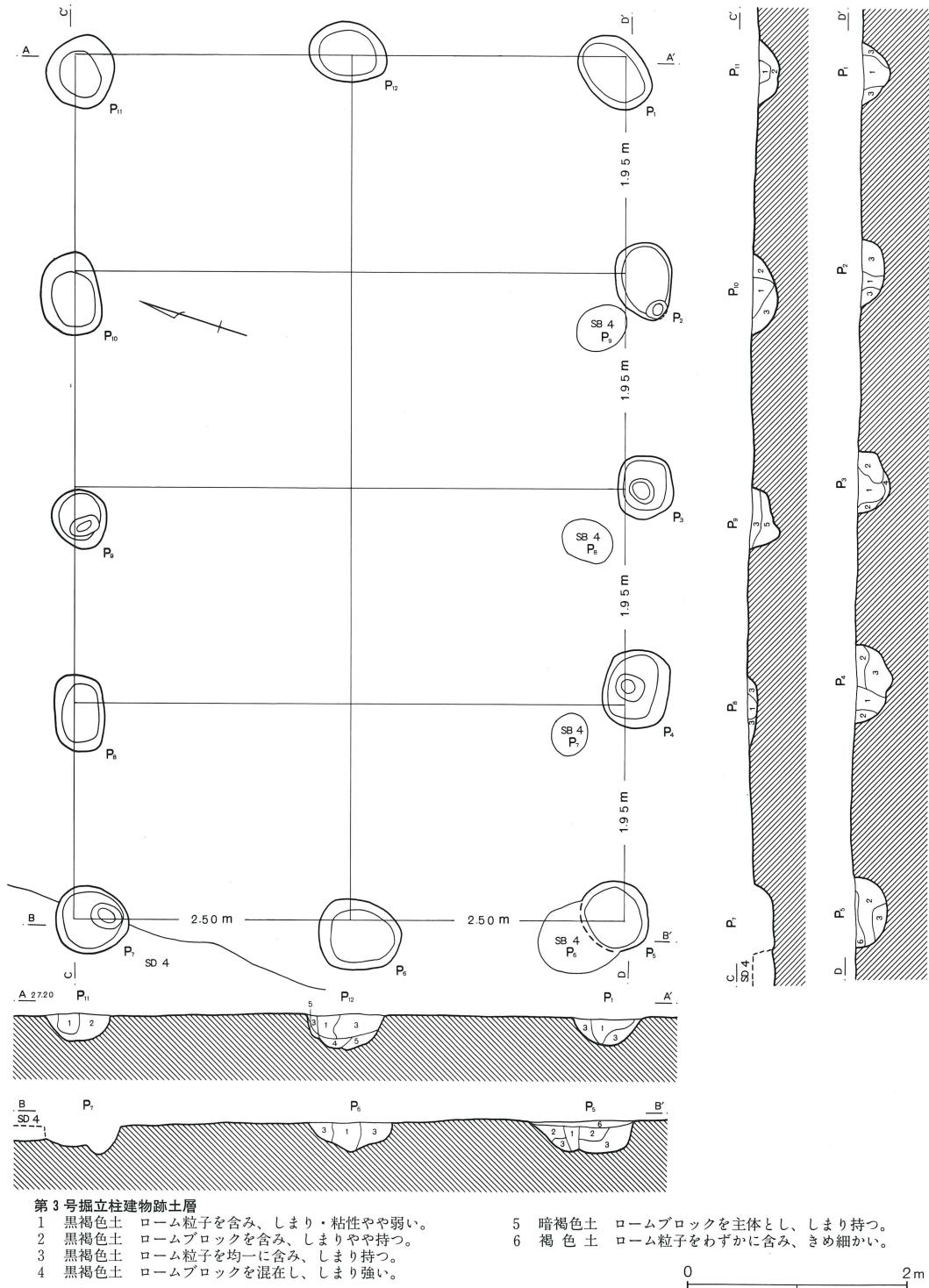
遺跡東端、F-26グリッドに位置する。主軸方位はN-70°-Eで東西方向の建物跡である。桁行は3間で5.1m、柱間は1.7m。梁行は2間で4.4m、柱間は2.2m。柱穴は径約50cmのほぼ円形のものが多く、深さは約25cmほどである。柱痕ははっきりしないものが多くた。遺構中央にあるP11は、本遺構に伴わないと思われる。出土遺物はなかった。付近に隣接する住居跡と主軸をほぼ同じくすることから遺構の時期は古代と想定される。



第119図 第2号掘立柱建物跡

第3号掘立柱建物跡（第120図）

遺跡北部、E-24グリッドに位置する。主軸方位はN-73°-Eで、ほぼ東西方向の建物跡である。

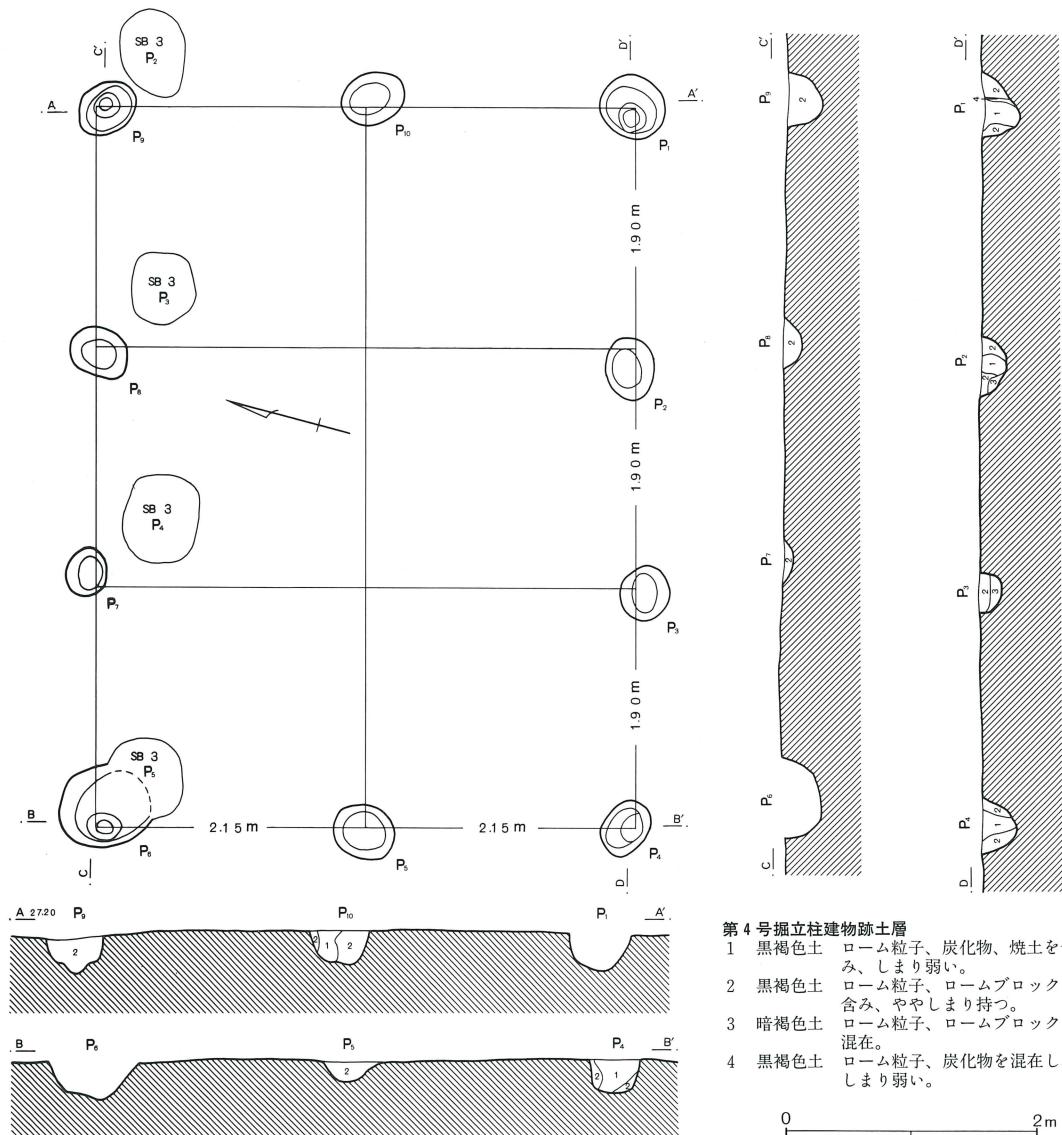


第120図 第3号掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡と重複し、本遺構のP5で第4号のP6と切合、P5の土層の1層は第4号の柱痕で、本遺構が切られていることが確認できた。桁行は4間で7.8m、柱間は1.95m。梁行は2間で5m、柱間は2.5m。柱穴は約70cm×50cmほどのやや角張った楕円形のものが多く、深さは約30cmであった。柱痕が観察できた柱穴が多い。出土遺物はなかった。付近の住居跡と主軸をほぼ同じくすることから、遺構の時期は古代と想定される。

第4号掘立柱建物跡（第121・122図）

遺跡北部、E-24グリッドに位置する。主軸方位はN-75°-Eで、ほぼ東向きの遺構である。第3号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が切る。桁行は3間で5.7m、柱間は1.9m。梁行は2間で4.3m、柱間は2.15m。柱穴は約50cm×40cmの楕円形が多く、深さは約25cm。四隅の柱穴が大きく、柱痕が観察できたのはP1、P2、P4、P5、P6である。遺構の時期は付近の住居跡とほぼ主軸を同じくすること



第121図 第4号掘立柱建物跡

から古代、出土遺物の蓋から稻荷前VIII期であろう。



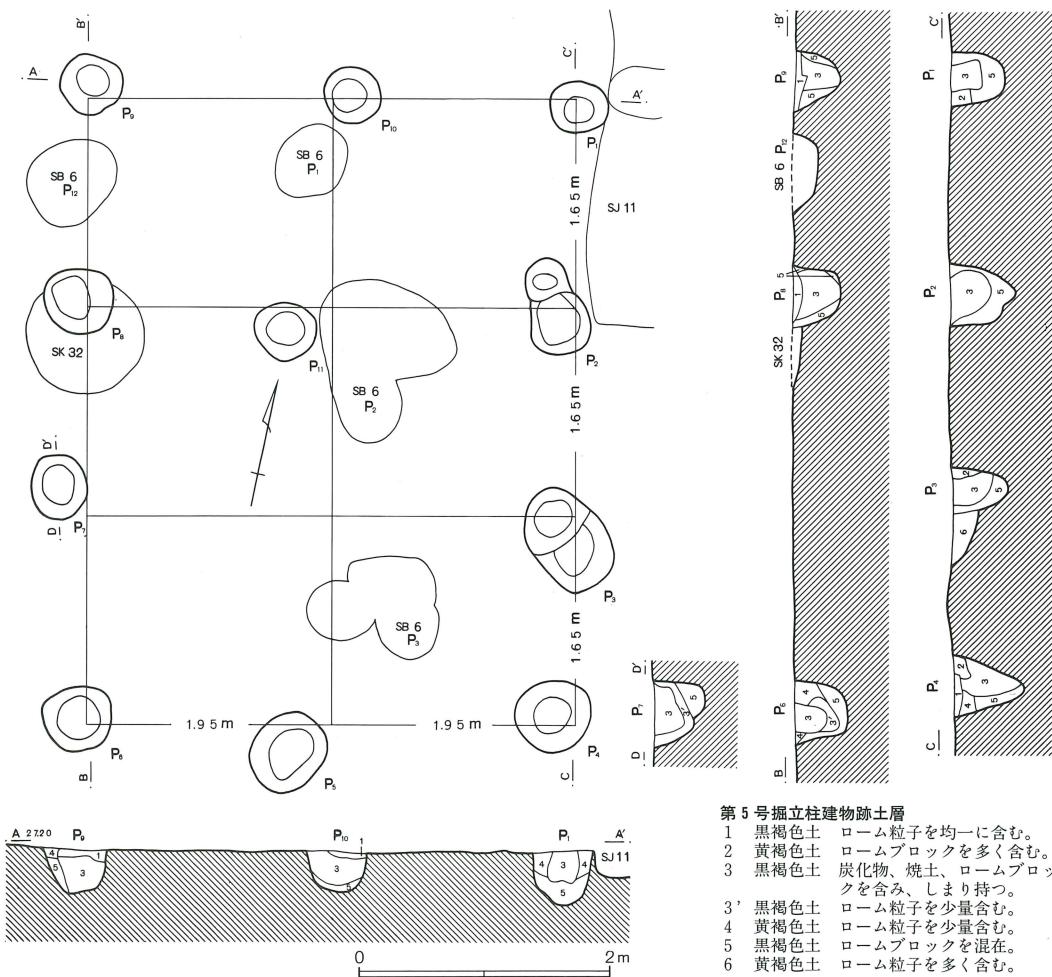
第122図 第4号掘立柱建物跡出土遺物

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	蓋	(14.4)			B C G	A	暗青灰	5%	P5出土

第5号掘立柱建物跡 (第123・124図)

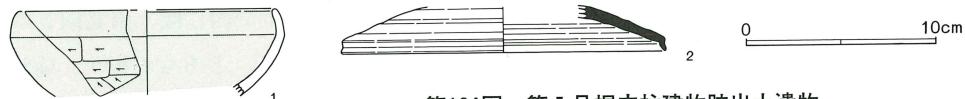
遺跡東部、H-25グリッドに位置する。主軸方位はN-11°-Wで、南北方向の建物跡である。桁行は3間で4.95m、柱間は1.65m。梁行は2間で3.9m、柱間は1.95m。柱穴は径約55cmのほぼ円形のものが多々、深さは約35cmほどである。南側の梁の柱穴P5がややずれる。柱穴は柱痕が観察できたものが多い。中央部のP11はP5と同じようにずれるので、本遺構に伴うと思われる。P5から土師器の壺、P6から須恵器の蓋を検出。1の土師器壺は6世紀の古い様相を持つ土器で、混入遺物であろう。2は口径の大きい蓋と推定でき、焼きがよい。遺構の時期は出土遺物から稻荷前IX期であろう。



第123図 第5号掘立柱建物跡

第5号掘立柱建物跡土層

- 1 黒褐色土 ローム粒子を均一に含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 炭化物、焼土、ロームブロックを含み、しまり持つ。
- 3' 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 4 黄褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 5 黑褐色土 ロームブロックを混在。
- 6 黄褐色土 ローム粒子を多く含む。

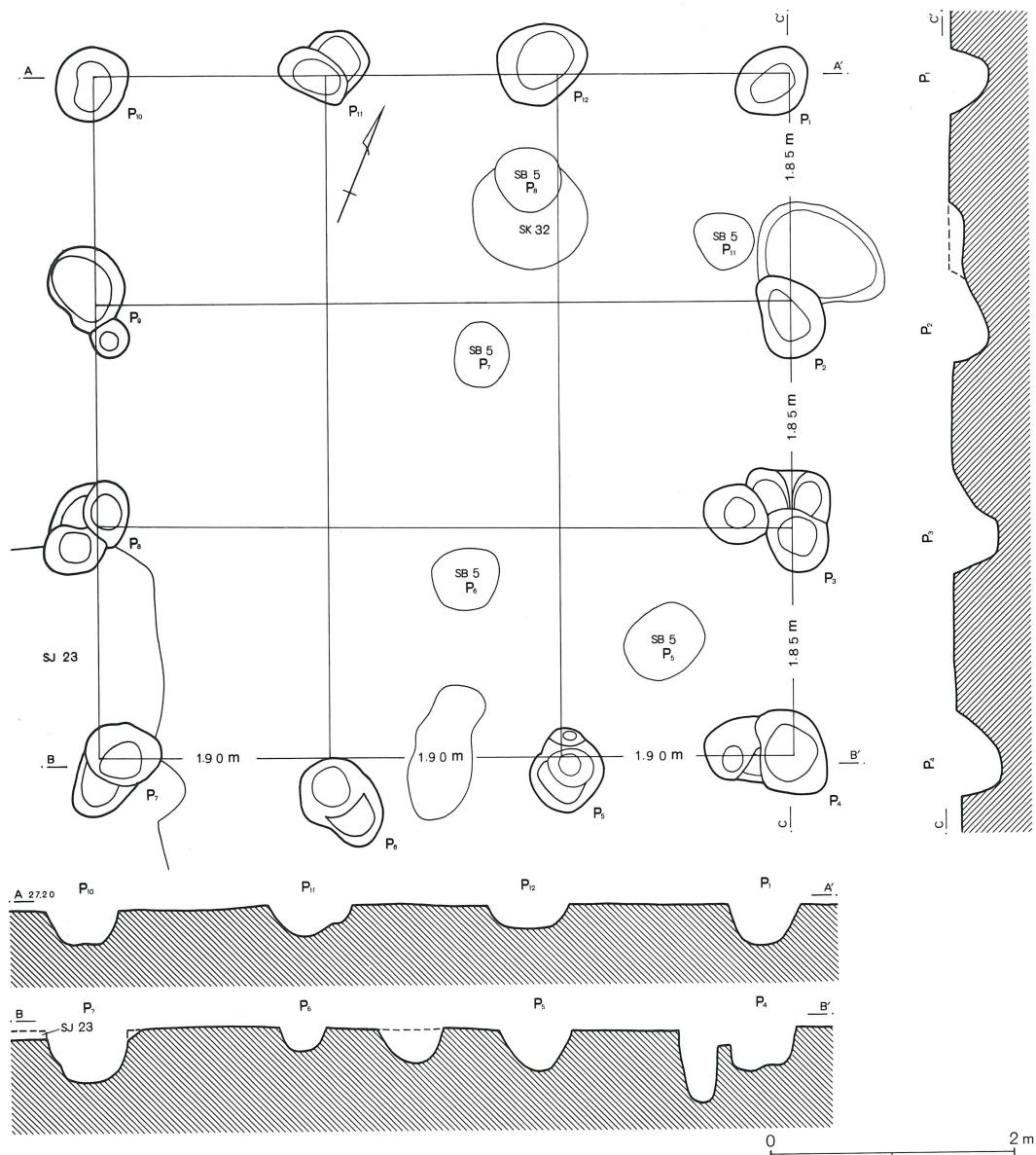


第124図 第5号掘立柱建物跡出土遺物

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第124図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(13.5)			B C E G	A	赤褐	5%	P5出土
2	蓋	(17.1)			B C G	A	暗青灰	10%	P6出土

第6号掘立柱建物跡 (第125・126図)



第125図 第6号掘立柱建物跡

遺跡東部、H-25グリッドに位置する。主軸方位はN-22°-Wで、やや西に傾く南北向きの建物跡で、第23号住居跡のカマドを切っていた。3間×3間のほぼ正方形で、どちらが桁か、梁かはっきりしない。南北は5.55m、柱間は1.85m。東西は5.7m、柱間は1.90m。柱穴は70cm×55cmほどの楕円形のものが多く、深さは約30cmである。出土遺物はP7から1の土師器壺、P8から2の須恵器壺を検出した。1は器壁がやや厚く、口縁部外面は内湾し、内面に沈線が巡る。2は器壁薄く、焼きのよい土器で、ロクロナデによる凹凸を残し、口縁外面先端でやや摘み出している。遺構の時期は出土遺物から稻荷前VII期であろう。



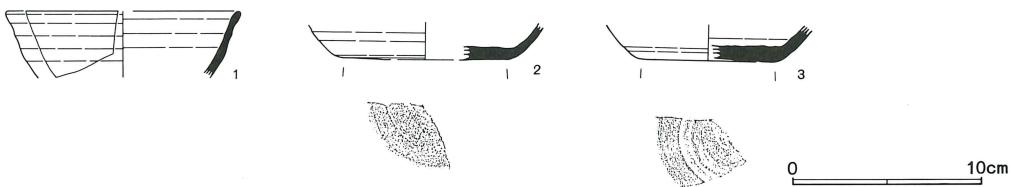
第126図 第6号掘立柱建物跡出土遺物

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第126図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(15.6)			B C G	B	橙	10%	P7出土、赤彩
2	壺	(14.2)			B C G	A	暗青灰	5%	P8出土

第7号掘立柱建物跡（第127・128図）

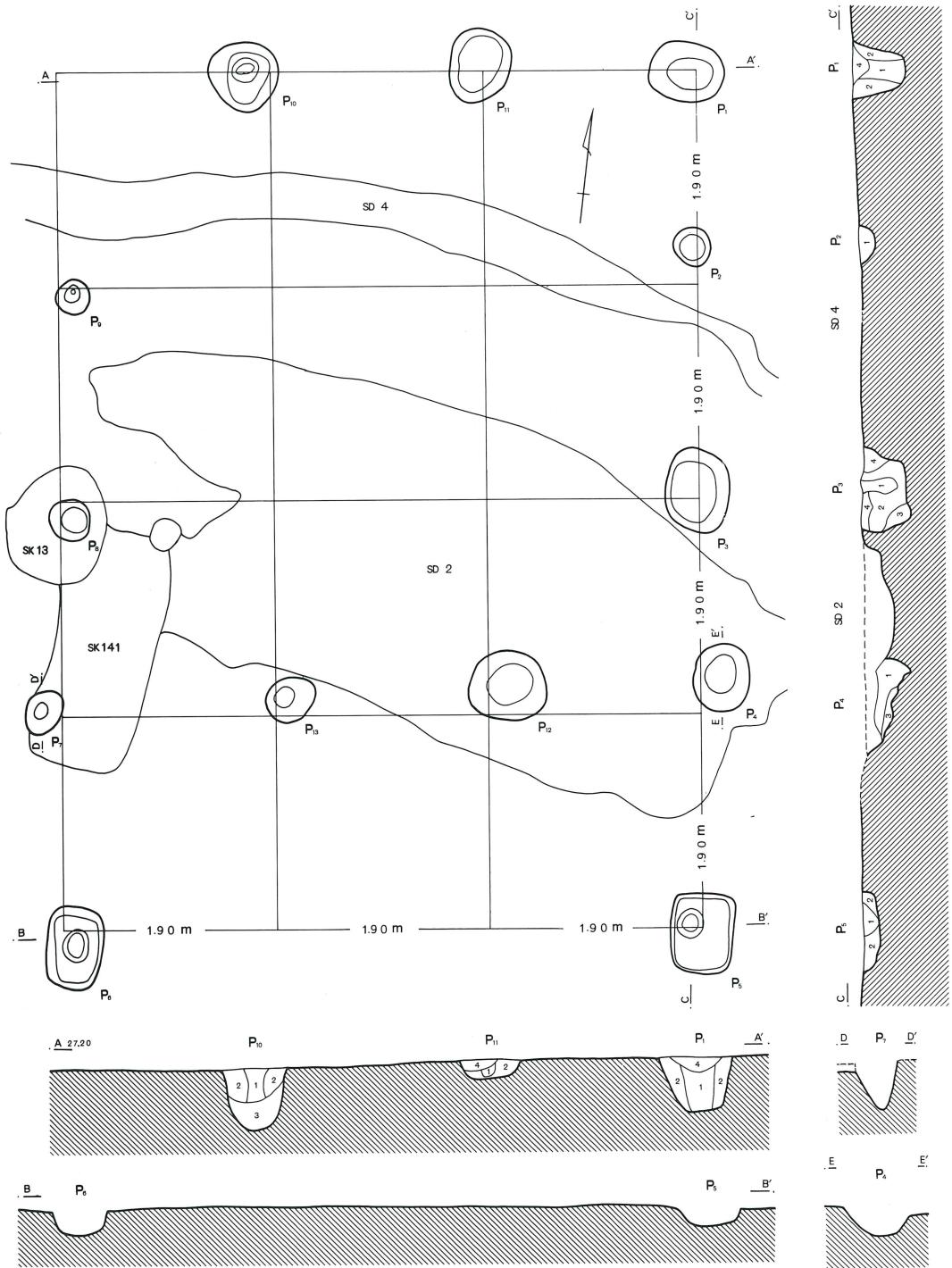
遺跡中央部、F-23グリッドに位置する。主軸方位はN-8°-Wでほぼ南北向きの建物跡である。第4号溝跡と第2号溝跡、第141号土壙に切られていた。桁行は4間で7.6m、柱間は1.9m。梁行は3間で5.7m、柱間は桁行と同じで1.9m。柱穴は約70cm×50cmの楕円形のものと、約70cm×50cmの隅丸方形のものの2種類があった。深さは浅いものは約20cm、深いものは約50cmである。P5から須恵器の壺を検出した。1の壺は色調が青みがかった土器で、ロクロナデによる外面の凹凸があり、口縁部がやや厚い。2、3は底部左回りの回転笠削りである。遺構の時期は出土遺物から稻荷前IX期であろう。



第127図 第7号掘立柱建物跡出土遺物

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第127図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(12.1)			B C G	A	暗青灰	5%	P5出土
2	壺			(8.6)	B C E G	C	オーブ灰	10%	P5出土
3	壺			(7.1)	B C G	A	暗青灰	5%	P5出土



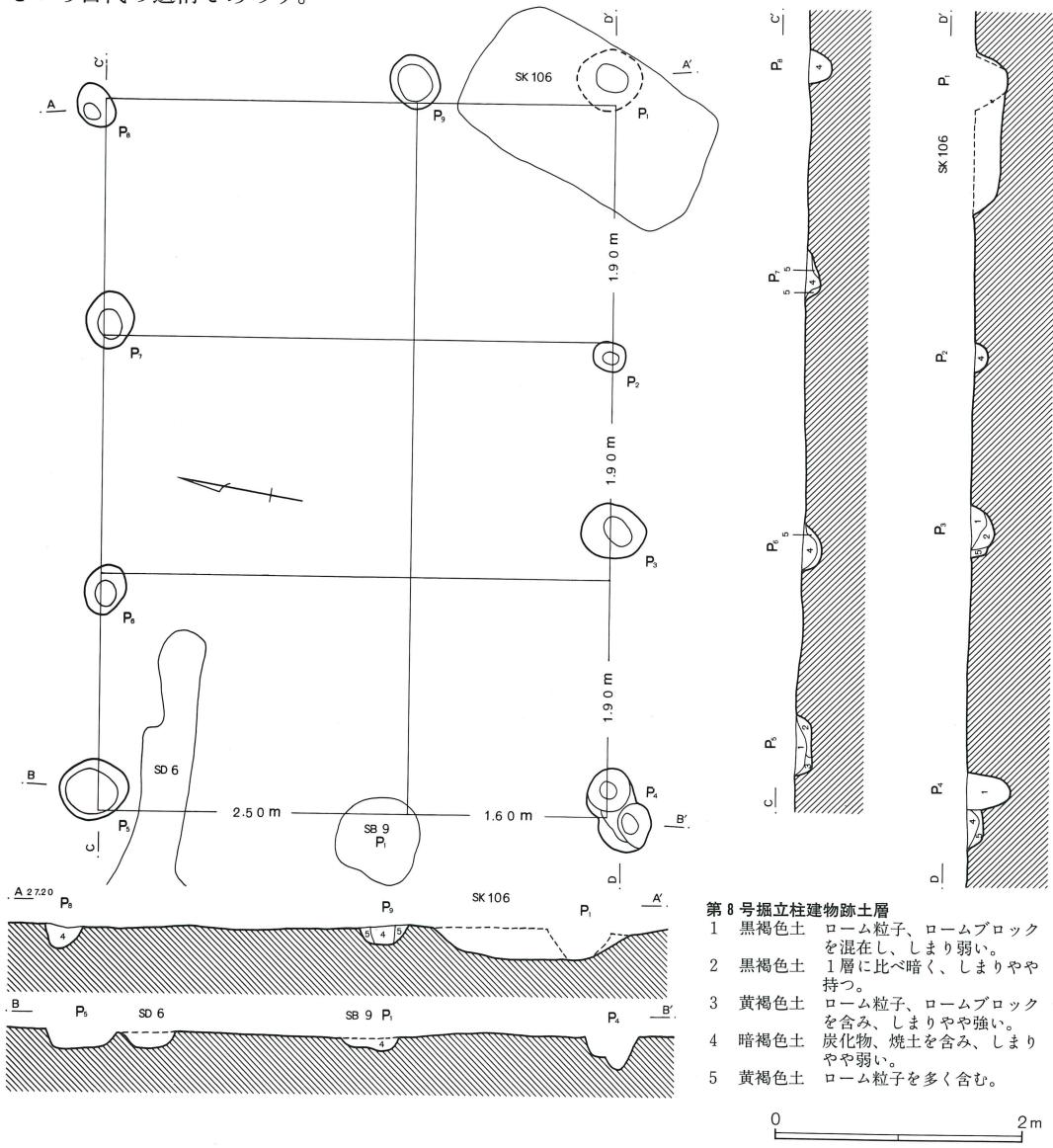
第7号掘立柱建物跡層
 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含み、しまりやや弱い。
 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含み、しまりやや持つ。
 3 暗褐色土 2層に比べロームブロックは小さく、しまり持つ。
 4 暗褐色土 黒色土を混在し、きめやや粗く、しまり弱い。

0 2 m

第128図 第7号掘立柱建物跡

第8号掘立柱建物跡（第129図）

遺跡中央部、F-23グリッドに位置する。主軸方位はN-80°-Eで東西方向の建物跡である。西側を第9号掘立柱建物跡に切られていた。桁行は3間で5.7m、柱間は1.9m。梁行は2間で4.1m、柱間は、2.5mと1.6m。柱穴は45cm×35cmほどの楕円形のものが多く、深さは約10cm。柱痕はあまりはつきりしなかったが、土層の1、4層が該当する。しっかりとした出土遺物はなかったが、8世紀代と思われる土師器片を検出した。第7号掘立柱建物跡と90°ちがいだが、主軸をほぼ同じくすることから古代の遺構であろう。

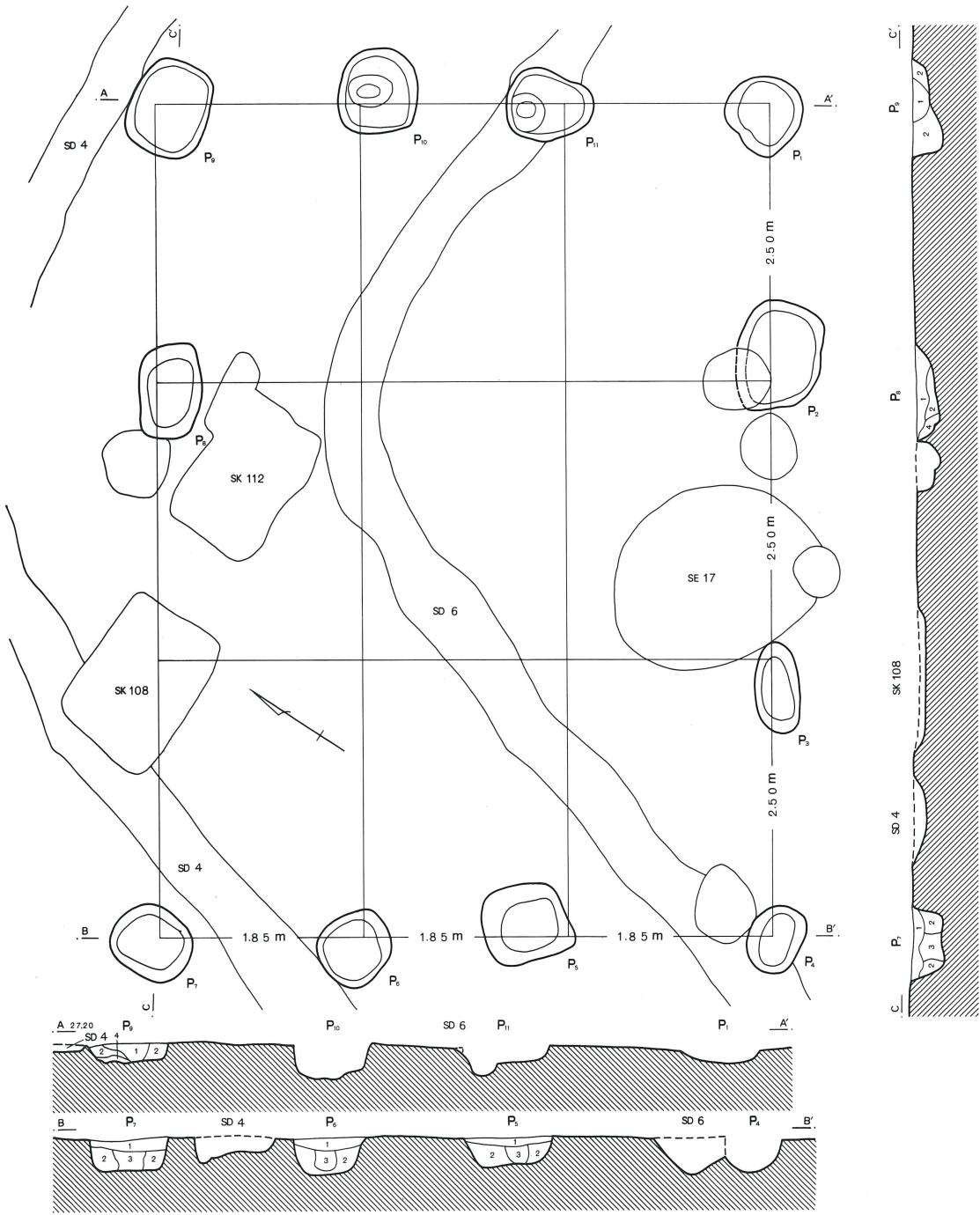


第129図 第8号掘立柱建物跡

第9号掘立柱建物跡（第130図）

遺跡中央部、F-22グリッドに位置する。主軸方位はN-58°-Eで北東向きの建物跡である。桁行は3間で7.5m、柱間は2.5m。梁行は3間で5.55m、柱間は1.85m。柱穴は60cm×45cmほどの楕円形の

ものと、70cm×60cmほどの隅丸長方形のものとがあった。深さは約25cmである。柱痕が観察できた柱穴が多い。出土遺物はなかったが、中世と思われる第4、6号溝跡に切られていることから遺構の時期は古代と思われる。



第9号掘立柱建物跡土層

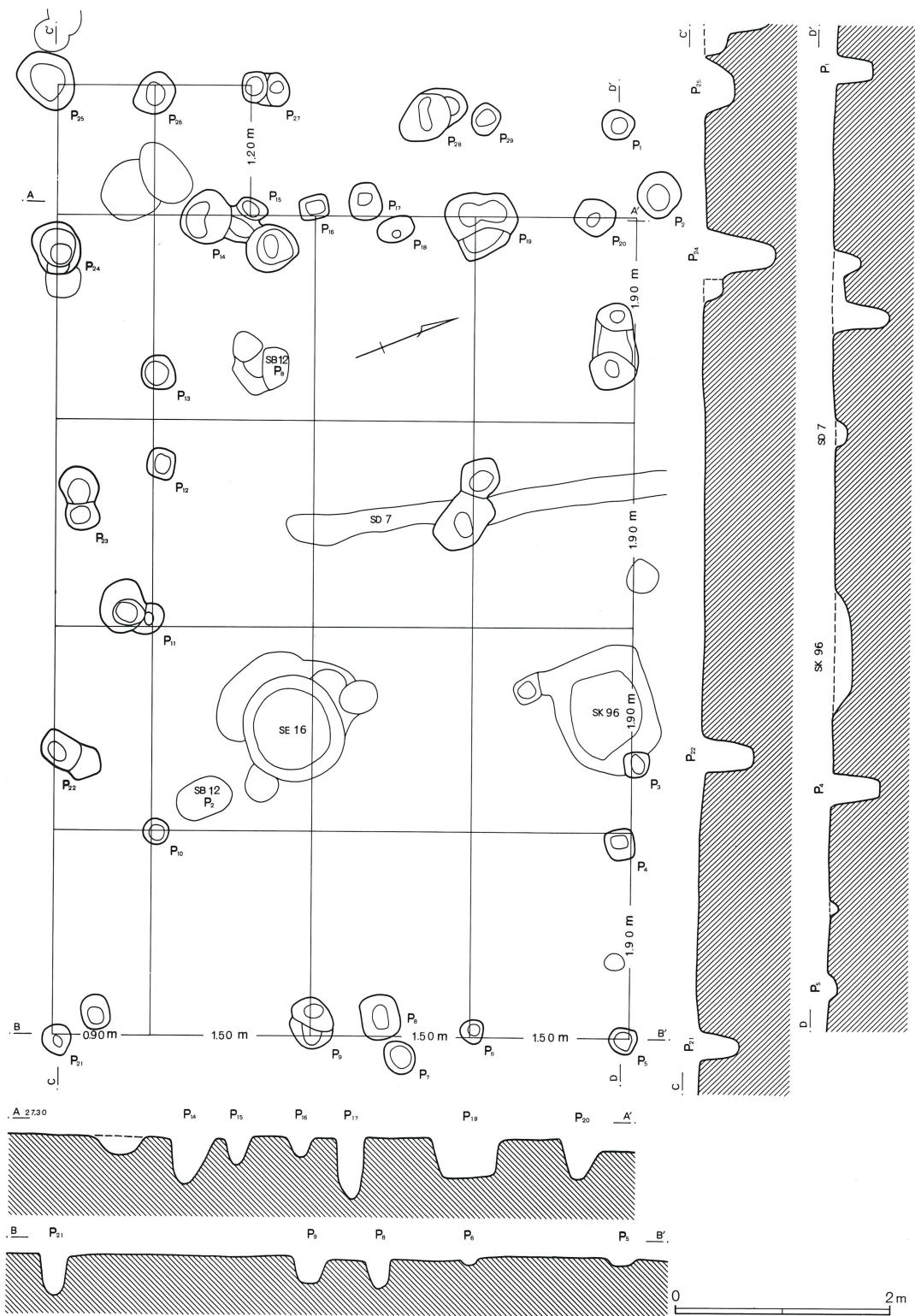
1 茶褐色土 ローム粒子を少量含む。 3 褐色土 ローム粒子、炭化物を混在。
2 褐色土 ロームブロックを含む。 4 褐色土 ローム粒子を含み、しまりやや強い。

0

2 m

第130図 第9号掘立柱建物跡

第10号掘立柱建物跡（第131図）

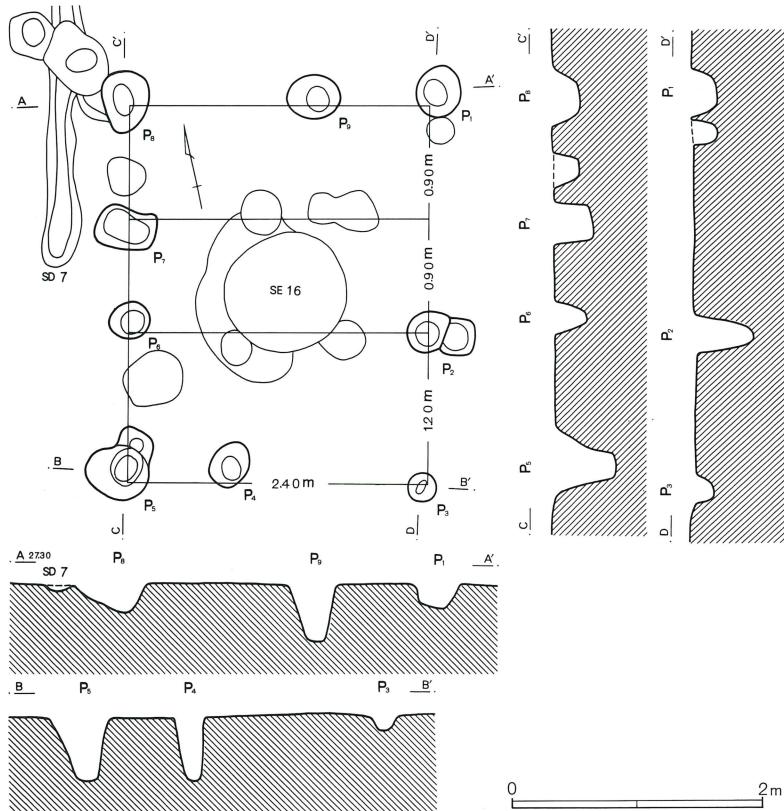


第131図 第10号掘立柱建物跡

遺跡中央部、G-22・23グリッドに位置する。整理段階で確認した遺構である。主軸方位はN-71°-Wで東西方向の建物跡である。桁行は4間で7.6m、柱間は1.9m。梁行は3間で4.5m、柱間は1.5m。西側と北側一部に庇を持つ。柱穴は概して小さく、径約25cmのほぼ円形のものが多く、深さは深いもので約40cm、浅いもので約10cmである。遺構内で第11号掘立柱建物跡、第16号井戸跡と重複する。出土遺物はなかった。遺構の時期は中世と思われる。

第11号掘立柱建物跡（第132図）

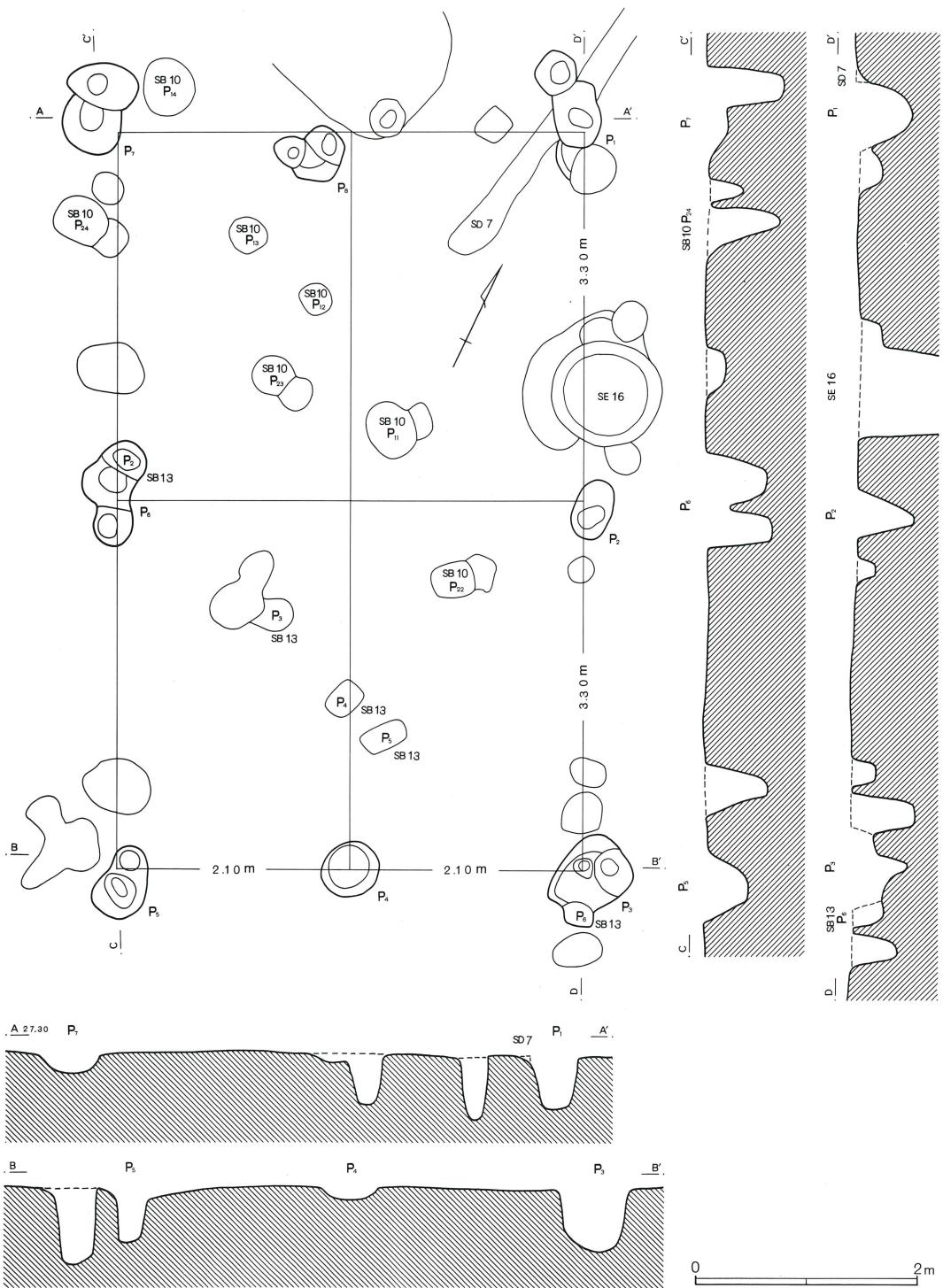
遺跡中央部、G-23グリッドに位置する。整理段階で確認した遺構である。主軸方位はN-10°-Eで、やや東に傾いた南北方向の建物跡である。桁行は3間で3m、柱間は0.9mと1.2m。梁行は1間で2.4m。遺構中央で第16号井戸跡、外側で第10号掘立柱建物跡と重複する。柱穴は楕円形のものが多く、大きいもので約50cm×40cm、小さいもので約25cm×20cm、深さは15~50cmである。出土遺物はなかった。遺構の時期は中世と思われる。



第132図 第11号掘立柱建物跡

第12号掘立柱建物跡（第133図）

遺跡中央部、G-22グリッドに位置する。整理段階で確認した遺構である。主軸方位はN-26°-Wで、北西方向を向く建物跡である。桁行は2間で6.6m、柱間は3.3m。梁行は2間で4.2m、柱間は2.1m。柱穴は50cm×30cmほどの楕円形のものが多く、深さは浅いもので約15cm、深いもので約50cm。出土遺物はなかった。遺構の時期は東側の第18号住居跡と主軸をほぼ同じくすることから、古代であろう。

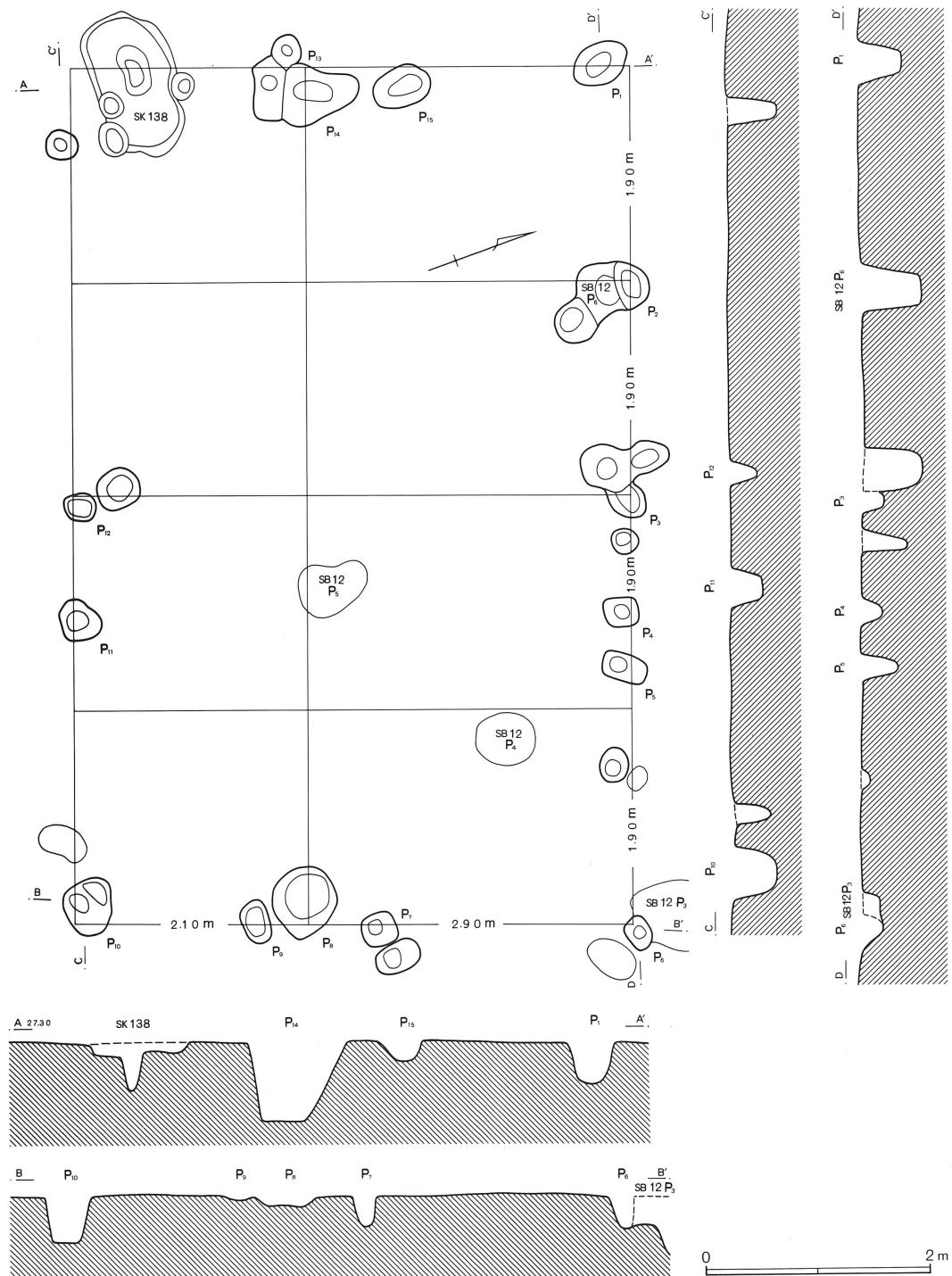


第133図 第12号掘立柱建物跡

第13号掘立柱建物跡（第134図）

遺跡中央部、H-22・23グリッドに位置する。整理段階で確認した遺構である。主軸方位はN-70°-Wで、東西方向の建物跡である。柱穴がやや並ばないところもあり、確実ではないが、桁行は4間

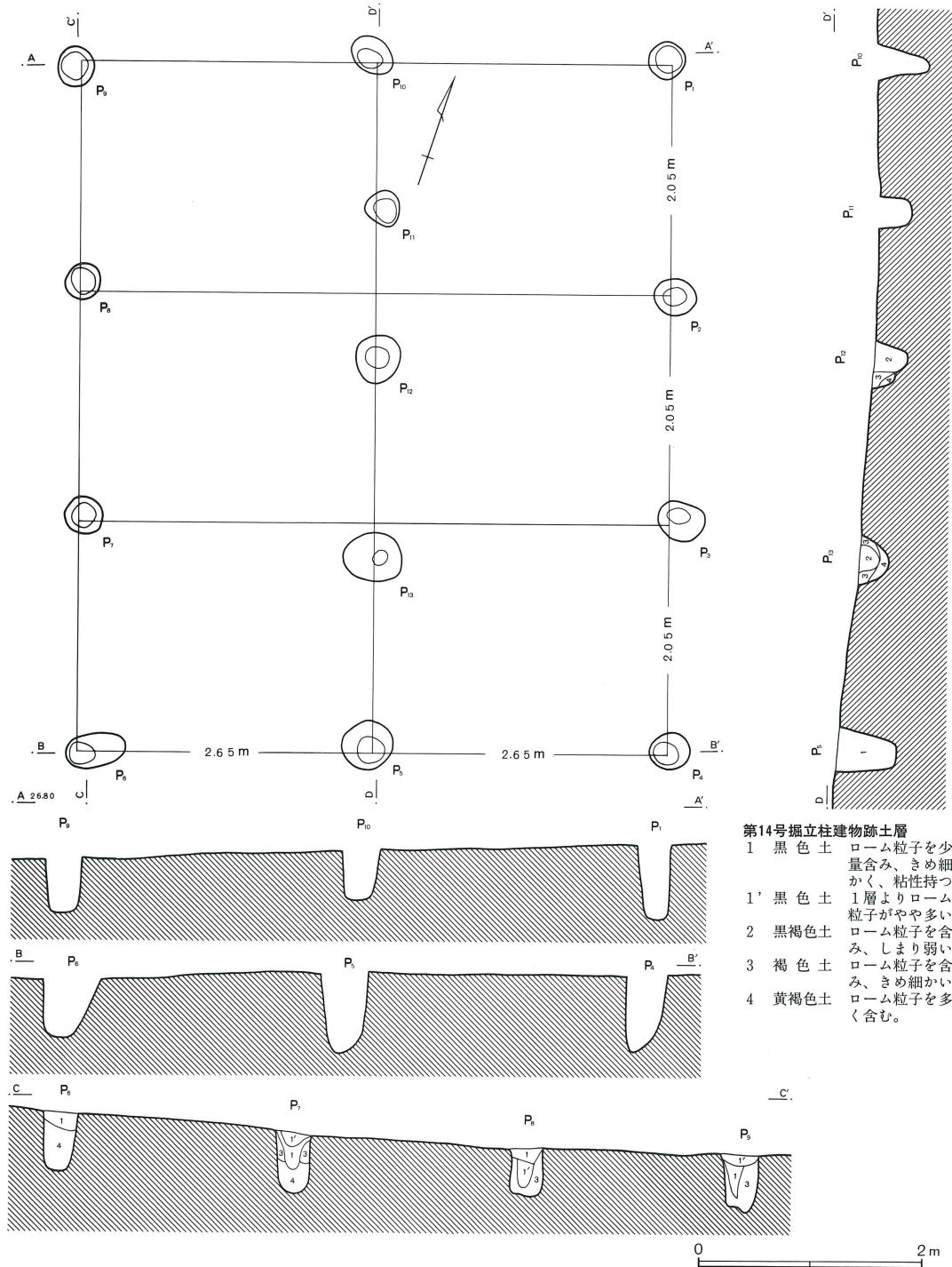
で7.6m、柱間は1.9m、梁行は2間で5m、柱間は2.1mと2.9mを想定した。柱穴は小さいもので径約30cm、大きいものは径約60cmの楕円形で、深さは約30cmである。出土遺物はなかった。遺構の時期は中世と思われる。



第134図 第13号掘立柱建物跡

第14号掘立柱建物跡（第135図）

遺跡北端で水田地帯に落込み始める傾斜地、C-22グリッドに位置する。第14号掘立柱建物跡の北側に隣接する。主軸方位はN-18°-Wで南北方向の建物跡である。桁行は3間で6.15m、柱間は2.05m。

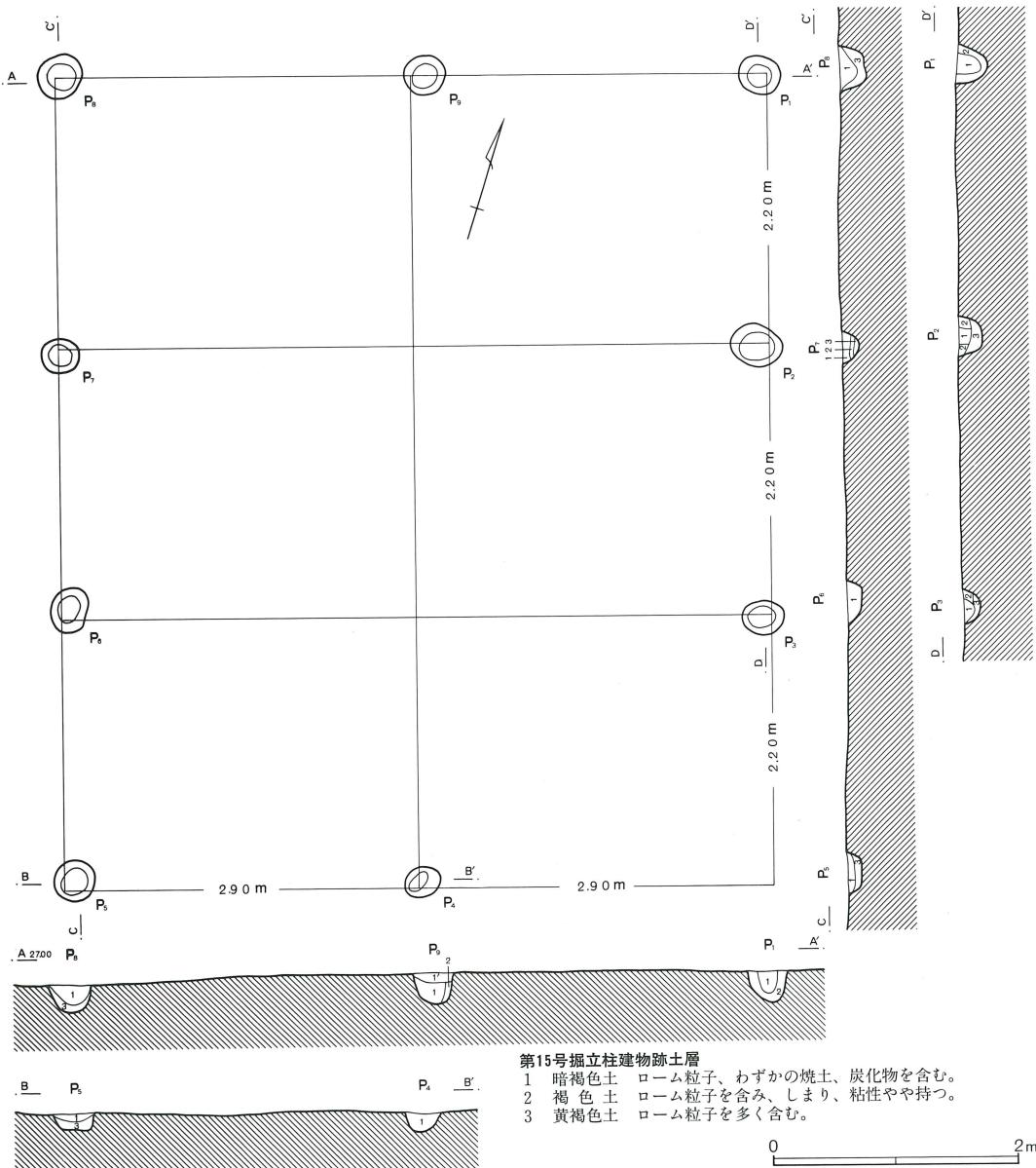


第135図 第14号掘立柱建物跡

梁行は2間で5.3m、柱間は2.65m。柱穴は径約40cmのほぼ円形で、小さいものが多く、深さは約40~60cm。出土遺物はなかったが、付近に古代の住居跡等がないので、隣接する第15号掘立柱建物跡とともに、遺構の時期は中世と思われる。

第15号掘立柱建物跡（第136図）

遺跡北端、C-22グリッドに位置し、第14号掘立柱建物跡の南側に隣接する。主軸方位はN-18°-Wで、南北方向の建物跡である。桁行は3間で6.6m、柱間は2.2m。梁行は2間で5.8m、柱間は2.9m。第14号掘立柱建物跡と規模はやや異なるが、よく似た遺構である。柱穴はやや小さく、径約30cm

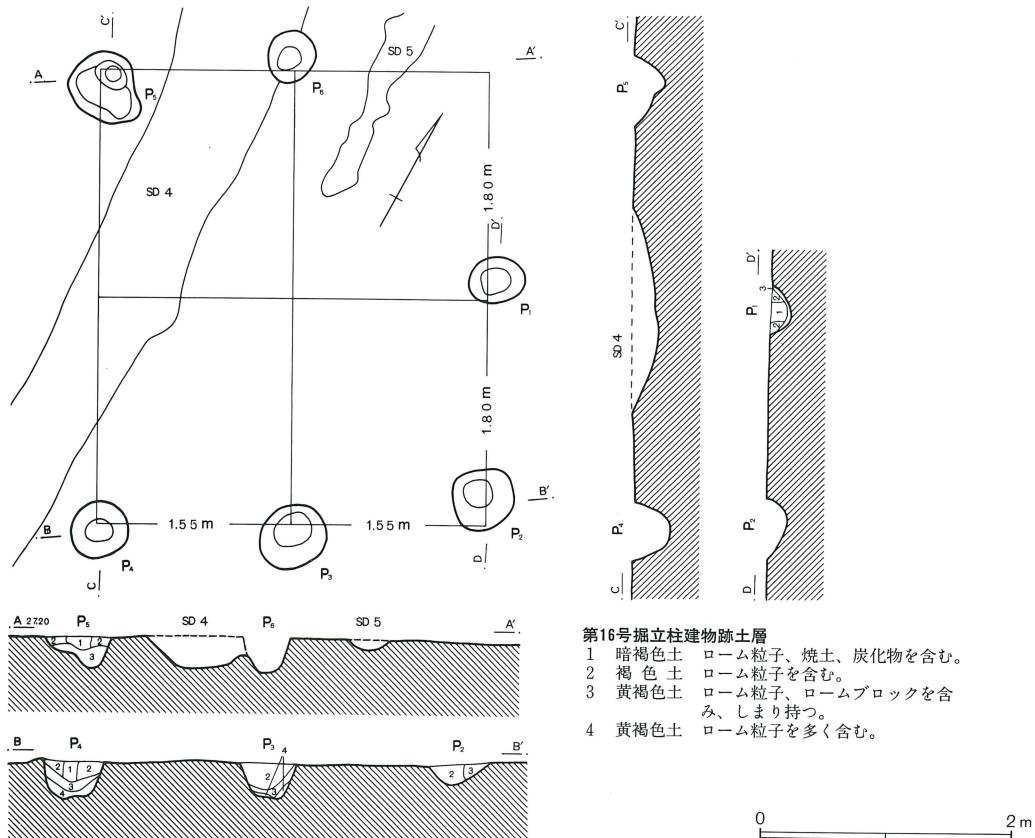


第136図 第15号掘立柱建物跡

円形のものが多く、深さは10~20cm。柱痕が観察できた柱穴がある。出土遺物はなかった。付近に古代の住居跡等がないので、隣接する第14号掘立柱建物跡とともに、遺構の時期は中世であろう。

第16号掘立柱建物跡（第137図）

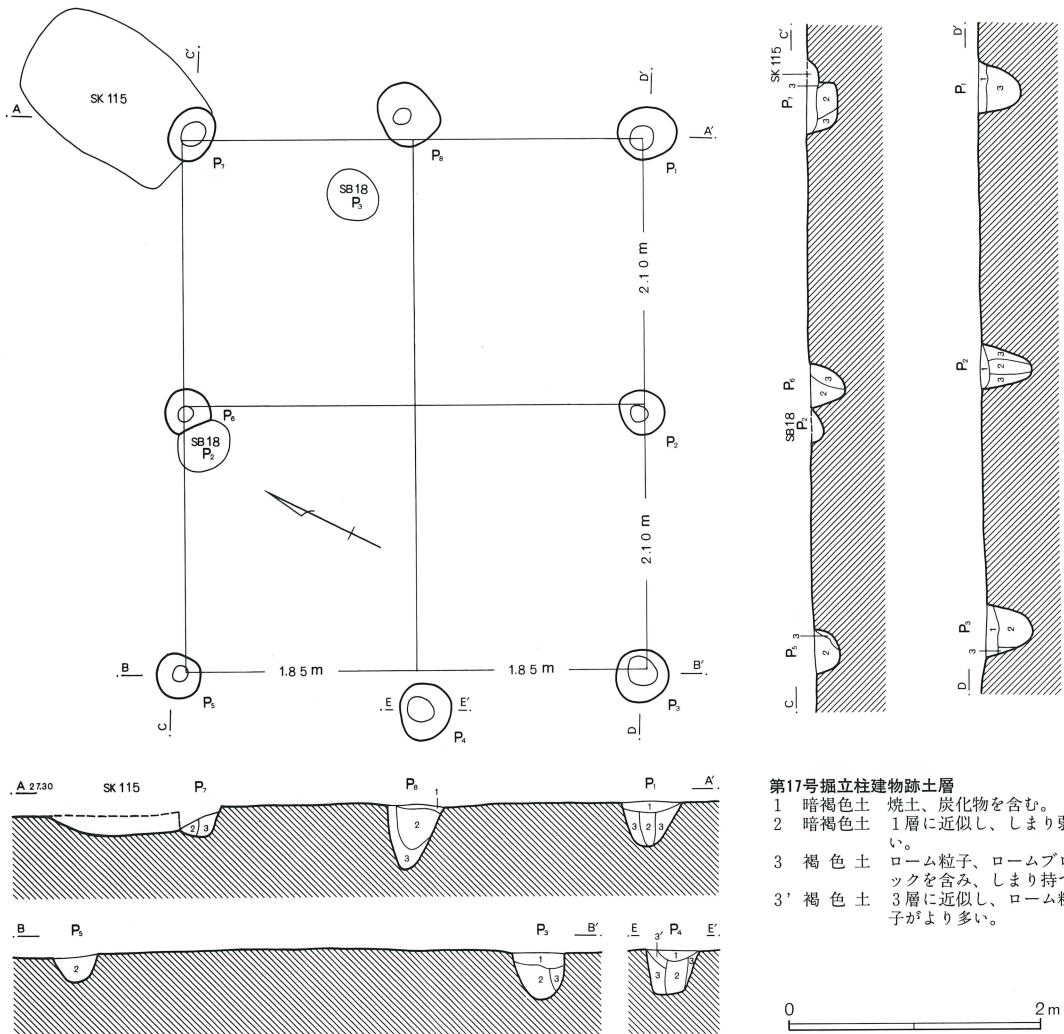
遺跡中央部やや西寄り、F-21グリッドに位置する。主軸方位はN-29°-Wで、北西向きの建物跡である。形態はほぼ方形で、桁行は2間で3.6m、柱間は1.8m。梁行は2間で3.1m、柱間は1.55m。柱穴は約50cm×40cmの楕円形が多く、深さは約30cmである。北側のピットを一つ確認できなかった。P4、P5の間のピットは第4号溝跡によって壊されていた。柱穴覆土の1層が柱痕と思われる。出土遺物はなかった。中世と思われる第4号溝に切られることから、遺構の時期は古代であろう。



第137図 第16号掘立柱建物跡

第17号掘立柱建物跡（第138図）

遺跡西北部、F-19グリッドに位置する。主軸方位はN-64°-Eで、東西方向の建物跡である。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。第115号土壙に切られ、第18号掘立柱建物跡と重複する。形態はほぼ方形である。桁行は2間で4.2m、柱間は2.1m。梁行は2間で3.7m、柱間は1.85m。柱穴は約40cm×30cmのほぼ円形のものが多く、深さは約30cmである。柱穴覆土の2層が柱痕であるが、はっきりしないピットもあった。P5から8世紀と思われる土師器片を検出した。遺構の時期は古代であろう。



第138図 第17号掘立柱建物跡

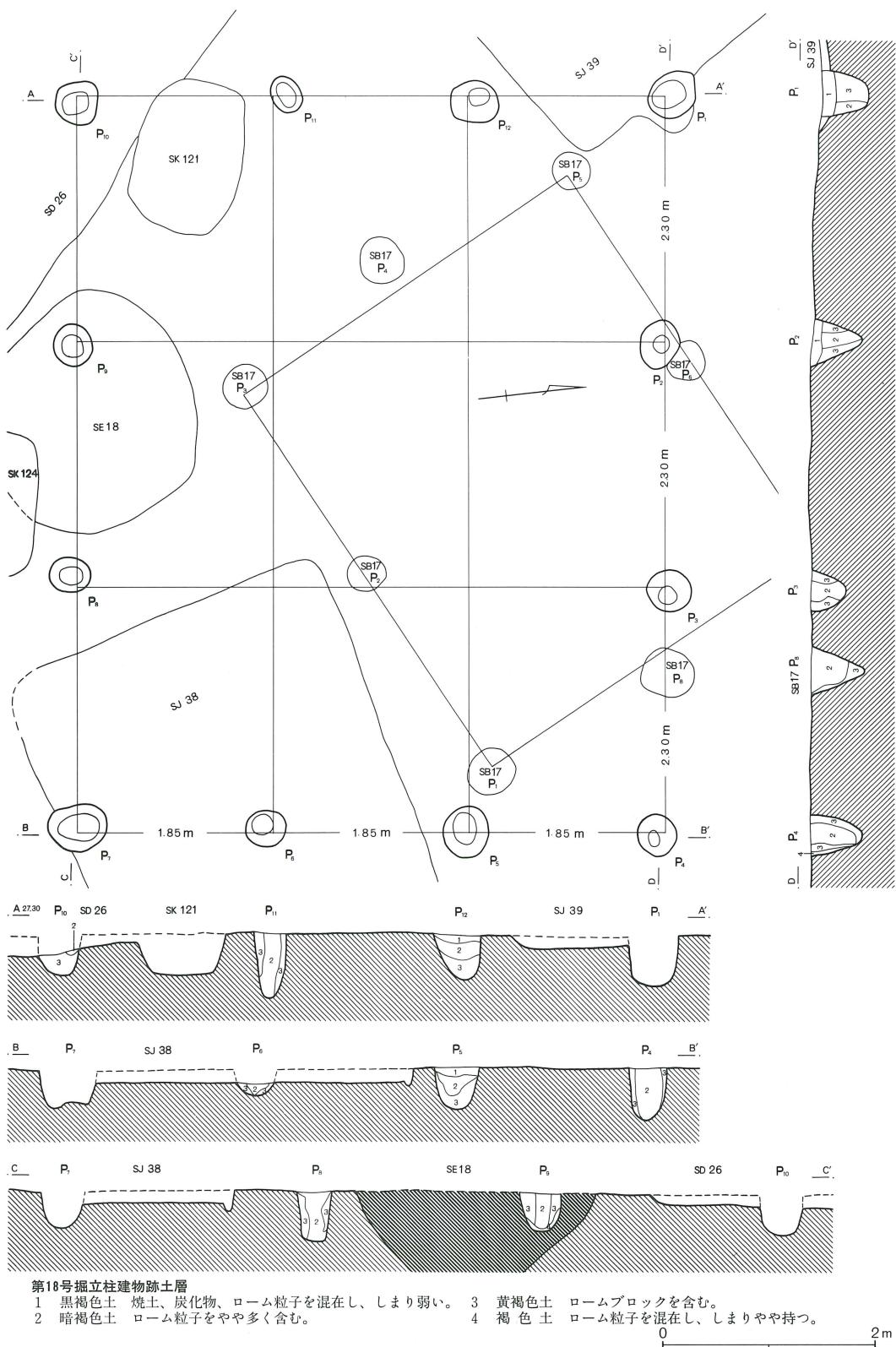
第18号掘立柱建物跡（第139図）

遺跡北西端、F-19グリッドに位置する。主軸方位はN-83°-Wで東西方向の建物跡である。桁行は3間で6.9m、柱間は2.3m。梁行は3間で5.55m、柱間は1.85m。柱穴は約40cm×30cmのほぼ楕円形のものが多く、深さは40~60cmであった。柱穴土層の2層が柱痕であろうと思われるが、はっきりしないものもあった。東側で古代の第38号住居跡、西側でP1が第39号住居跡のカマド、南側でP9が古代の第18号井戸を切ることから、古代より新しい遺構である。また遺跡西側に並ぶ古代の掘立柱建物跡群と主軸を異にし、遺跡中央部にある中世の掘立柱建物跡群と主軸を同じくすることからも、中世の遺構であると思われる。

遺物は第39号住居跡のカマドを切るP1から稻荷前VI期と思われる須恵器蓋2点が検出されたが、第39号住居跡の混入と考えられ、そちらで扱うこととした。他に遺物は検出しなかった。

第17号掘立柱建物跡層
 1 暗褐色土 焼土、炭化物を含む。
 2 暗褐色土 1層に近似し、しまり弱い。
 3 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含み、しまり持つ。
 3' 褐色土 3層に近似し、ローム粒子がより多い。

0 2m



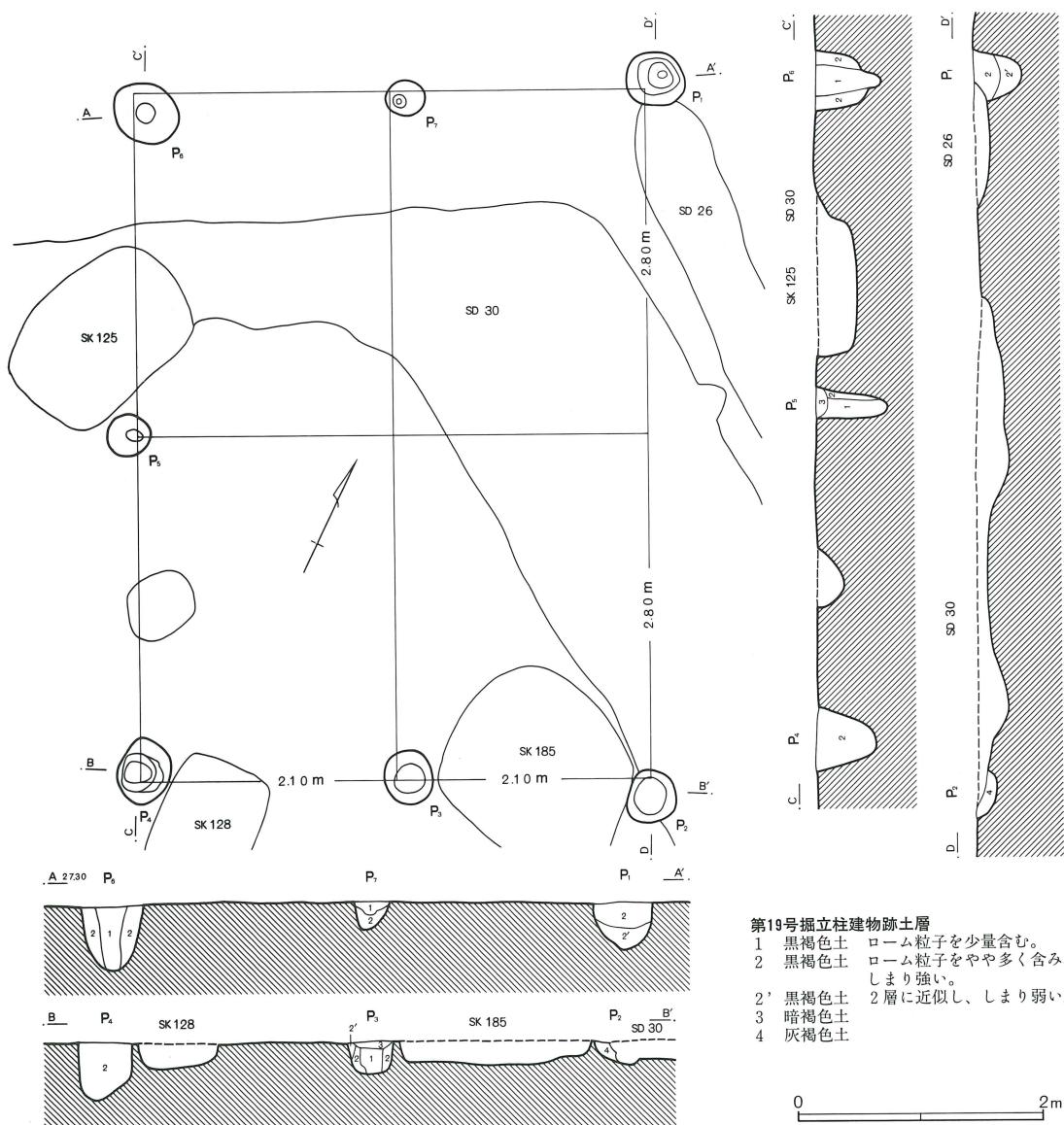
第139図 第18号掘立柱建物跡

第19号掘立柱建物跡（第140図）

遺跡北西端、F-18グリッドに位置する。主軸方位はN-24°-Wで、北西向きの建物跡である。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。本遺構のP1は第26号溝跡に、P2は第30号溝跡に切られていた。

桁行は2間で5.6m、柱間は2.8m。梁行は2間で4.2m、柱間は2.1m。柱穴は径約50cmと40cmの円形のものが多く、深さは約20~50cmである。四隅の柱穴が大きくて深い傾向があった。柱穴土層の1層が柱痕であると思われるが、はっきりしないものもあった。

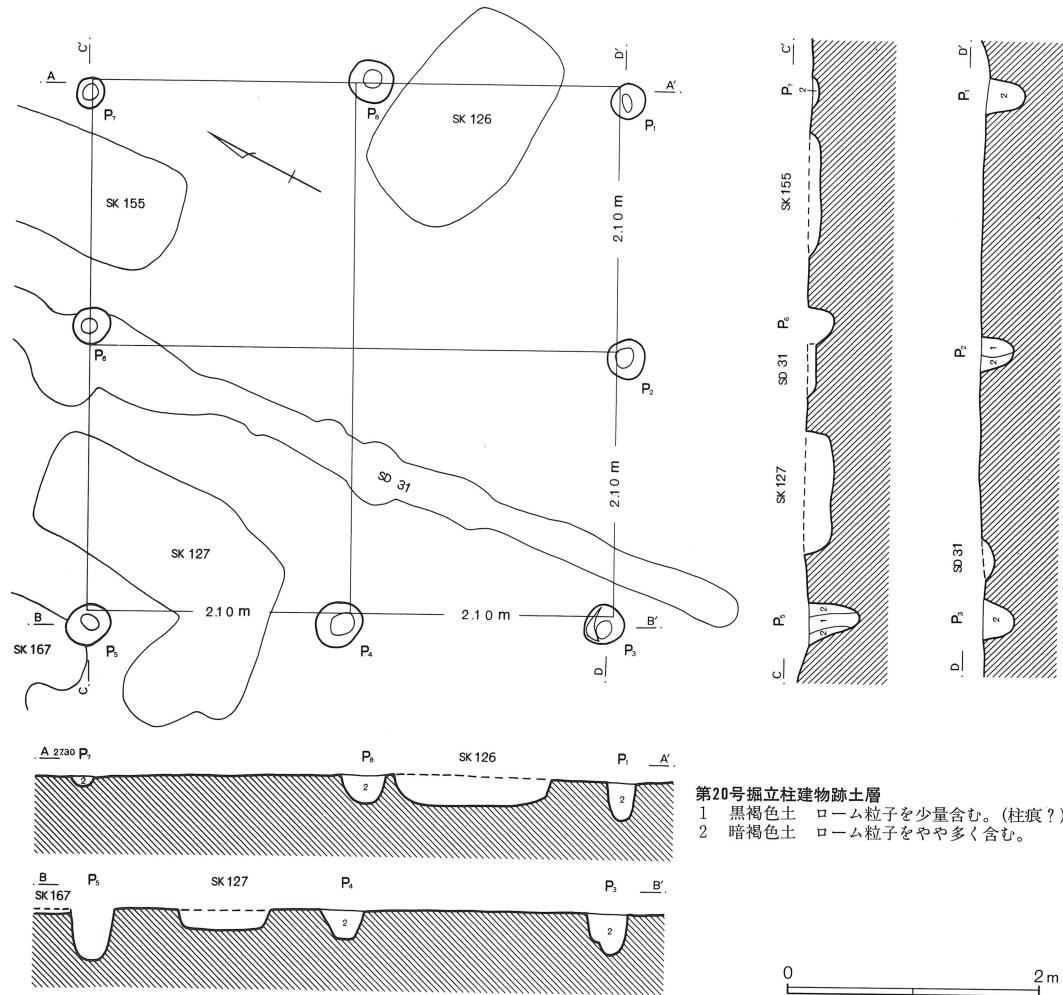
出土遺物はなかったが、北西向きの主軸を持つことから古代の遺構であろう。



第140図 第19号掘立柱建物跡

第20号掘立柱建物跡（第141図）

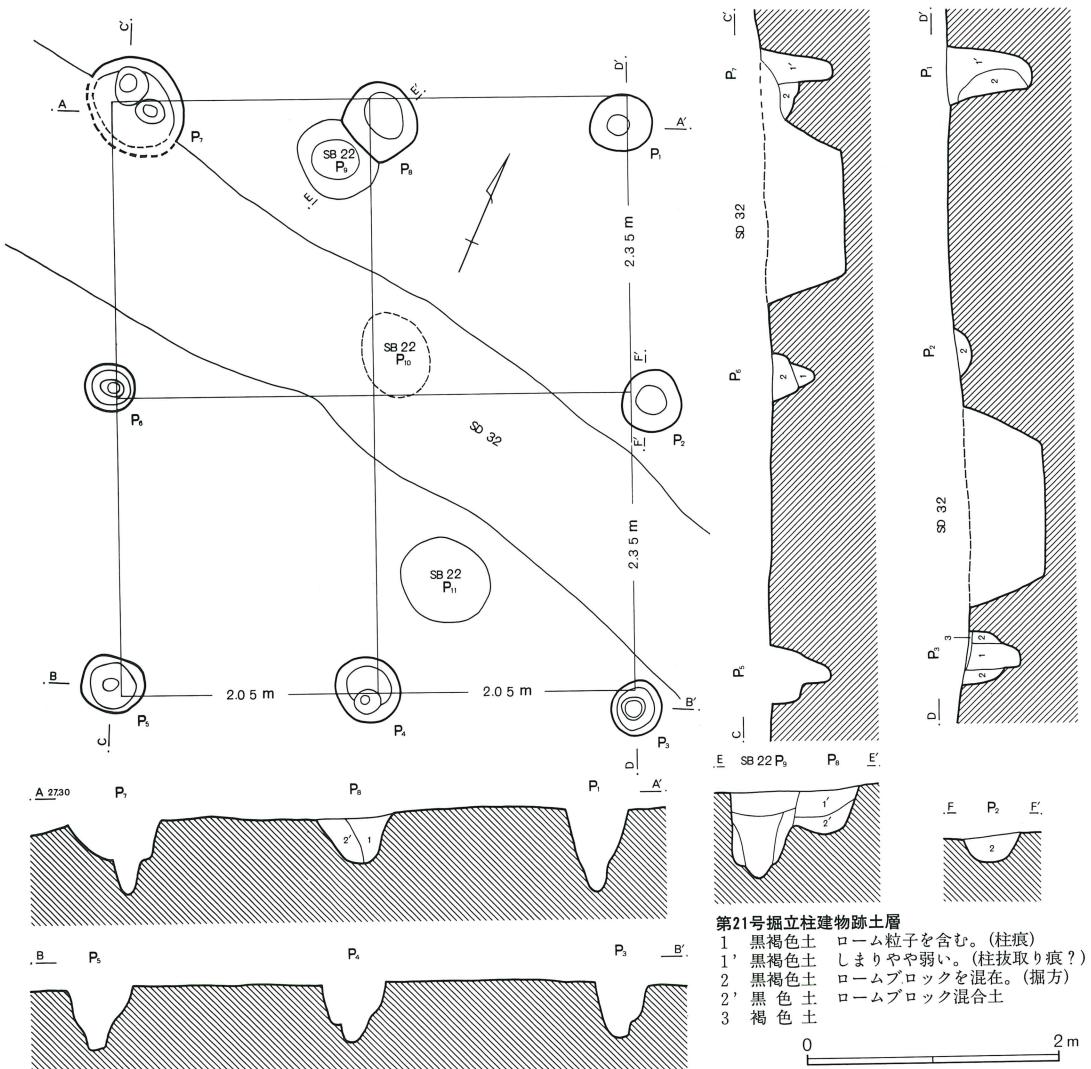
遺跡北西端、G-19グリッドに位置する。主軸方位はN-63°-Eで北西向きの建物跡である。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。2間(4.2m)×2間(4.2m)の方形の建物で、柱間は全て2.1mである。柱穴は径約30cmのほぼ円形で、深さは5~40cm。出土遺物はタタキのある甕の破片を検出した。遺構の時期は主軸を持つことと遺物から古代であろう。



第141図 第20号掘立柱建物跡

第21号掘立柱建物跡（第142図）

遺跡西端、H-20グリッドに位置する。主軸方位はN-22°-Wで、北西向きの建物跡である。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。桁行は2間で4.7m、柱間は2.35m。梁行は2間で4.1m、柱間は2.05m。柱穴は径約50cmのほぼ円形のものが多く、深さは30~65cmであった。柱痕を持つ柱穴がいくつか検出された。遺物は8世紀代と思われる土師器壺小片を検出した。遺構の時期は本遺構のP8が稻荷前VI期である第22号掘立柱建物跡に切られていることから、それ以前の時期であろう。



第142図 第21号掘立柱建物跡

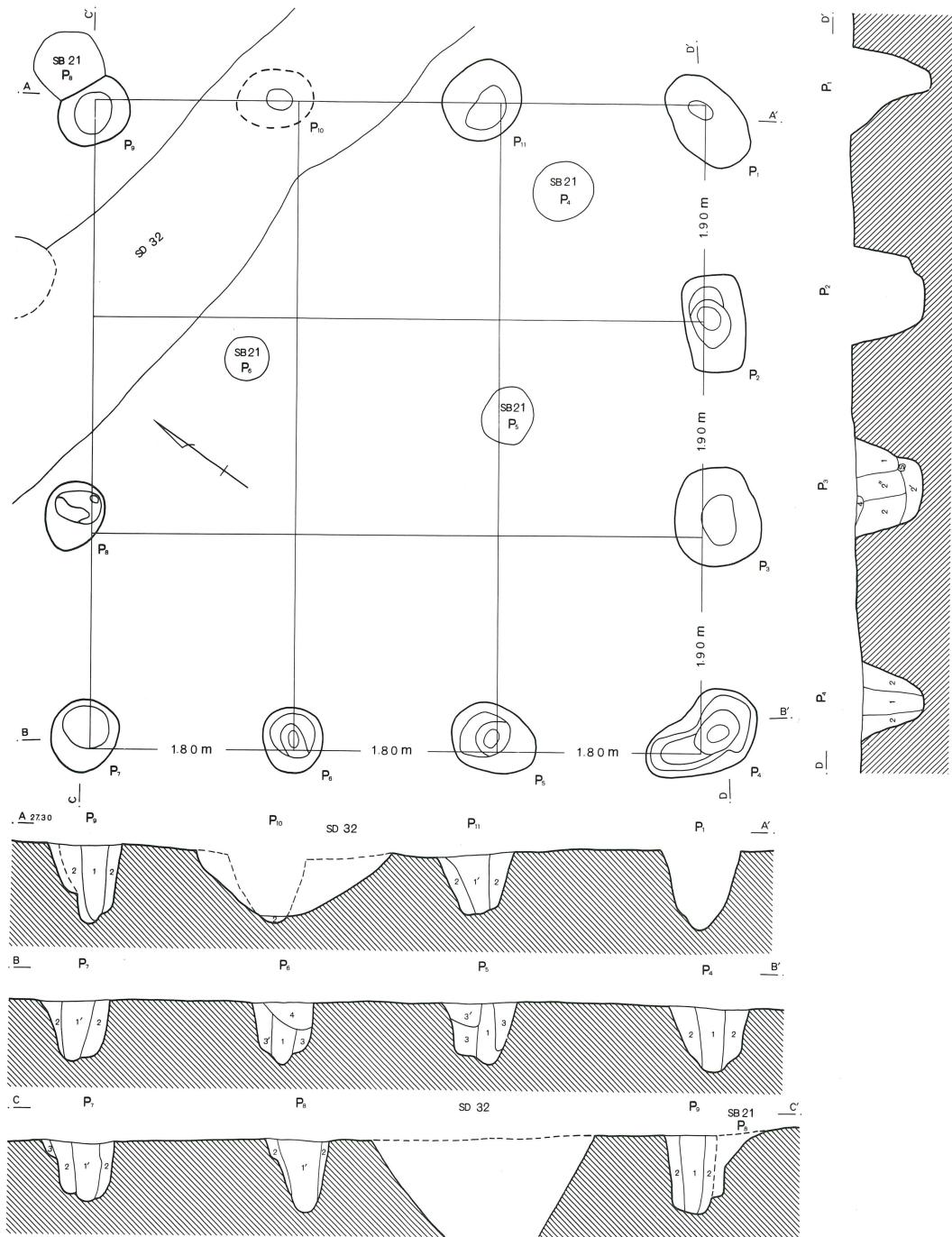
第22号掘立柱建物跡 (第143・144図)

遺跡西端、H-19グリッドに位置する。主軸方位はN-55°-Eで、北東向きの建物跡である。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。本遺構のP9が第20号掘立柱建物跡のP8を切り、本遺構が新しい。桁行は3間で5.7m、柱間は1.9m。梁行は3間で5.4m、柱間は1.8m。柱穴は約75cm×55cmほどの楕円形、または小判形で、深さは約55cmである。柱痕が観察できた柱穴が多い。出土遺物の1は白色針状物質を含まない北武藏系の坏で、底部と口縁部の境に屈曲を持つ。3は器壁薄く、焼きのよい土器で、口縁部の外反がやや強い。遺構の時期は遺物から稻荷前VI期であろう。

第22号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第144図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(15.3)			B E G	B	橙	5%	P7出土、北武藏系
2	坏	(14.2)			B C G	B	暗青灰	10%	P7出土
3	坏	(16.8)			B C G	A	灰白	5%	P5出土

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
4	壺	(10.4)			B C G	C	暗青灰	10%	P7出土
5	高盤	11.8			B C G	A	暗青灰	10%	P9出土



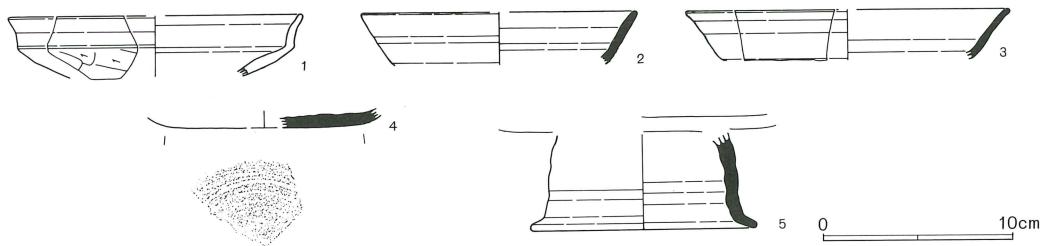
第22号掘立柱建物跡土層

- 1 黒褐色土 しまりなし。(柱痕)
 1' 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。(柱抜取り痕)
 2 黒褐色土 ロームブロックをやや多く含む。
 2' 黒褐色土 ローム粒子を縞状に含み、硬くする。

- 2" 暗褐色土 ロームブロックを多く含み、しまり持つ。
 3 暗褐色土 ロームブロックを少量含み、硬くする。
 3' 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
 4 暗褐色土 ローム粒子を含み、ややしまり弱い。

第143図 第22号掘立柱建物跡

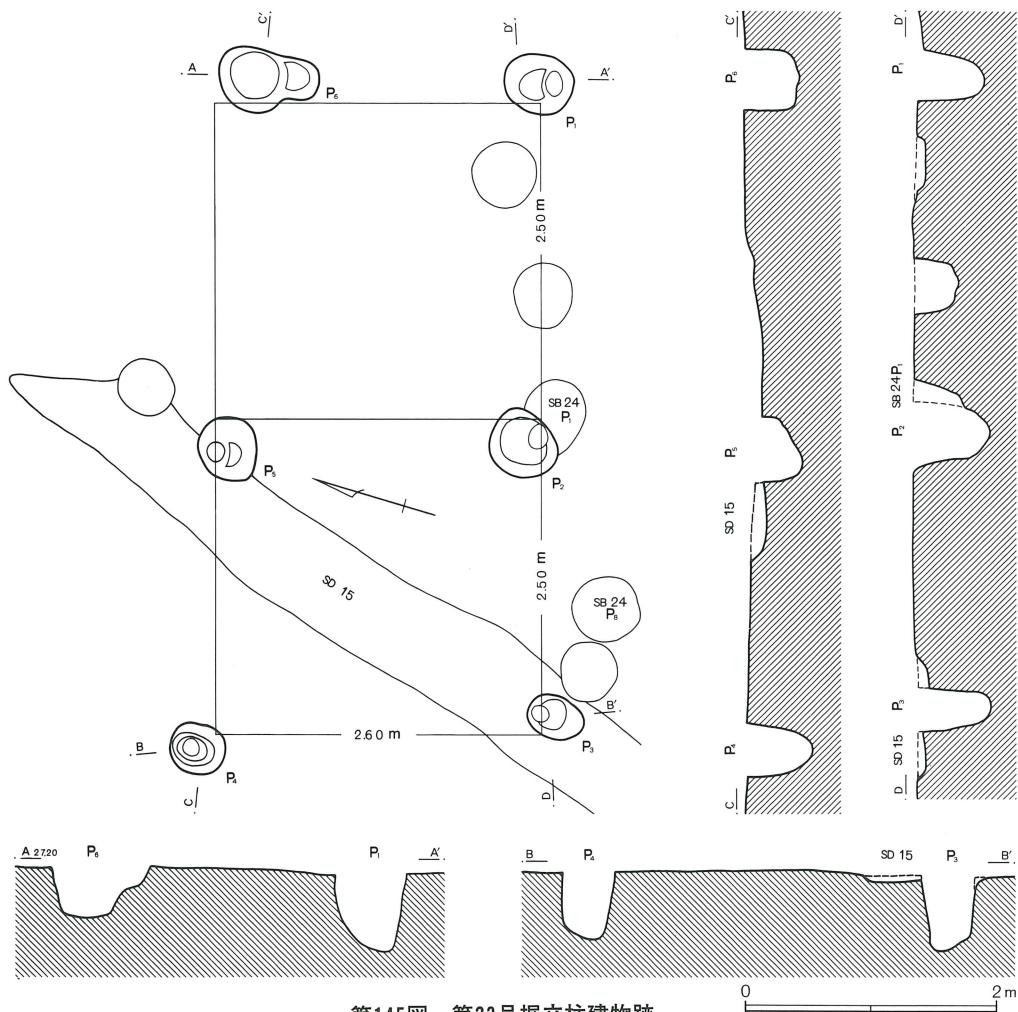




第144図 第22号掘立柱建物跡出土遺物

第23号掘立柱建物跡（第145図）

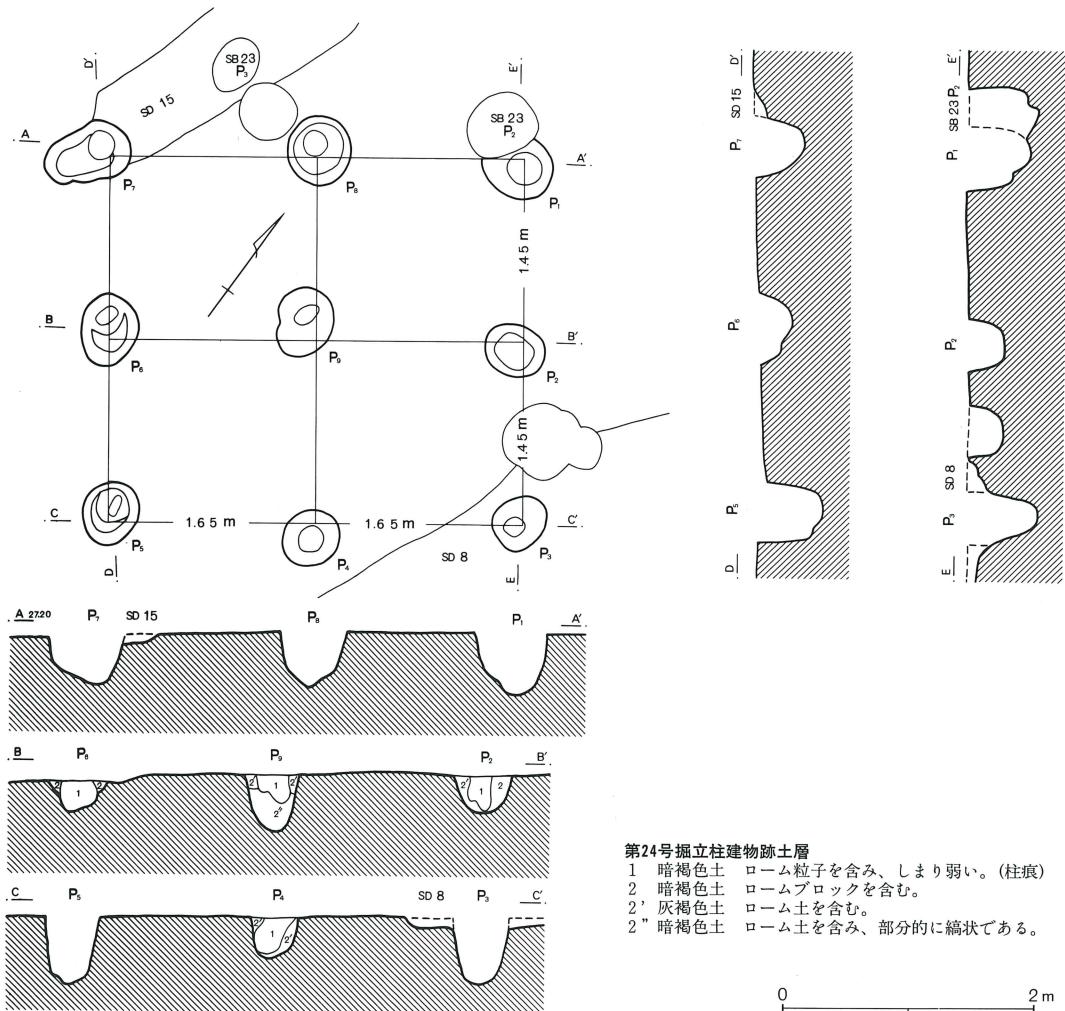
遺跡西部、H-20グリッドに位置する。2間×1間の建物跡であるが、遺跡内に同様の遺構がなかった。柱穴が他に確認できなかっただけで、2間×2間以上の遺構になる可能性もあることを指摘しておく。主軸方位はN-75°-Eで東西方向の建物。桁行は2間で5m、柱間は2.5m。梁行は1間で2.6m。柱穴は約50cm×40cmの楕円形のものが多く、深さは約40~60cmである。出土遺物はなかった。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。遺構の時期は古代であろう。



第145図 第23号掘立柱建物跡

第24号掘立柱建物跡（第146図）

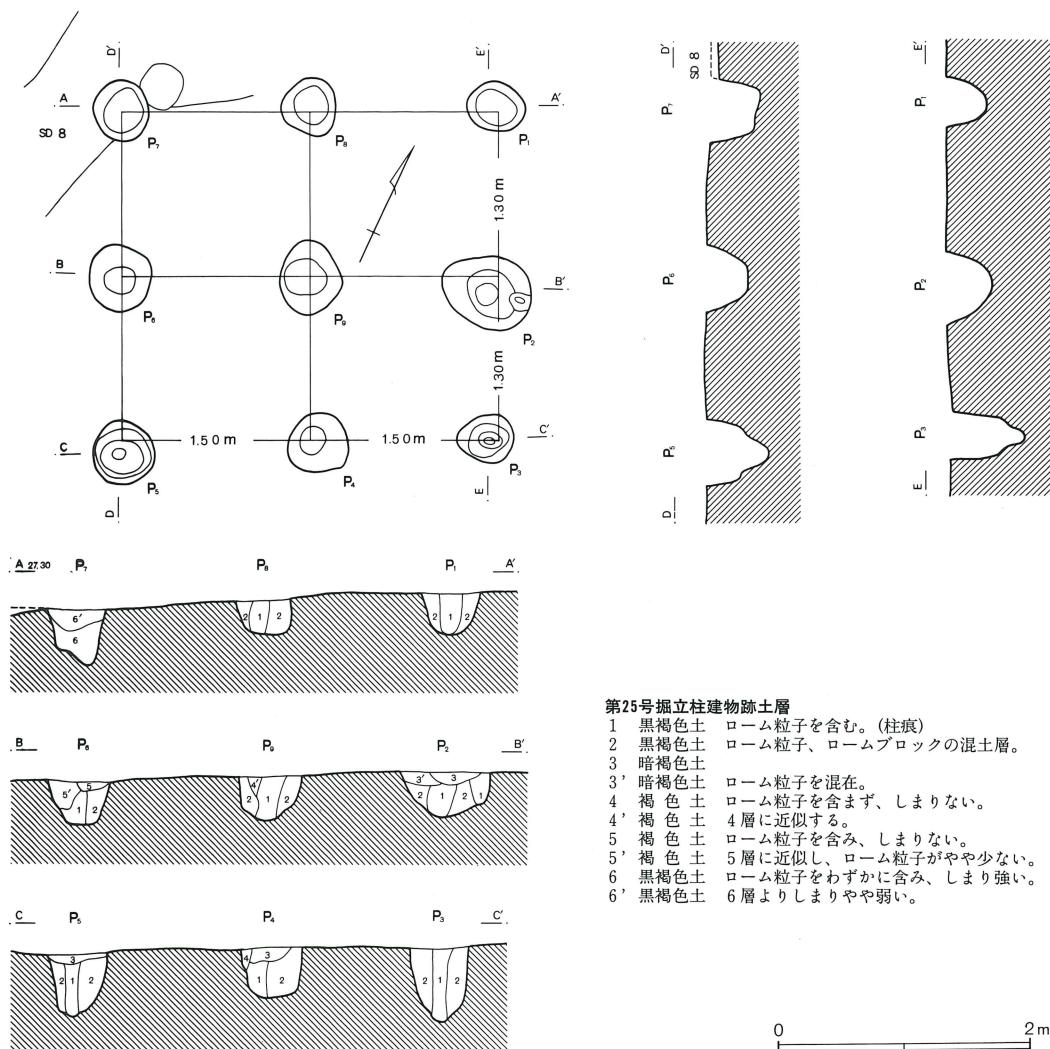
遺跡南西部、I-20グリッドに位置する。主軸方位はN-34°-Wで、北西向きの総柱建物跡である。第23号掘立柱建物跡と重複するが切合の関係は確認できなかった。桁行は2間で3.3m、柱間は1.65m。梁行は2間で2.9m、柱間は1.45m。柱穴は約50cm×45cmのほぼ円形のものが多く、深さは20~50cmである。柱痕が観察できた柱穴がある。遺物は8世紀代と思われる土師器甕の破片を検出した。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。遺構の時期は古代であろう。



第146図 第24号掘立柱建物跡

第25号掘立柱建物跡（第147図）

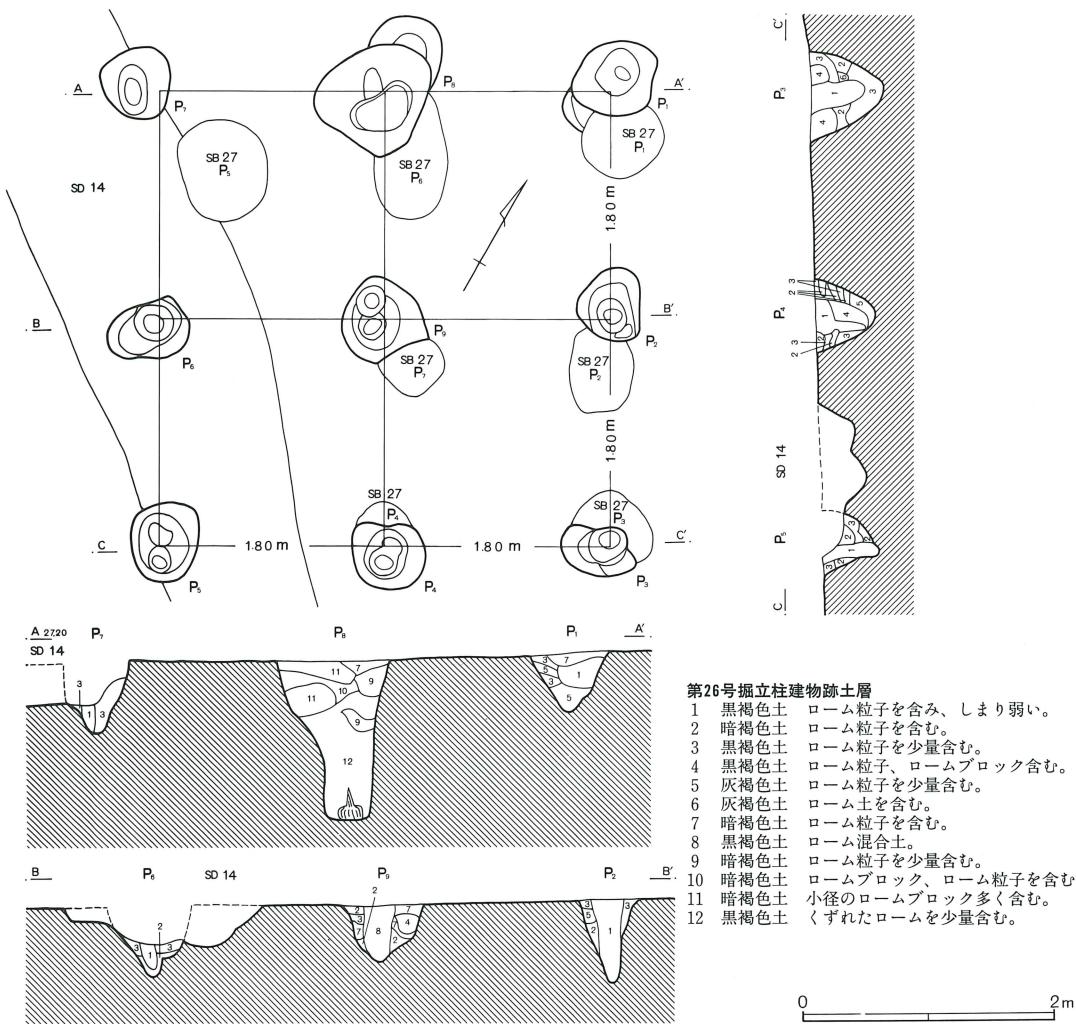
遺跡南西部、I-21グリッドに位置する。主軸方位はN-25°-Wで北西向きの総柱建物跡である。桁行は2間で3m、柱間は1.5m。梁行は2間で2.6m、柱間は1.3m。柱穴は径約50cmのほぼ円形のものが多く、深さは約40~55cmである。柱痕の確認できた柱穴が多い。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。出土遺物はなかったが、遺構の時期は古代であろう。



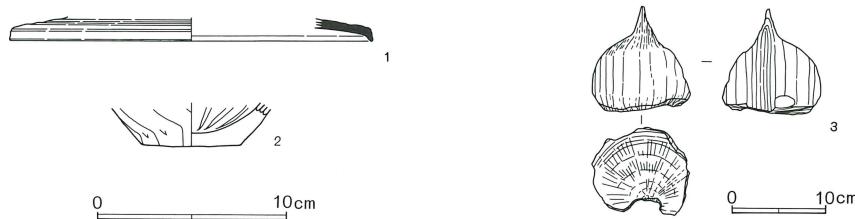
第147図 第25号掘立柱建物跡

第26号掘立柱建物跡（第148・149図）

遺跡南西部、I・J-21グリッドに位置する。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つであり、第27号掘立柱建物跡と重複し、外側の遺構である。平面プラン精査時に内側の27号から外側の26号への拡張であることを確認した。主軸方位はN-29°-Wで、北西向きの総柱建物跡である。規模は2間(3.6m)×2間(3.6m)の方形で、柱間は全て1.8m。柱穴は60cm×50cmの楕円形のものが多く、深さは約45~120cmである。柱痕が観察できた柱穴が多い。P8の底からは柱材の残存部が検出された。残存部の推定径は約15cmである。同じP8から須恵器の蓋と土師器の甕の底部を検出した。1の蓋は焼きが悪く、外面は暗青灰だが内面は灰白である。口径が大きく、天井部の低い蓋と推定される。2は底部を笠削りした平底の甕で、器壁はやや薄い。出土遺物より遺構の時期は稻荷前VII期であろう。



第148図 第26号掘立柱建物跡



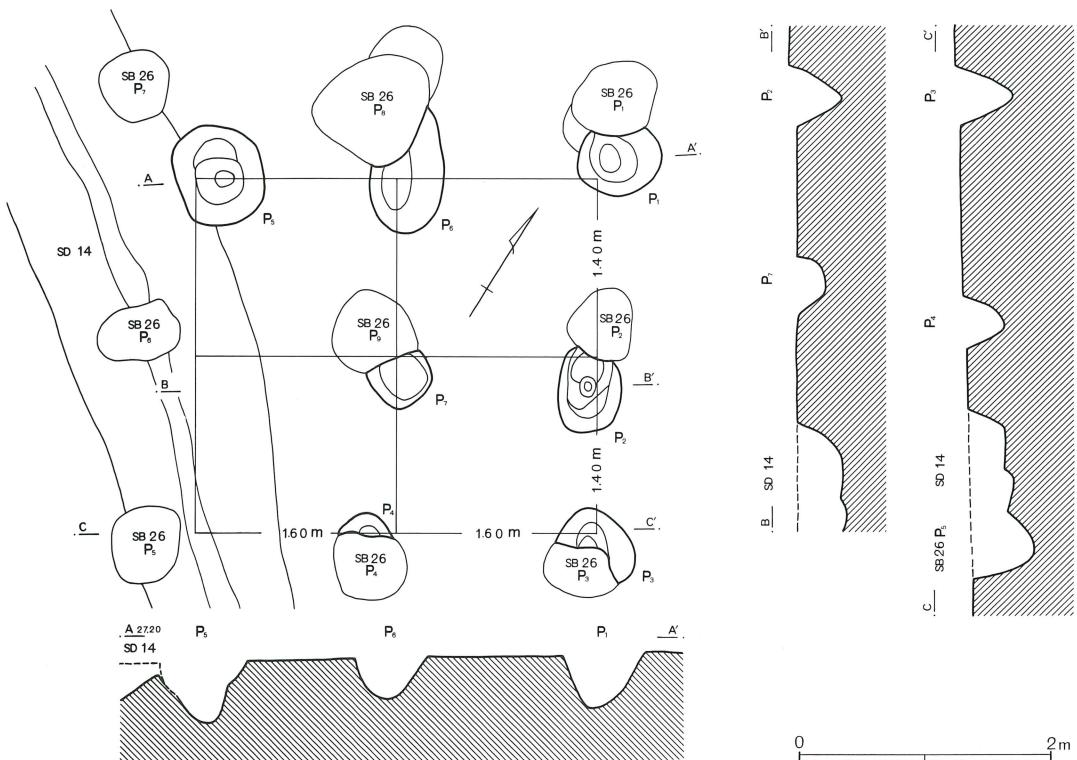
第149図 第26号掘立柱建物跡出土遺物

第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第149図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	蓋	(19.1)			A B C G	C	暗青灰 にぶい橙	5%	P8 出土
2	甕			(5.2)	ABCEG	A		10%	P8 出土
3	柱材			残存径約15cm 残存長11cm					P8 出土

第27号掘立柱建物跡（第150図）

遺跡南西部、I・J-21グリッドに位置する。第26号掘立柱建物跡と重複する、内側の遺構である。主軸方位はN-31°-Wで北西向きの総柱建物跡である。桁行は2間で3.2m、柱間は1.6m。梁行は2間で2.8m、柱間は1.4m。柱穴は約70cm×60cmの楕円形のものが多く、深さは20~40cmである。西側の柱穴は第14号溝に壊され、確認できなかった。出土遺物はなかった。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。遺構の時期は稻荷前VIII期の第26号掘立柱建物跡より古く、古代であろう。



第150図 第27号掘立柱建物跡

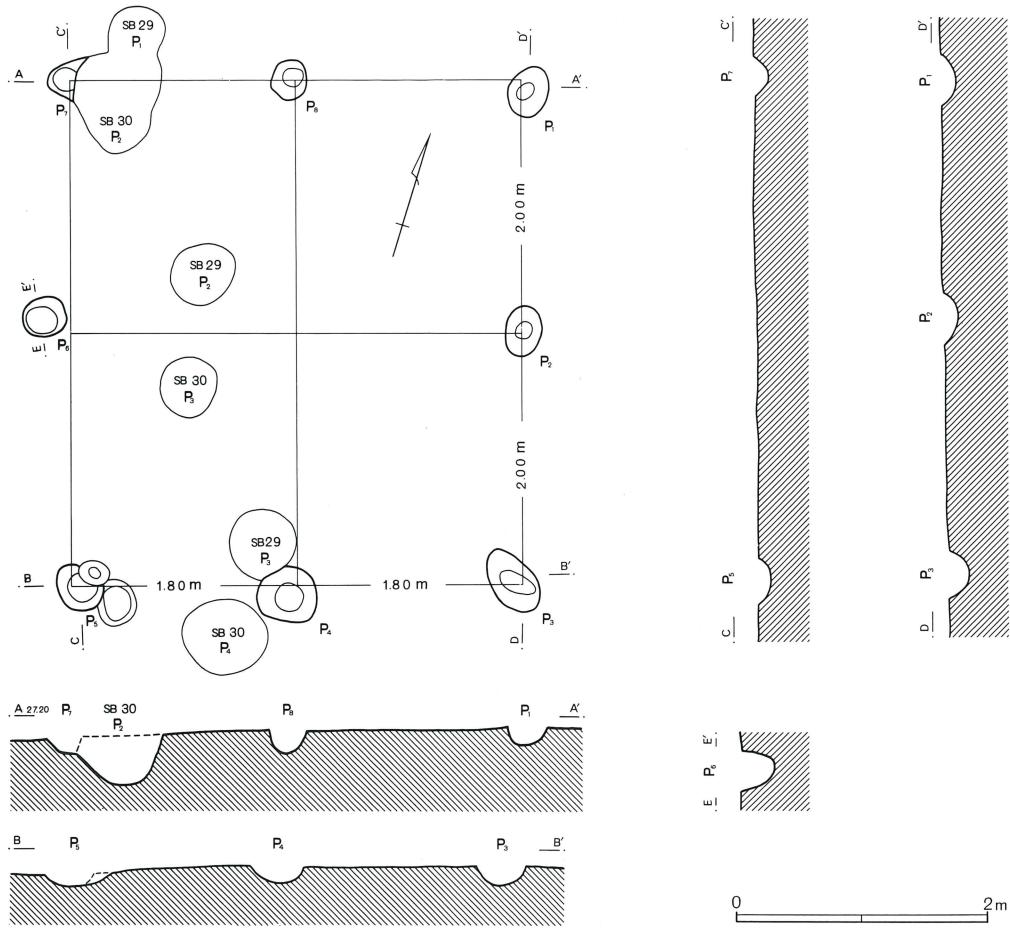


遺跡西部に並ぶ
掘立柱建物跡群
(南から北を望む)

手前がSB31
その奥が
SB28・29・30
またその奥が
SB26・27

第28号掘立柱建物跡（第151図）

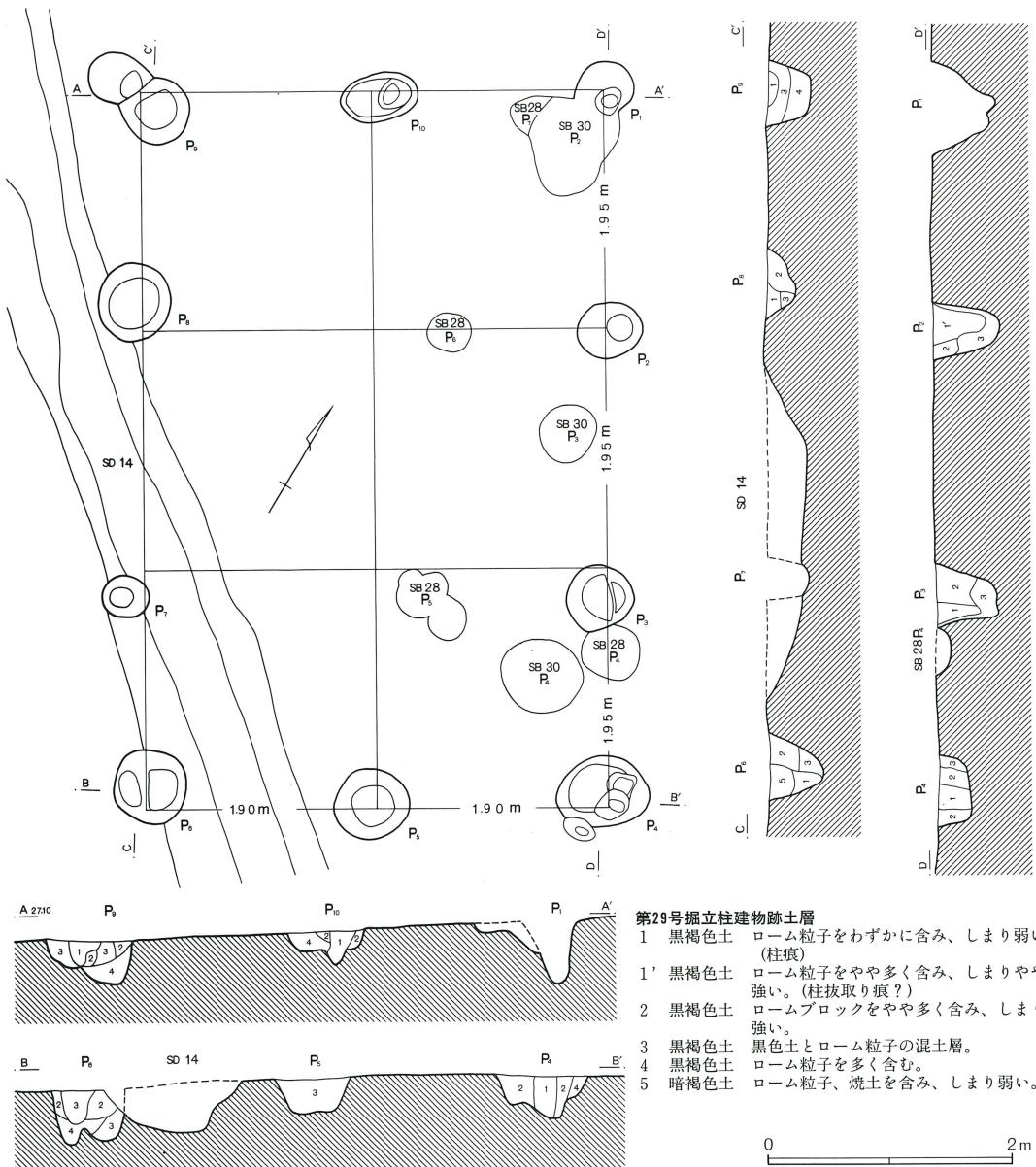
遺跡南部、J-21グリッドに位置する。主軸方位はN-17°-Wで北西向きの建物跡である。第29・30号掘立柱建物跡と重複する。桁行は2間で4m、柱間は2m。梁行は2間で3.6m、柱間は1.8m。柱穴はやや小さく、約40cm×25cmの楕円形のものが多く、深さは約15cmであった。P6がややずれ、本遺構のピットであるか不明。出土遺物はなかった。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。遺構の時期は古代であろう。



第151図 第28号掘立柱建物跡

第29号掘立柱建物跡（第152図）

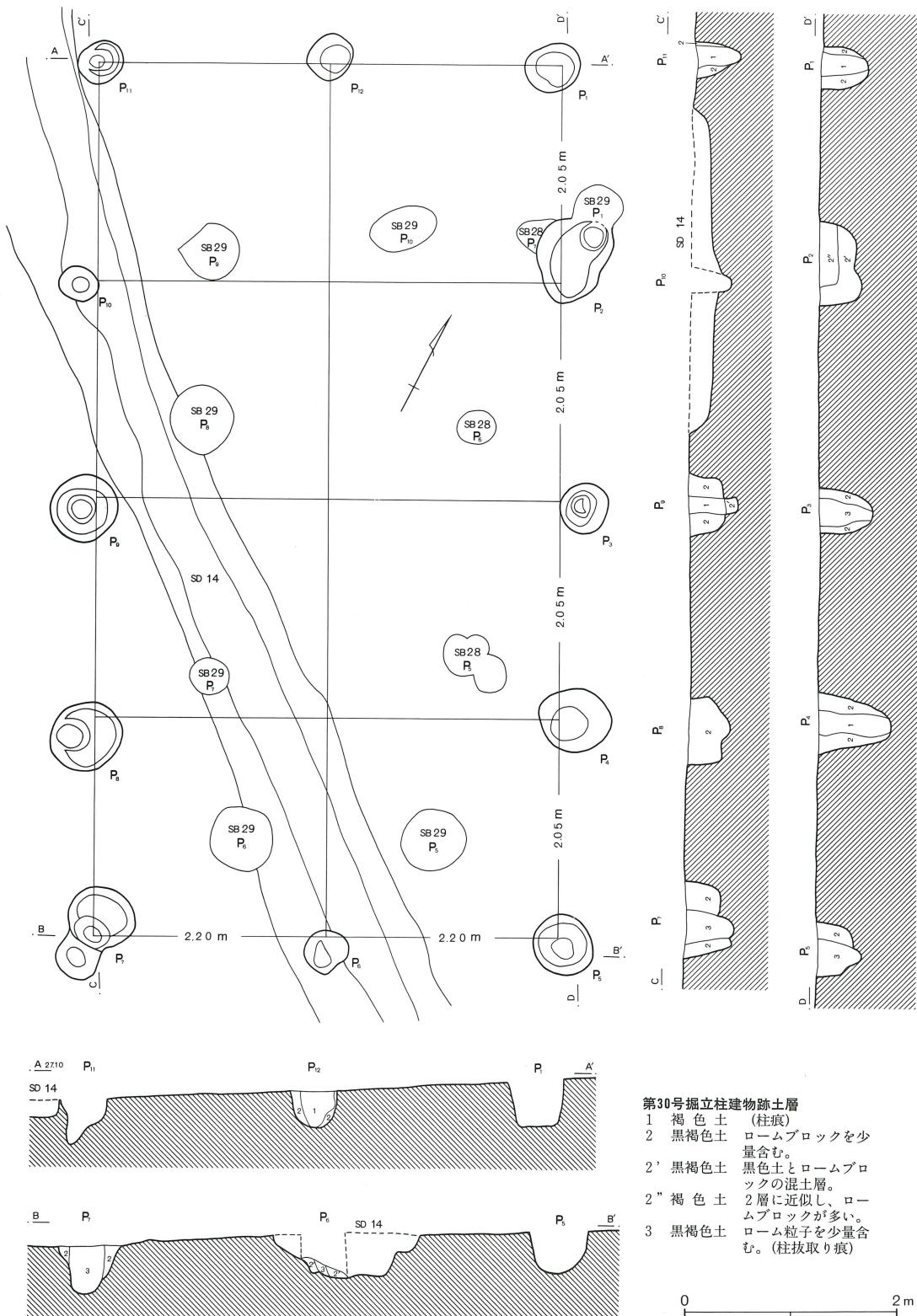
遺跡南部、J-21グリッドに位置する。主軸方位はN-32°-Wで北西向きの建物跡である。第28・30号掘立柱建物跡と重複する。桁行は3間で5.85m、柱間は1.95m。梁行は2間で3.8m、柱間は1.9m。柱穴は約60cm×50cmの楕円形のものが多く、深さは20~50cmであった。柱痕が確認できた柱穴が多い。出土遺物は8世紀代と思われる土師器片を検出した。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。遺構の時期は古代であろう。



第152図 第29号掘立柱建物跡

第30号掘立柱建物跡（第153図）

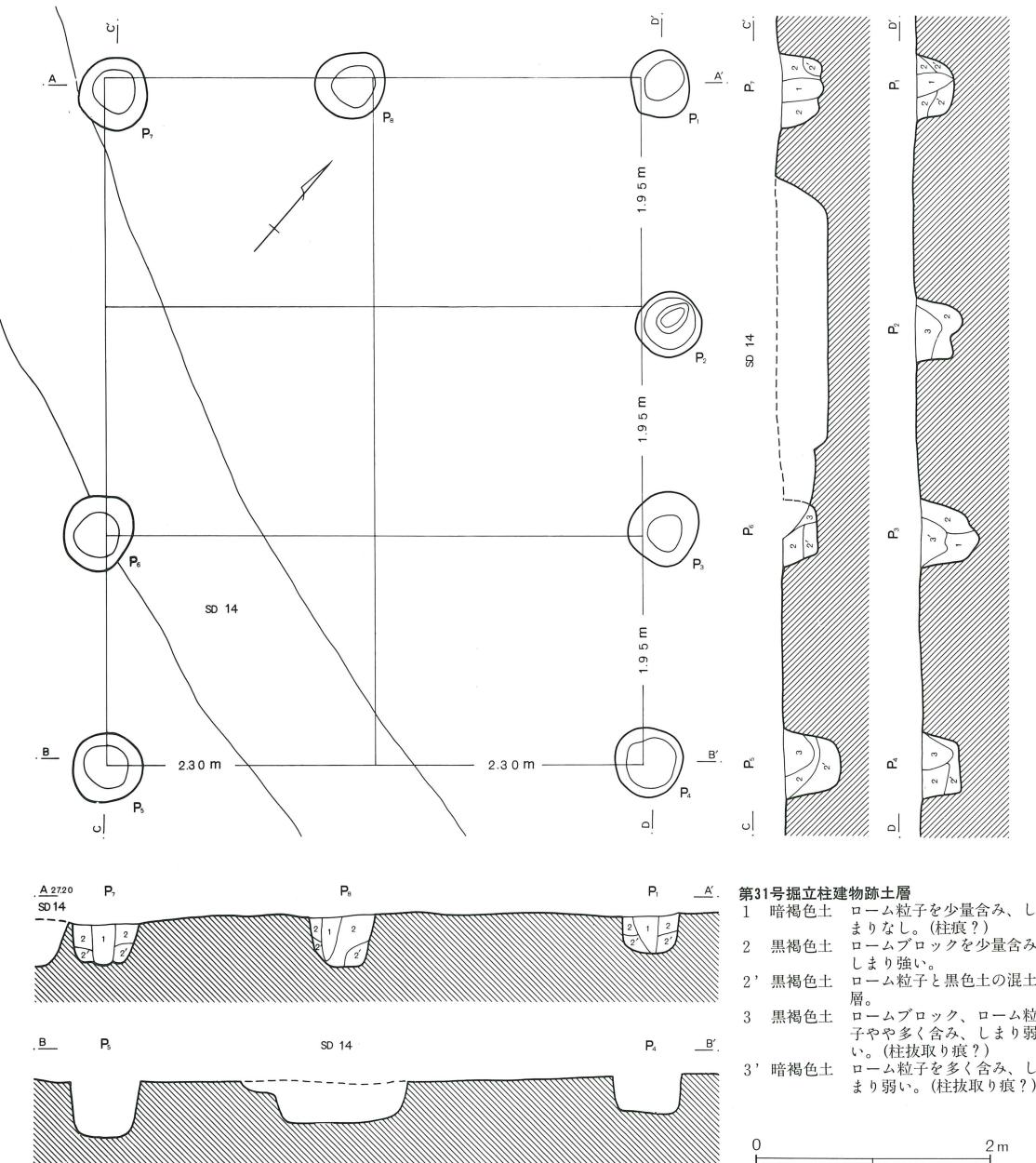
遺跡南部、J-21グリッドに位置する。主軸方位はN-28°-Wで北西向きの建物跡である。第28・29号掘立柱建物跡と重複する。桁行は4間で8.2m、柱間は2.05m。梁行は2間で4.4m、柱間は2.2m。柱穴は径約55cmのほぼ円形のものが多く、深さは約30~60cmであった。柱痕、あるいは柱を抜取った痕跡を観察できた柱穴が多い。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。8世紀代と思われる須恵器片、土師器片を検出した。遺構の時期は古代であろう。



第153図 第30号掘立柱建物跡

第31号掘立柱建物跡（第154図）

遺跡南端、K-22グリッドに位置する。主軸方位はN-41°-Wの北西向きの建物跡である。桁行は3間で5.85m、柱間は1.95m。梁行は2間で4.6m、柱間は2.3m。柱穴は円形で径約60cmほどのやや大きめのものが多く、深さは30~45cm。柱穴は柱痕、あるいは柱を抜取った痕跡を観察できたものが多い。8世紀代と思われる土師器片を検出した。遺跡西部に並ぶ掘立柱建物跡群の一つである。遺構の時期は古代であろう。

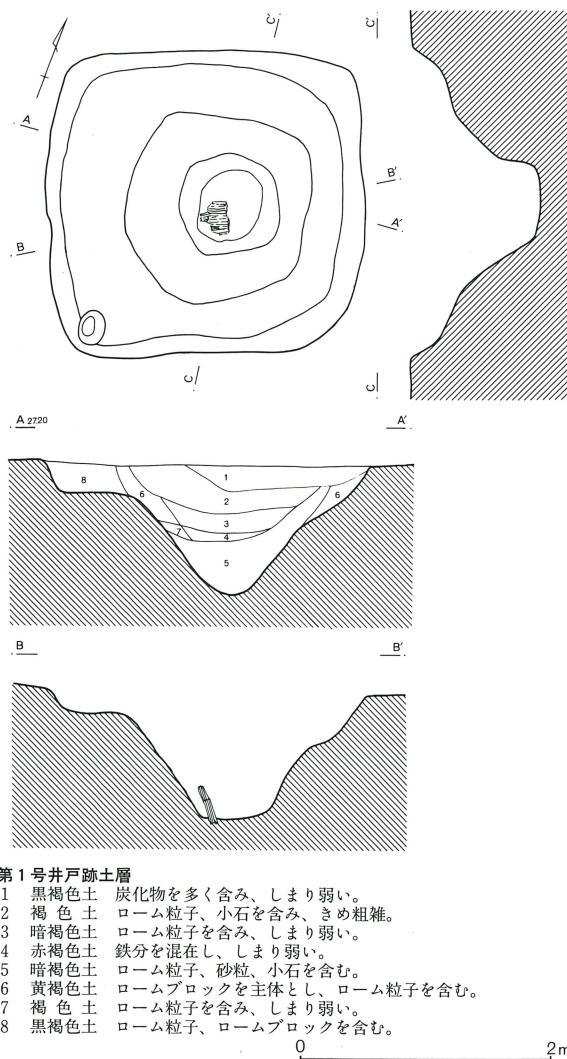


第154図 第31号掘立柱建物跡

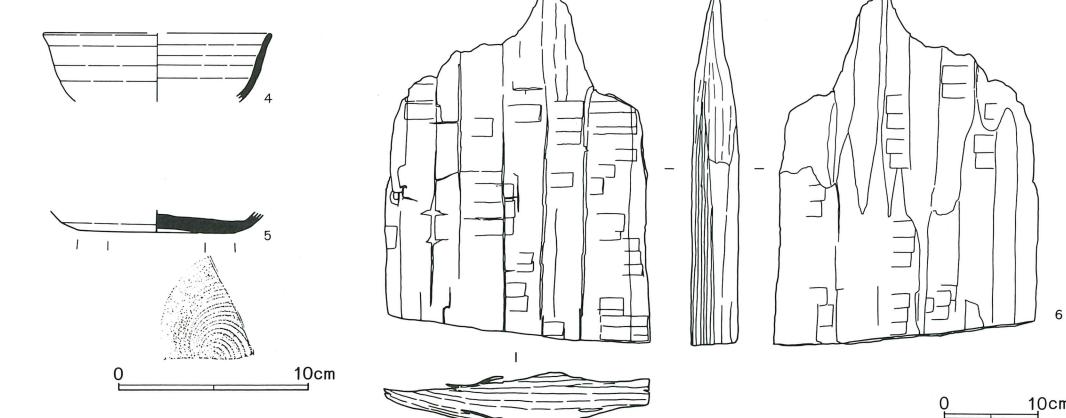
(3) 井戸跡

第1号井戸跡 (第155・156図)

遺跡東部、G-25グリッドに位置し、第11号住居跡の中央を切って構築していた。上端の平面は約2.55m×2.5mの隅丸方形で、底はほぼ円形で約55cm×50cmである。上部にテラス状の段を持ち、中位から下は擂鉢状に掘り込まれていた。深さは約1mである。井戸の底から井戸枠と思われる板材を検出した。遺物は第11号住居跡のものと思われるものもあったが、8世紀代のものを多數検出した。1の土師器坏は口縁部の立上がりが緩い、赤彩された皿状の土器である。2の須恵器坏は口縁部が外反し、先端でやや厚い。遺構の時期は出土遺物から稻荷前VII期頃であろう。



第155図 第1号井戸跡



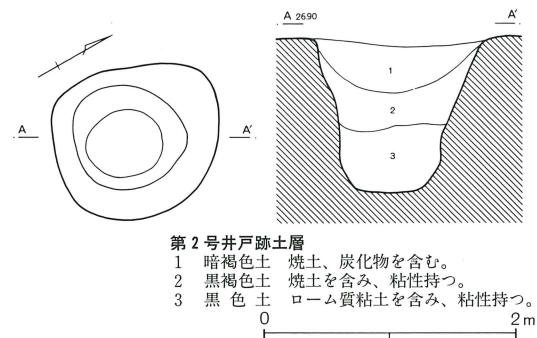
第156図 第1号井戸跡出土遺物

第1号井戸跡出土遺物観察表 (第156図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(13.6)			B C	B	橙	5%	覆土一括、赤彩
2	壺	(15.7)			B C G	C	灰白	10%	覆土一括
3	壺	(12.8)			B C G	A	暗青灰	10%	覆土一括
4	壺	(11.9)			B C G	A	暗青灰	10%	No.25・床上25cm
5	壺			(8.2)	B C G	A	暗青灰	15%	No.14・床上25cm
6	板材				残存長37.5cm 幅27.3cm 厚さ5.5cm				井戸枠

第2号井戸跡 (第157図)

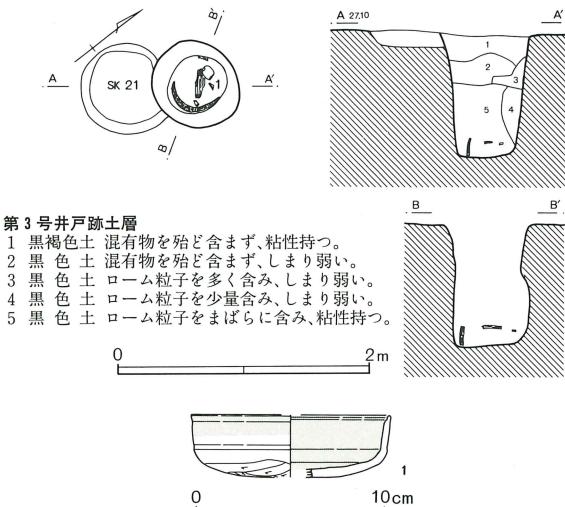
遺跡東端、I-26グリッドに位置し、第23号住居跡の北側に隣接する。形態は上端が約1.35m×1.2mの楕円形で、深さは約1.2m、下端も楕円形で0.6m×0.5mである。断面は上部が開き気味であるが、ほぼ円柱状に掘り込まれていた。出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。



第157図 第2号井戸跡

第3号井戸跡 (第158図)

遺跡東部、I-25グリッドに位置する。第21号土壙を切る。形態は上端が径約0.7mの円形で、深さは0.95m、下端も径約0.5mの円形である。断面はほぼ円柱状に掘り込まれていた。底から丸太を削ぎて作ったと思われる井戸枠の破片、遺物1の壺、やや浮いた状態の木片を検出した。1の土師器壺は赤彩され、底部が低く、口縁部はほぼ直立する。口縁部内面の沈線は鋭い。遺物1から遺構の時期は稻荷前IV期頃であろう。



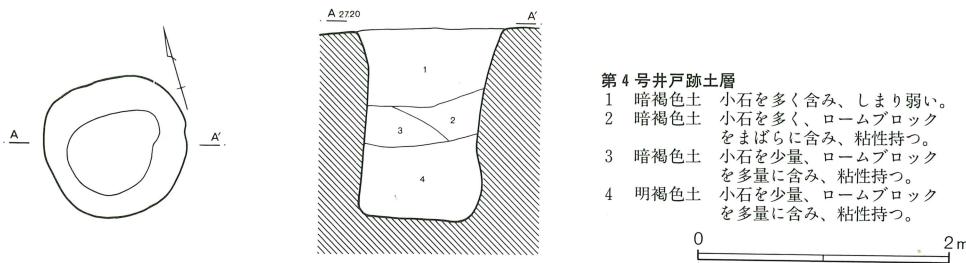
第158図 第3号井戸跡・出土遺物

第3号井戸跡出土遺物観察表 (第158図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(10.5)	3.3		B C E G	A	橙	40%	No.3・床上7cm、覆土一括、赤彩

第4号井戸跡 (第159図)

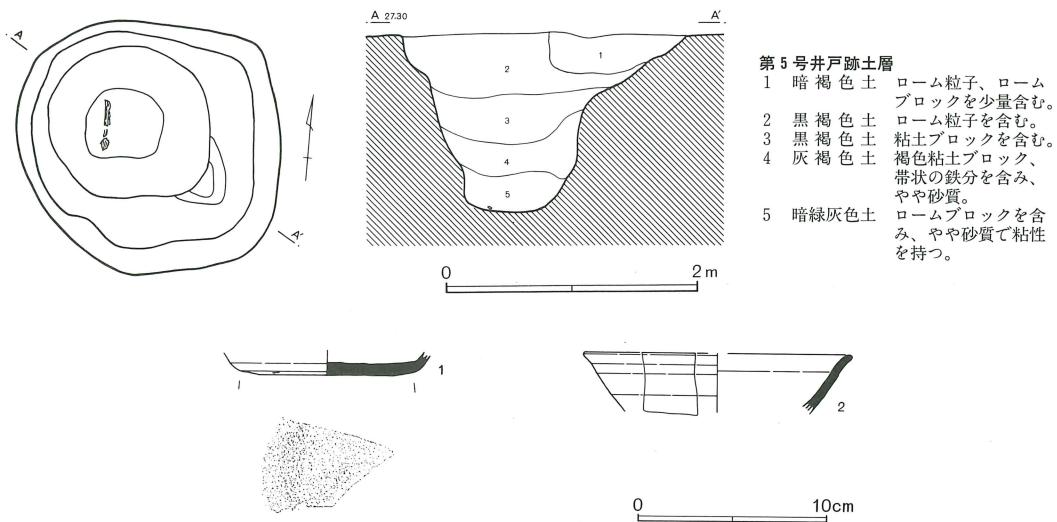
遺跡中央部やや東より、H-24グリッドに位置し、第20号住居跡の南に隣接する。形態は上端が径約1.1mのほぼ円形で、深さは1.5m、下端は楕円形で約0.75m×0.6mである。断面はほぼ円柱状に掘り込まれ、覆土にはロームブロックを含み、人為的な堆積状態であった。出土遺物はなかった。



第159図 第4号井戸跡

第5号井戸跡 (第160図)

遺跡中央部やや東より、H-24グリッドに位置する。形態は上端が約2.1m×2mの隅丸方形で、深さは1.4m、下端も隅丸方形で約0.6m×0.55mである。断面は上部でロート状であるが、中位から下はほぼ円柱状に掘り込まれていた。断面観察から1層は新しい時期の土壌であることがわかった。2～5層が本遺構の覆土である。底から木片を検出した。遺物2の須恵器坏は口縁部下の湾曲が大きい。出土遺物から遺構の時期は稻荷前VIII期頃であろう。



第160図 第5号井戸跡・出土遺物

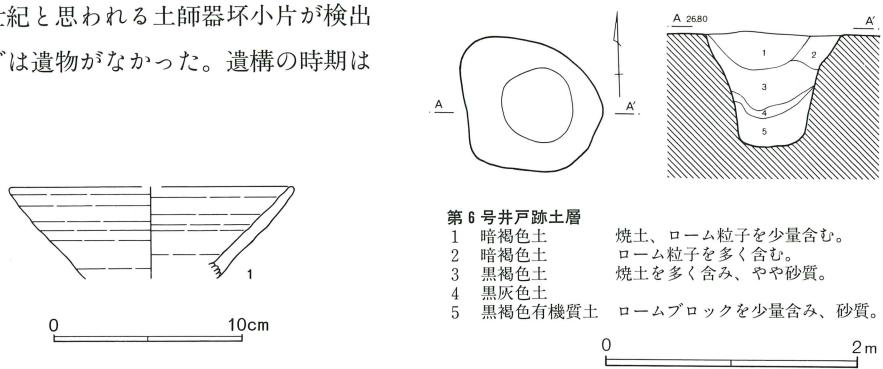
第5号井戸跡出土遺物観察表 (第160図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏			(9.2)	B C F G	A	暗青灰	10%	覆土一括
2	坏	(14.0)			B C G	A	暗青灰	5%	覆土一括

第6号井戸跡 (第161図)

遺跡南東部、I-25グリッドに位置する。形態は上端が約1.1m×1.05mの形の崩れた隅丸方形で、深さは約0.9m、下端は円形で径約0.55mである。断面上部はロート状に、下半は円柱状に掘り込まれていた。遺物1の土師器高台椀は覆土上層からの検出で、10世紀代のものと思われる。他に

覆土上層から8世紀と思われる土師器壺小片が検出できたが、下層では遺物がなかった。遺構の時期は古代であろう。



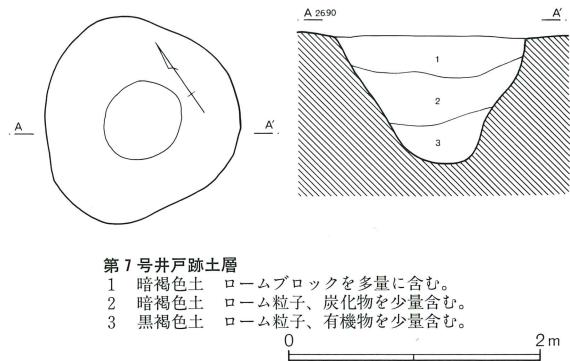
第161図 第6号井戸跡・出土遺物

第6号井戸跡出土遺物観察表 (第161図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	高台椀	(15.0)			A B C	A	にぶい橙	15%	覆土上層一括

第7号井戸跡 (第162図)

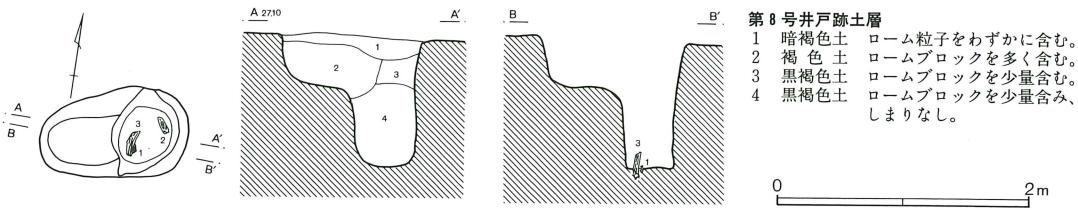
遺跡南東部、I-25グリッドに位置する。形態は上端が約1.65m×1.55mの楕円形で、深さは約1m、下端は円形で径約0.65mである。断面はロート状に掘り込まれ、断面観察で覆土の1層はロームブロックを多量に含むことから人為的な堆積であり、他の層と異なった状況である。出土遺物は8世紀代と思われる土師器片を検出した。遺構の時期は古代であろう。



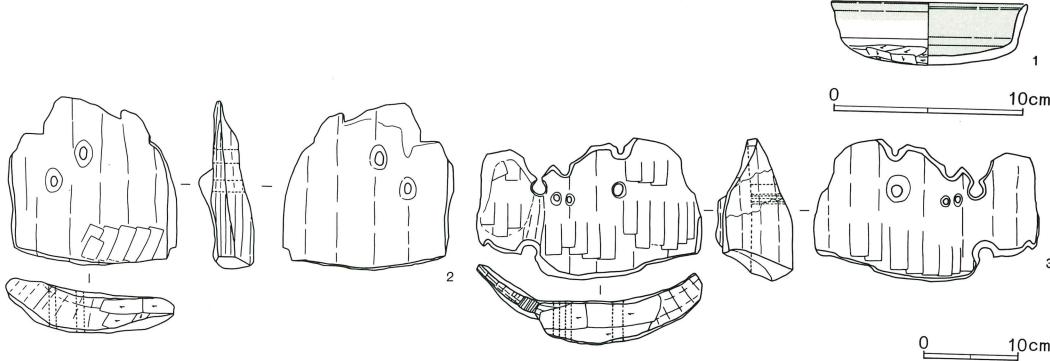
第162図 第7号井戸跡

第8号井戸跡 (第163・164図)

遺跡南東部、J-24グリッドに位置する。土壙状の掘込みと井戸の掘込みが一体になった遺構である。土層観察で2、3層の上面に1層が覆うことから、土壙状の掘込みと井戸は同一の遺構と考えられる。土壙状の掘込みは井戸の施設であろうか。形態は上端が約1.2m×0.7mの長楕円形で、深さは約1m、下端は円形で径約0.45mである。断面は円柱状に掘り込まれ、底から井戸枠と思われる板材を2点、土師器の壺を検出。板材は丸太を割貫いた状態のもので、約1cm×1.2cm丸い穴がNo.2は2箇所、No.3は3箇所貫通する。遺物1の土師器壺は赤彩され、口縁部は外反緩く、直立気味の土器である。口縁部内面に鋭く明瞭な沈線が巡る。底部内面に墨状のものが付着する。遺構の時期は稻荷前IV期頃であろう。



第163図 第8号井戸跡



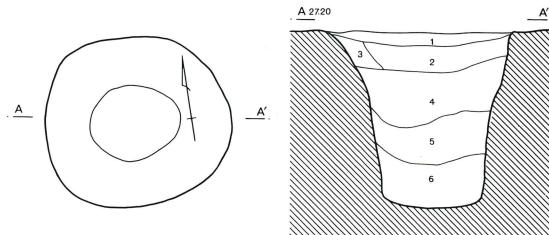
第164図 第8号井戸跡出土遺物

第8号井戸跡出土遺物観察表 (第164図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	10.3	3.3		B C F G	A	淡橙	90%	No. 3・床面直上、赤彩
2	板材				残存長17.6cm 幅18.1cm 厚さ4.2cm				No. 1・井戸枠
3	板材				残存長15cm 幅24cm 厚さ4.6cm				No. 2・井戸枠

第9号井戸跡 (第165図)

遺跡南東部、J-24グリッドに位置する。形態は上端が約1.5m×1.35mの楕円形で、深さは1.4m、下端は楕円形で約0.7m×0.6mである。断面上部はやや開き気味、中位から下は円柱状に掘り込まれていた。8世紀代と思われる土師器片を検出した。遺構の時期は古代であろう。



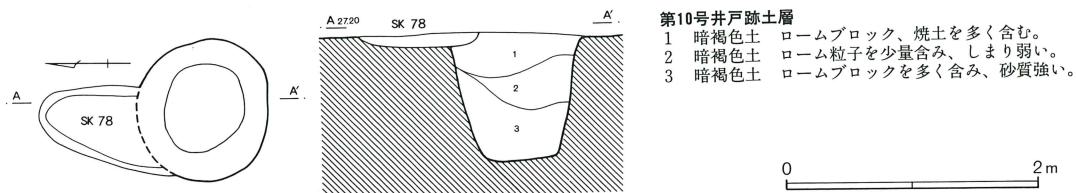
第9号井戸跡土層
 1 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む。
 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
 3 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。
 4 黒褐色土 焼土を多く、ローム粒子、人頭大の礫を含む。
 5 黒褐色有機質土 ローム粒子を少量含み、やや砂質。
 6 黒褐色有機質土 人頭大の礫多量に含み、砂質強い。



第165図 第9号井戸跡

第10号井戸跡 (第166図)

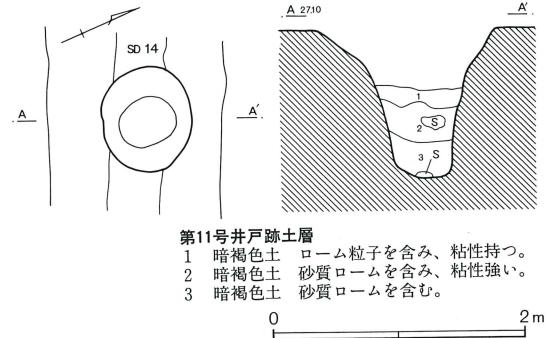
遺跡南端、J-23グリッドに位置する。第27・28号住居跡に隣接し、切り合はない。第78号土壙に切られる。形態は上端が径約1.1mのほぼ円形で、深さは約1m、下端もほぼ円形で径約0.65mである。断面はやや開き気味の円柱状に掘り込まれていた。遺物は検出しなかった。遺構の時期は第27・28号住居跡と重ならない時期、中世であろう。



第166図 第10号井戸跡

第11号井戸跡 (第167図)

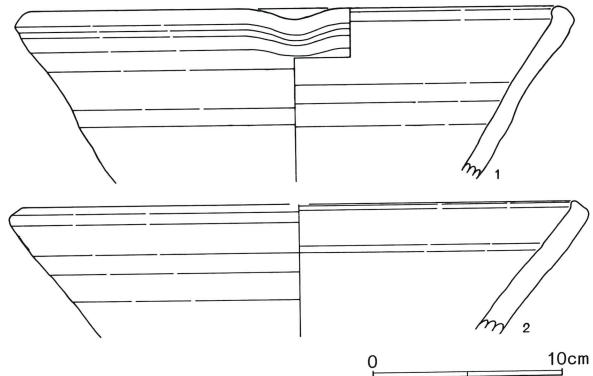
遺跡南端、K-22グリッドに位置する。第14号溝跡に遺構の上半部を切られていた。形態は遺存部上端は約0.85m×0.7mの楕円形で、深さは約1.15m、下端も楕円形で約0.45m×0.35mである。断面下半はやや開き気味の円柱状に掘り込まれていた。中、下層から長さ約20cm、15cmの河原石を検出した。出土土器はなかった。遺構の時期は不明である。



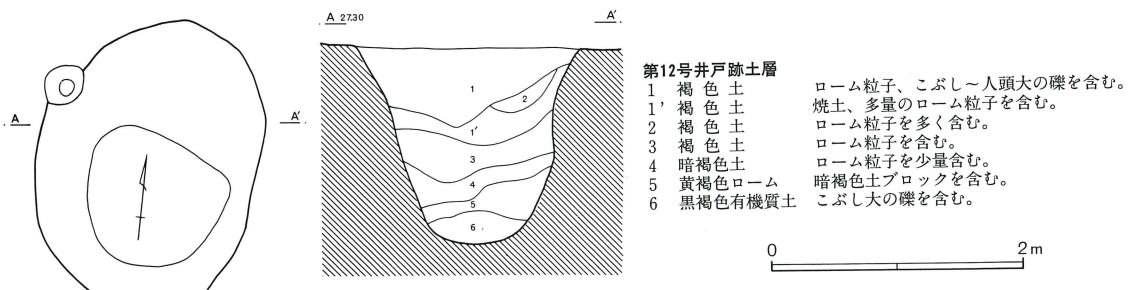
第167図 第11号井戸跡

第12号井戸跡 (第168・169図)

遺跡中央部やや南より、I-23グリッドに位置する。第1号、第24号住居跡と重複する。形態は上端が約2.35m×1.7mの楕円形で、深さは約1.55m、下端は不整楕円形で約1.1m×1mである。断面は開き気味のほぼ円柱状に掘り込まれていた。出土遺物は1、2は焼きの悪い在地産の鉢で、時期は15世紀と思われる。遺構の時期は中世であろう。



第168図 第12号井戸跡出土遺物



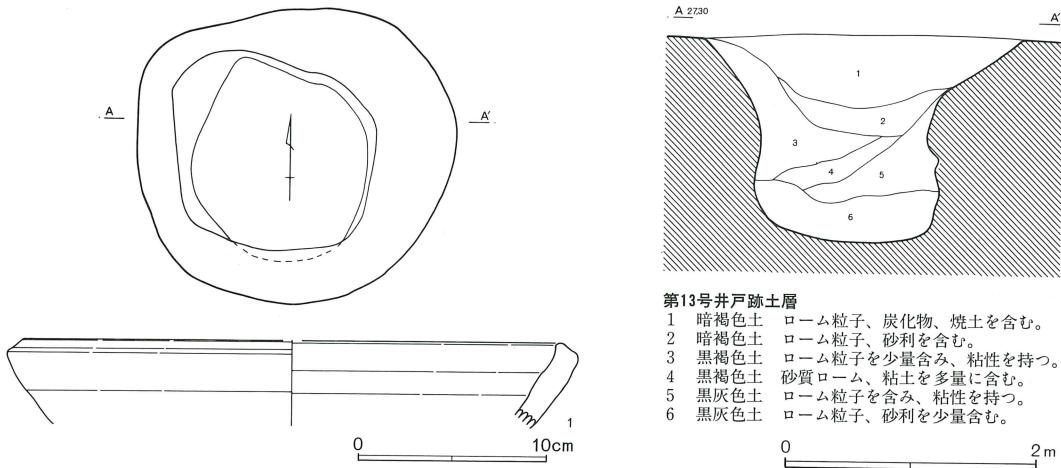
第169図 第12号井戸跡

第12号井戸跡出土遺物観察表 (第169図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	片口鉢	(28?)			A B G E	D	灰白	10%	覆土一括
2	鉢	(29?)			B C F G	C	にぶい褐	10%	覆土一括、外面は黒

第13号井戸跡 (第170図)

遺跡中央部、H-23グリッドに位置する。形態は上端が約2.55m×2.4mの楕円形で、深さは約1.7m、下端は隅丸方形で約1.4m×1.35mである。断面は上半はロート状に開き、下半は壁の崩落があったが、ほぼ円柱状に掘り込まれていた。覆土上層から遺物1の煉瓦色をした素焼きの鉢を検出した。時期は16世紀と思われる。遺構の時期は中世末であろう。



第170図 第13号井戸跡・出土遺物

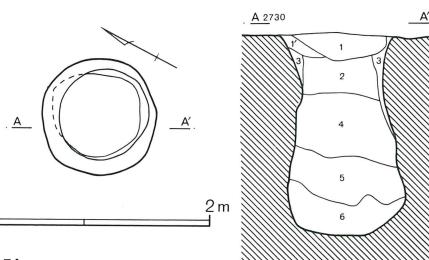
第13号井戸跡出土遺物観察表 (第170図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	鉢	(28?)			B F G	B	赤橙	10%	覆土上層一括

第14号井戸跡 (第171図)

遺跡中央部、第13号井戸のすぐ北側、H-23グリッドに位置する。形態は上端が径約0.9mの円形で、深さは約1.6m、下端も円形で約0.7mである。壁は中位から下で崩落が認められた。本来の断面は円柱状であったと思われる。8世紀代と思われる土師器片、須恵器片をわずかに検出した。遺構の時期は古代であろう。

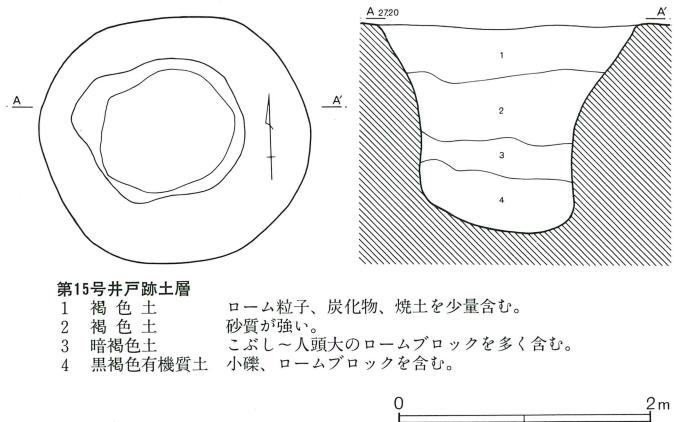
- 第14号井戸跡土層
 1. 褐色土 ローム粒子、ロームブロック、砂粒を含む。
 1'. 褐色土 1層に近似するが、明るい。
 2. 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック、砂粒を含む。
 3. 褐色土 ローム粒子、砂粒を含む。
 4. 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
 5. 青灰色土 小石、砂粒を含む粘土を主体とし、ロームブロックを含む。
 6. 青灰色土 粘土を主体とし、砂粒、礫を含む。



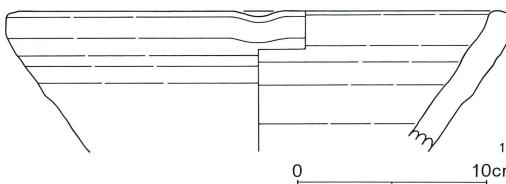
第171図 第14号井戸跡

第15号井戸跡 (第172・173図)

遺跡中央部、H-23グリッドに位置する。形態は上端が約2m×1.9mの楕円形で、深さは1.6m、下端も楕円形で約1.1m×0.9mである。断面上部はロート状に、下半は円柱状に掘り込まれていた。1の片口鉢を検出した。灰白色で焼きの悪い、在地産のもので、時期は15世紀と思われる。遺構の時期は中世であろう。



第172図 第15号井戸跡



第173図 第15号井戸跡出土遺物

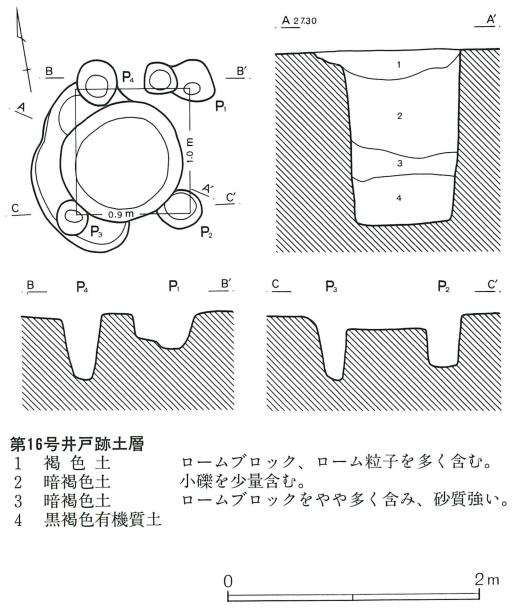
第15号井戸跡出土遺物観察表 (第173図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	片口鉢	(25.0)			B G	B	灰白	10%	覆土一括、外面は黒

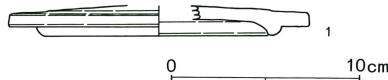
第16号井戸跡 (第174・175図)

遺跡中央部やや北寄り、G-23グリッドに位置する。発掘調査時には井戸本体だけの確認であったが、整理時に井戸を囲む覆屋になると思われるピットが確認できた。覆屋は1間×1間で、柱間は1m、0.9mである。

井戸の形態は上端が径約0.9mの円形で、西側部分に幅約25cmの周溝状の掘込みを持つ。深さは約1.4m。下端も円形で径約0.75mである。断面は円柱状に掘り込まれていた。遺物1は焼きが悪く、偏平な形をした蓋であり、16世紀のものと思われる。遺構の時期は中世末であろう。



第174図 第16号井戸跡



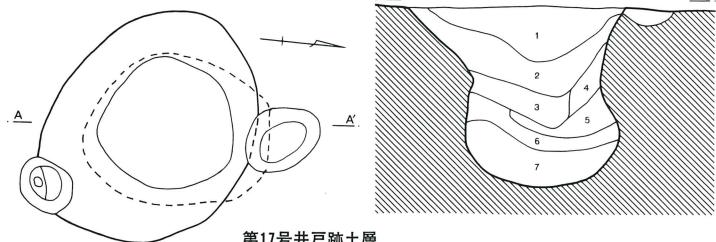
第175図 第16号井戸跡出土遺物

第16号井戸跡出土遺物観察表 (第175図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	蓋	(16.0)			A B F G	C	淡橙	20%	覆土一括

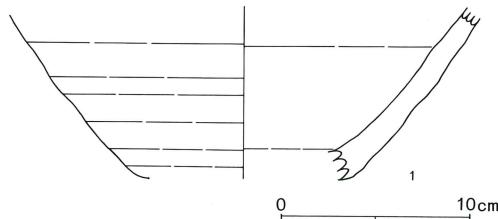
第17号井戸跡 (第176図)

遺跡北側、F-22グリッドに位置する。第9号掘立柱建物跡と重複する。形態は上端が約2m×1.55mの楕円形で、深さは約1.45m、下端は楕円形で約1.4m×1.2mである。断面上半はロート状に、下半はやや崩落が認められたが本来は円柱状に掘り込まれていたと思われる。両端のピットは本遺構に伴わない。遺物1の鉢は胎土、成形ともによくない、在地産のもので、時期は15世紀と思われる。遺構の時期は中世であろう。



第17号井戸跡土層

- 1 褐色土 ローム粒子、ロームブロックをやや多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、きめ細かい。
- 3 暗褐色土 2層に比べ粘性持ち、しまり弱い。
- 4 褐色土 砂粒を含み、3層に比べ明るく、しまり弱い。
- 5 黒褐色土 ローム粒子、砂粒を少量含む。
- 6 褐色土 ローム粒子、砂粒を含む。
- 7 黒褐色土 砂利、黒色土を含み、しまりやや持つ。



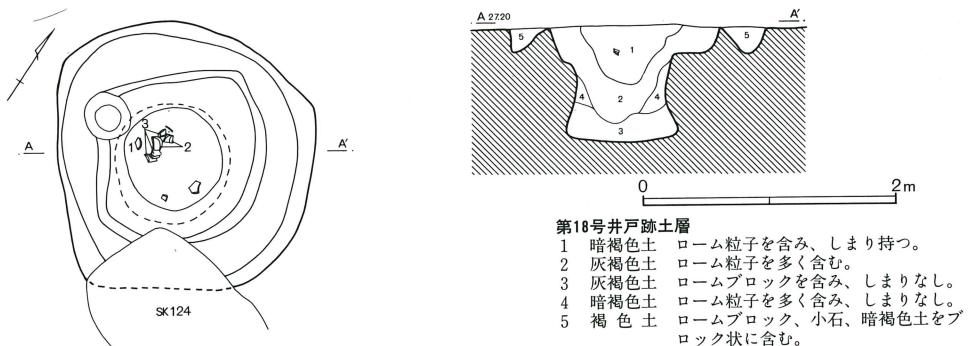
第176図 第17号井戸跡・出土遺物

第17号井戸跡出土遺物観察表 (第176図)

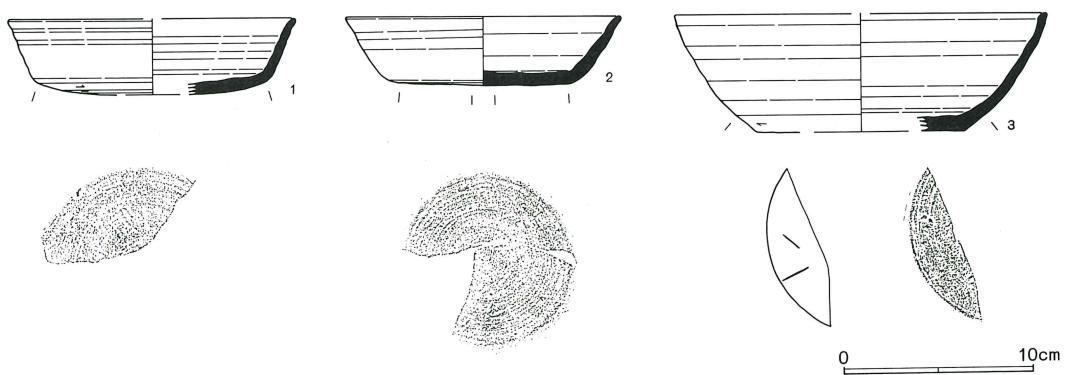
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	鉢				A B F G	C	黒灰	15%	覆土一括

第18号井戸跡 (第177・178図)

遺跡西端、F-19グリッドに位置する。第17号掘立柱建物跡のP9、第124号土壙に切られていた。形態は上端が約2.1m×2mの方形で、幅約35cm、深さ約20cmの周溝状の掘込みが井戸本体を囲む。底までの深さは約95cm、下端はほぼ円形で径約90cmである。断面上半はロート状にやや開き、中位で肩を持つ。下半はほぼ円柱状に掘込まれるが、底で壁の崩落がみられ、広がっていた。1～3の遺物が井戸上層からまとめて出土した。1は焼きのよい須恵器坏で、口縁部内外面ともロクロナデによる凹凸を残す。2は焼きの悪い灰白色の坏で、口縁内面に凹線状のややきつい掘込みが巡る。3は焼きのよい椀で底径が小さいが、口縁がやや大きく開き、口縁内面の窪みも大きい。遺物の時期は稻荷前VI期であろう。遺構の時期もほぼ同じ頃であろう。



第177図 第18号井戸跡



第178図 第18号井戸跡出土遺物

第18号井戸跡出土遺物観察表 (第178図)

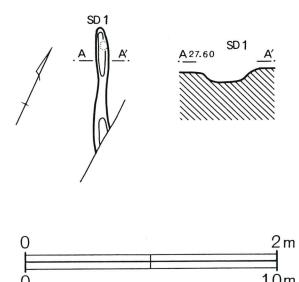
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(15.0)	(4.0)	(11.0)	B C G J	A	暗青灰	30%	No. 1・床上81cm
2	壺	14.4	3.7	8.8	B C G	C	灰白	80%	No. 2・3・床上81cm
3	椀	(19.6)	(6.2)	(11.0)	B G	A	暗青灰	30%	No. 4・7・9・床上80cm、底部に範記号あり

(4) 溝跡

本遺跡で検出した溝跡は古代の時期のものは無く、中世か近世のものである。出土遺物のない溝跡も多かった。遺跡中央部では方形区画を形成するように、長く延びて直角に曲る溝跡が検出された。遺跡西部では小規模の溝が群集していた。

第1号溝跡 (第179図)

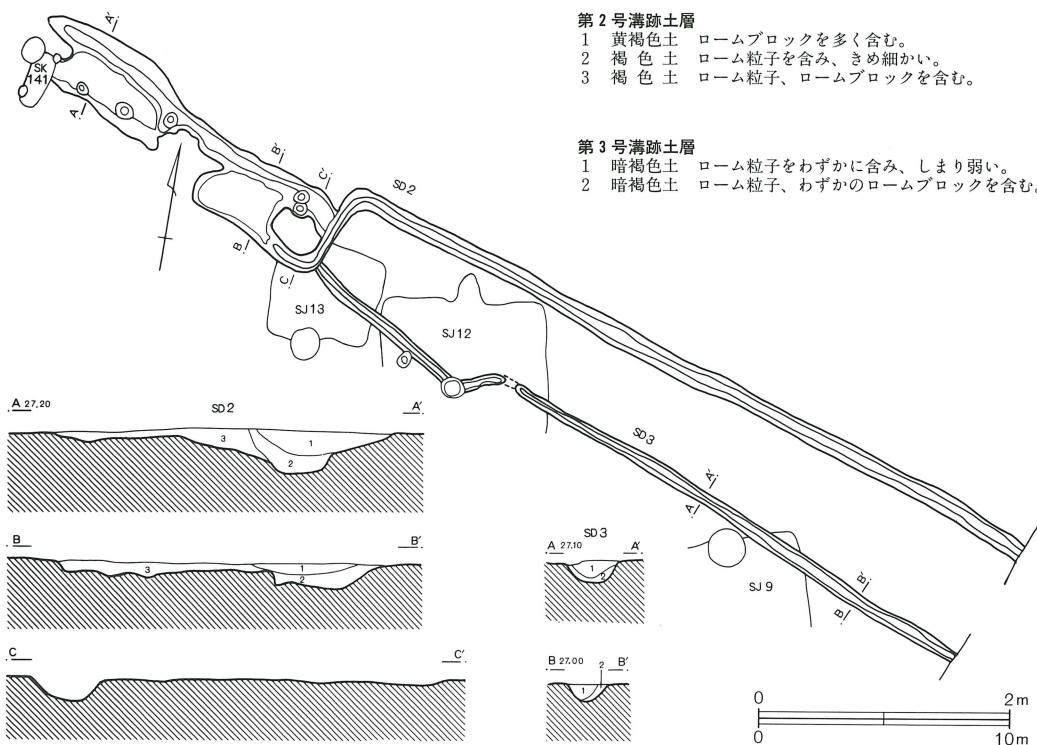
遺跡北東端、C-27グリッドに位置し、南東方向に延びる小さい溝跡である。上端の幅は約35~40cm、深さは約10cm、長さは調査範囲内で約4mであり、範囲外に延びる。北西部より南東部の方が深かった。出土遺物はなかった。遺構の時期は中世の第1号掘立柱建物跡を切ることから近世であろう。



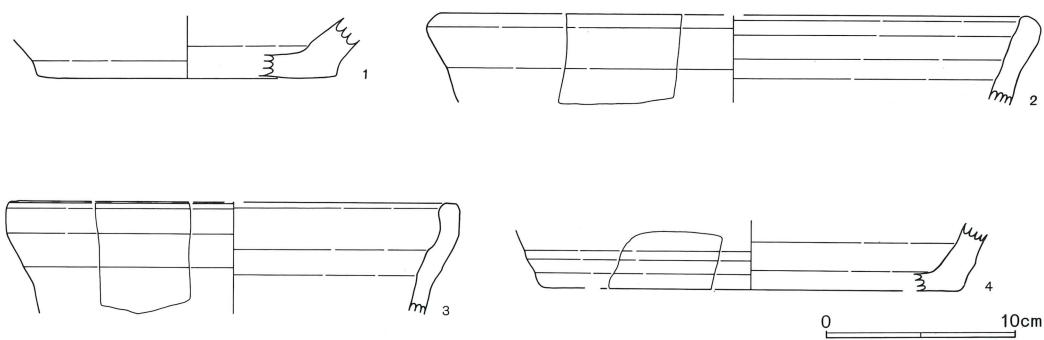
第179図 第1号溝跡

第2号溝跡（第180・181図）

遺跡中央から西端、F-23～F-27グリッドに位置し、東西に延びる。西端の第141号土壙東側附近、中央部の第13号住居跡西側付近では淀みを持ち、幅が広くなっていた。第13号住居跡のあたりで一度北に屈曲し、すぐまた東に屈曲する。上端の幅は約65～80cm、深さは20～35cm、長さは調査範囲内で約45mであり、範囲外に延びる。深さは西部より東部の方が深かった。出土遺物1は常滑の甕の底部で、外面は紫かかった、にぶい赤で、内面は灰白、底部より体部の方が厚く、体部は直立気味に立上がり、すぐ外反する。2、3、4は焼きが悪く、在地産の鍋の小片である。遺構の時期は在地産の鍋から15世紀頃であろう。



第180図 第2・3号溝跡



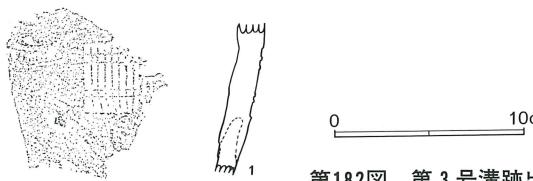
第181図 第2号溝跡出土遺物

第2号溝跡出土遺物観察表（第181図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	甕			(16?)	A B G	A	にぶい赤	10%	覆土一括、常滑
2	土鍋	(31?)			A B G	C	灰白	5%	覆土一括
3	内耳鍋	(22?)			A B F G	C	灰	5%	覆土一括
4	内耳鍋			(22?)	A B F G	C	灰	5%	覆土一括、外面は黒

第3号溝跡（第180・182図）

遺跡中央部から東部、F-24～G-27グリッドに位置し、第2号溝から東に分岐する。上端の幅は約40～50cm、深さは約15cm、長さは調査範囲内で約30mであり、範囲外に延びる。西部より東部の方が深い。遺物1は外面に簾状の押印文を持つ。断面に粘土紐積上げ接合時の痕跡がみられ、内面にもそれが消されず残る。遺構の時期は遺物から15世紀頃であろう。



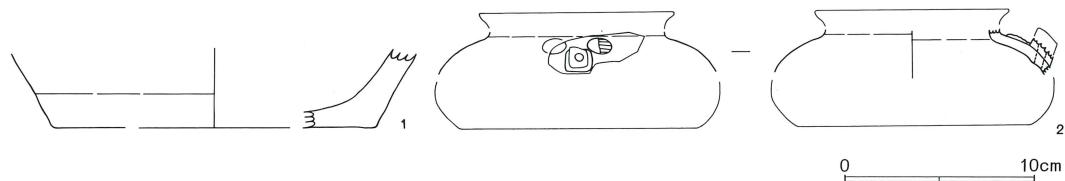
第182図 第3号溝跡出土遺物

第3号溝跡出土遺物観察表（第182図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	甕				B F G	A	灰白	5%	覆土一括、常滑、押印文あり

第4号溝跡（第184図）

遺跡北部、E-21～E-24グリッドに位置し、南に延び、東に屈曲し、北に屈曲、東に屈曲、北に屈曲し、遺跡北部の低地部に至り消滅する。上端の幅は約60～100cm、深さは約25cm、長さは約75mである。遺物1は焼きのよくない在地産の内耳鍋であろう。2は瀬戸・美濃の水滴である。4条の沈線を持ったボタン状の突起を注口の上部に2つ持ち、右は痕跡のみ、左は半分残存する。遺構の時期は遺物から16世紀頃であろう。



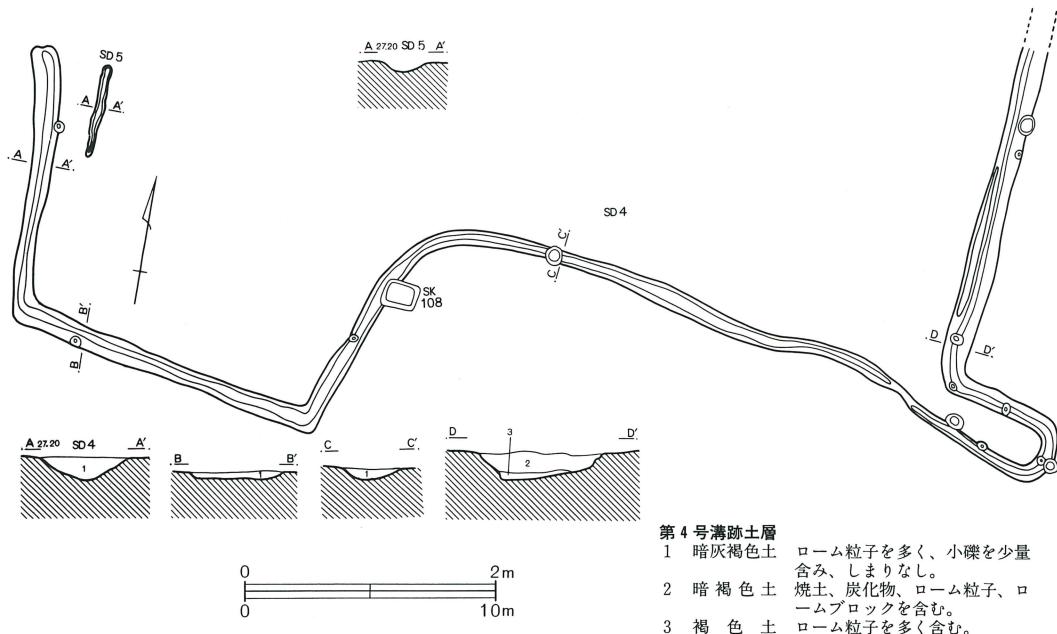
第183図 第4号溝跡出土遺物

第4号溝跡出土遺物観察表（第183図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	内耳鍋？			(17?)	A B G	C	灰白	5%	覆土一括
2	水滴				B	A	暗褐	5%	覆土一括、瀬戸・美濃

第5号溝跡（第184図）

遺跡北部、第4号溝に並行する。E-21～F-21グリッドに位置し、南北に延びる。上端の幅は約40cm、深さは約15cm、長さは約3.6mである。出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。



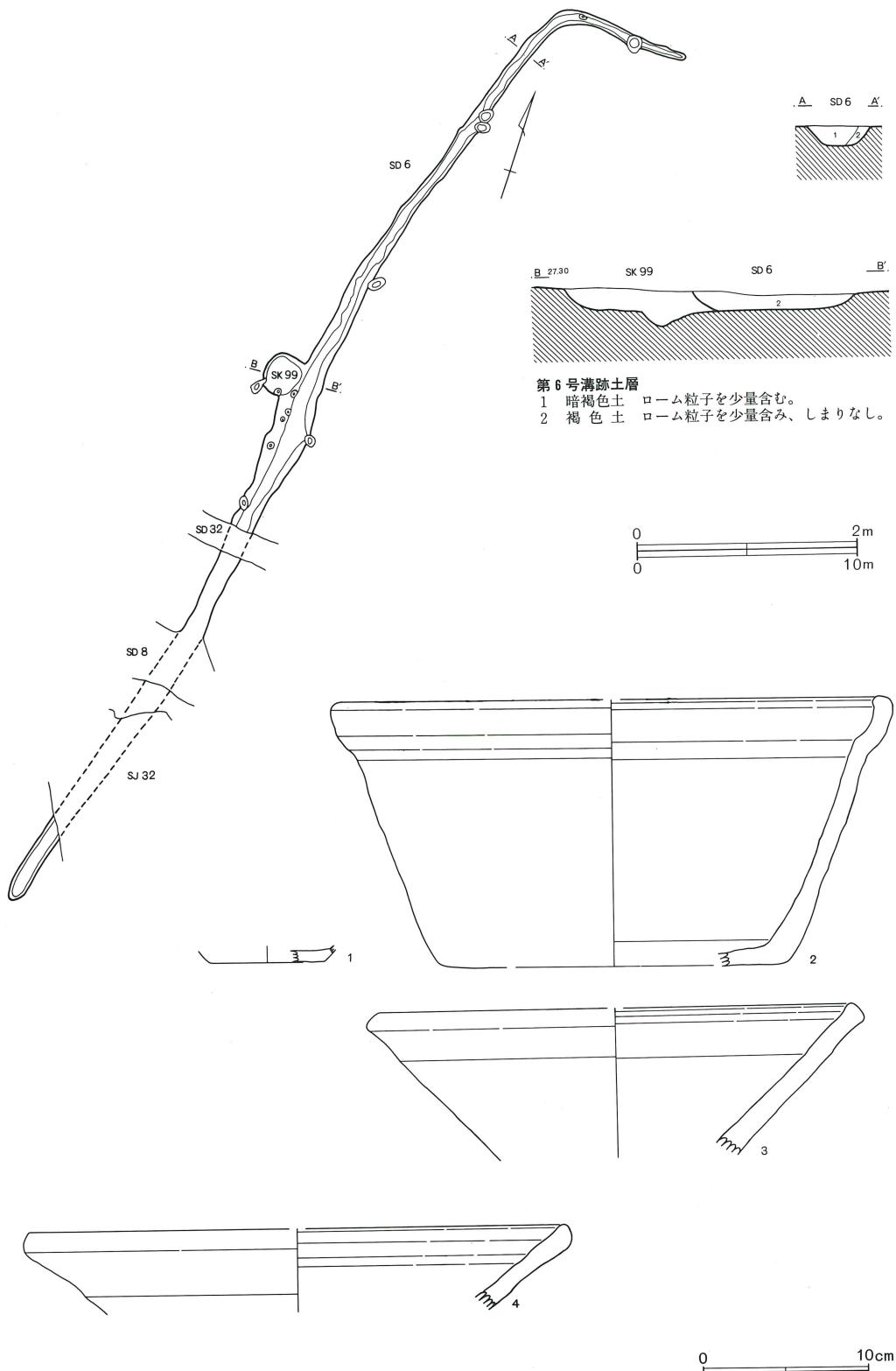
第184図 第4・5号溝跡

第6号溝跡（第185図）

遺跡南部から北部、J-21～F-23グリッドに位置する。ほぼ南北に延び、北端で東に屈曲する、区画溝である。第32、34、35号住居跡を切る。第8号溝に切られる。東端で立上がりてしまったが、第3号溝とつながる可能性がある。上端の幅は80～160cm、深さは20～25cm、長さは約53mである。深さは南部より北部の方が深い。遺物1は青白磁の皿で底部が厚く、体部が薄い。底部内面は底部外面より外に出て、体部との境に沈線状の屈曲を持ち、14世紀前半の遺物であろう。2～4は在地産の内耳鍋と鉢で、15世紀の遺物であろう。青白磁は伝製と思われ、遺構の時期は出土量の多い在地産土器から、15世紀であろう。

第6号溝跡出土遺物観察表（第185図）

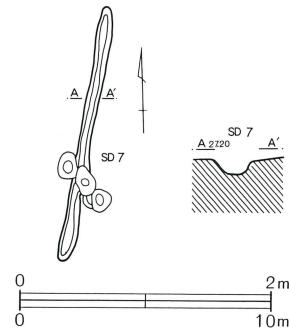
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	皿			(7.0)	B G	A	灰白	5%	覆土一括、青白磁
2	内耳鍋	(32.2)	16	(20.4)	B F G	A	黒	30%	覆土一括
3	鉢	(28?)			B C E F G	B	黒	20%	覆土一括、外面は黒で内面は灰
4	鉢	(32?)			A B E G	C	灰白	10%	覆土一括



第185図 第6号溝跡・出土遺物

第7号溝跡 (第186図)

遺跡中央部、G-22・23グリッド、第10号掘立柱建物跡の内側、第11号掘立柱建物跡、第16号井戸跡の西側に位置する。上端の幅は約25cm、深さは4~9cm、長さは約5.4mである。遺物はなかつたが、遺構の時期は中世であろう。

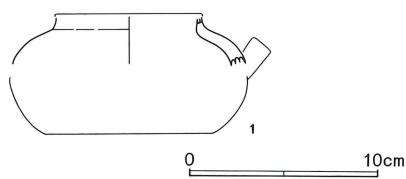


第186図 第7号溝跡

第8号溝 (第187・188図)

遺跡南部から東部、I-20~J-25グリッドに位置し、南北に延び、途中東に屈曲する。上端の幅は約70~150cm、深さは約20cm、長さは約60mである。南端では風倒木の攪乱に壊され、消滅してしまった。第33、34、25号住居跡を切る。第33、34号住居跡付近では、覆土中にピットが連続してい

た。第6号溝跡と重複するが、遺構精査時に本遺構が新しいことを確認した。第25号住居跡付近では浅くなり、二度立上がりてしまった。遺物1は瀬戸・美濃の水滴であろう。遺構の時期は16世紀頃であろう。



第187図 第8号溝跡出土遺物

第8号溝跡出土遺物観察表 (第187図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	水滴?				B F	B	黒褐	5%	覆土一括、色調内面にぶい赤、瀬戸・美濃

第9号溝 (第188図)

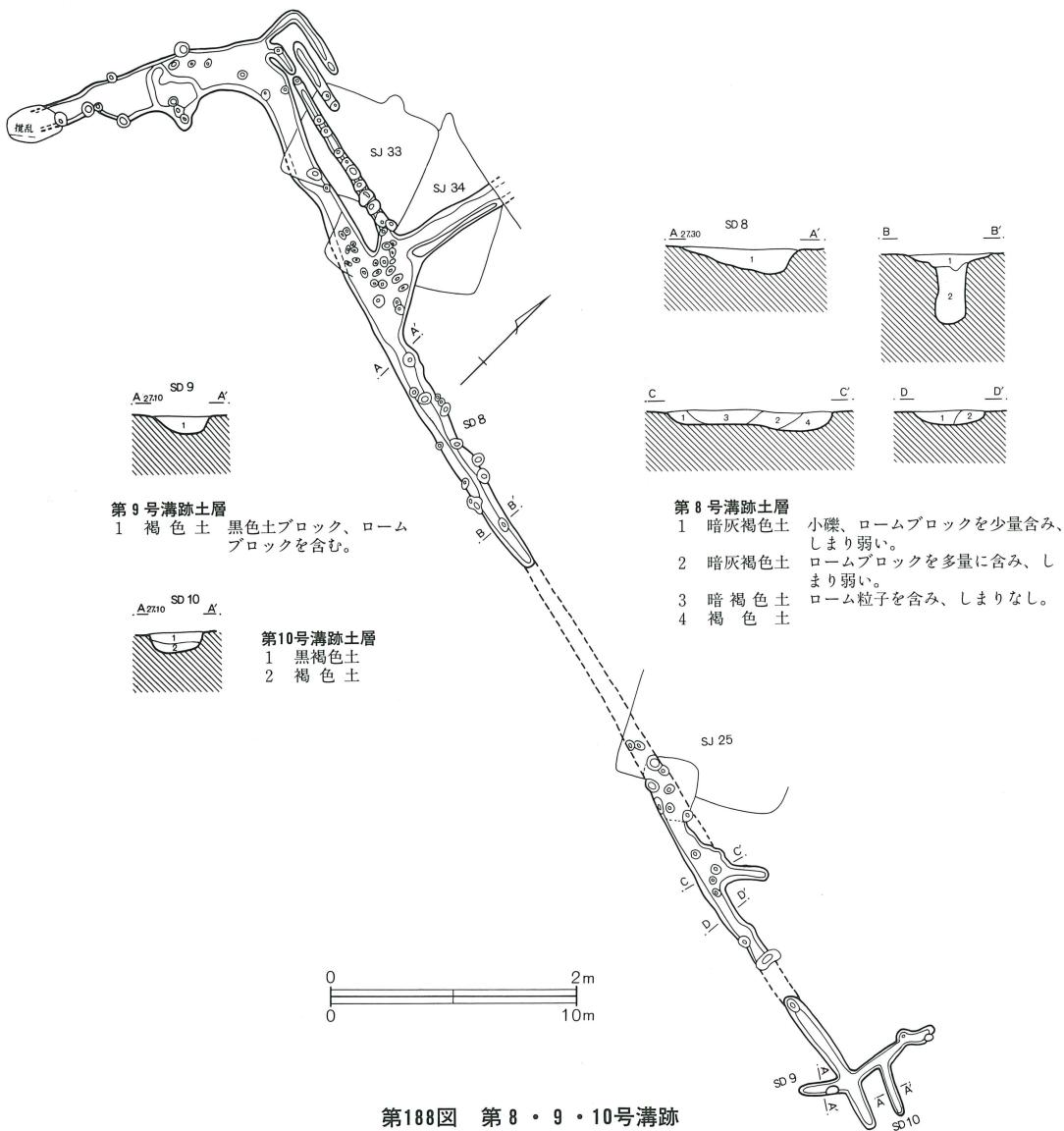
遺跡南東部、J-24~J-25グリッドに位置し、南北に延び、第10・8号溝と交差する。切り合は無く、同時期の遺構と思われる。上端の幅は約60cm、深さは約15cmで、南より北の方が深い。長さは約6mである。出土遺物はなかった。遺構の時期は第8号溝と同じ、16世紀頃であろう。

第10号溝 (第188図)

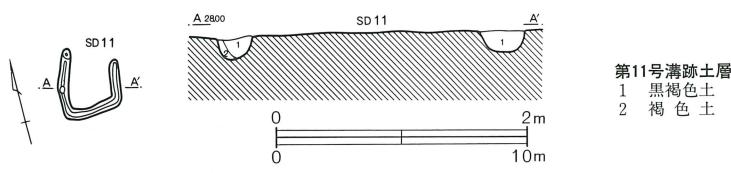
遺跡南東部、J-25グリッドに位置し、第9号溝から分岐する溝で、第8号溝と並行して、東に延びる。上端の幅は約40cm、深さは15cm、長さは約2mである。出土遺物はなかった。遺構の時期は第8号溝と同じ、16世紀頃であろう。

第11号溝 (第189図)

遺跡南東部、J-23、J-24グリッドに位置し、「コ」の字形の小規模の溝である。上端の幅は約40cm、深さは約15cm、長さは約6mである。出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。



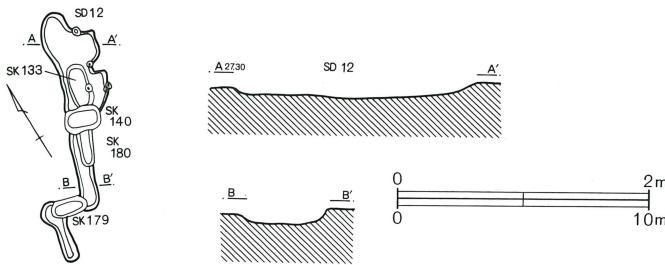
第188図 第8・9・10号溝跡



第189図 第11号溝跡

第12号溝 (第190図)

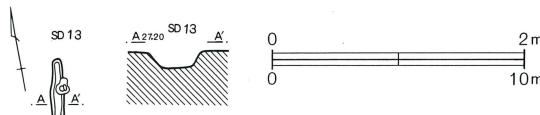
遺跡南部、I-22・23～J-22グリッドに位置し、南北に延びる小規模の溝である。第133、140、180、179号土壙に切られる。上端の幅は約70cm、深さは約5～10cm、長さは約12mである。出土遺物はな
かつた。遺構の時期は不明である。



第190図 第12号溝跡

第13号溝（第191図）

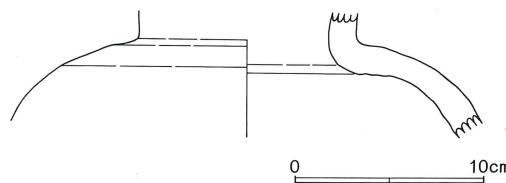
遺跡南部、J-22グリッドに位置し、南北に延びる小規模の溝である。上端の幅は約40cm、深さは約10cm、長さは約2.5mである。出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。



第191図 第13号溝跡

第14号溝（第192・193・194図）

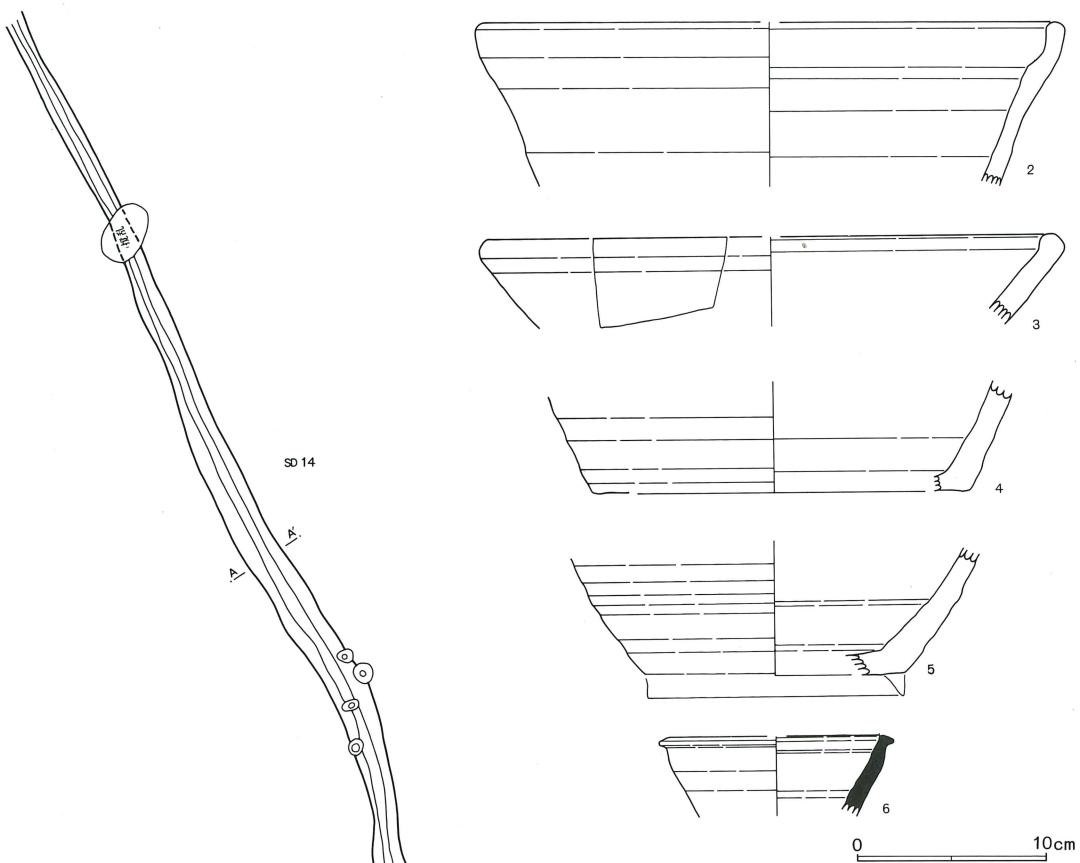
H-19～K-24グリッドに位置し、遺跡南端を西から東に延びる。第26、27、29、30、31号掘立柱建物跡、第11号井戸跡を切る。上端の幅は80～140cm、深さは約30cmで、深さは西部より東部の方が深い。長さは約80mである。遺物1の壺は器壁が厚く、外面に緑地の自然釉が付着し、焼きはよい。古代の遺物で、混入土器であろう。5は焼きのよい、常滑の擂鉢で、底部に台がつく痕跡を残す。2、3、4は在地産の鍋、鉢である。6は8世紀の鉢で混入と思われる。遺構の時期は在地産の鍋、鉢から16世紀頃であろう。



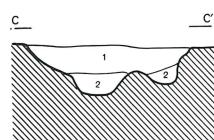
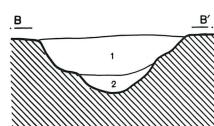
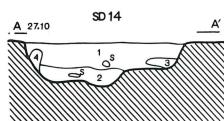
第192図 第14号溝跡出土遺物（1）

第14号溝跡出土遺物観察表（第192・193図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺				B G	A	灰白	5%	覆土一括、外面に自然釉付着
2	内耳鍋	(32?)			A B G	C	灰	5%	覆土一括
3	鉢	(30?)			A B G	B	黒	5%	覆土一括
4	内耳鍋?			(20?)	B E G	B	黒	5%	覆土一括
5	擂鉢			(14?)	B G	B	灰白	5%	覆土一括、常滑
6	擂鉢	(11.3)			B C G	A	灰白	10%	覆土一括



第193図 第14号溝跡出土遺物 (2)



第14号溝跡土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含み、やや砂質。
- 2 暗灰褐色土 ローム粒子を含み、砂質強い。
- 3 黒褐色土
- 4 明褐色土

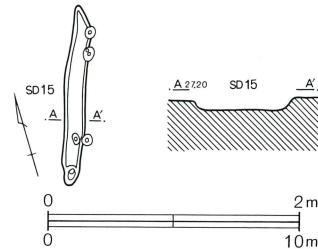


第194図 第14号溝跡

第15号溝 (第195図)

遺跡南西部、H-20、I-20グリッドに位置し、南北に延びる。

第23、24号掘立柱建物跡を切る。上端の幅は約80cm、深さは約10cm、長さは約6.8mである。出土遺物はなかった。遺構の時期は不明である。



第195図 第15号溝跡

第16号溝 (第197図)

遺跡西部、H-20・21グリッドに位置し、東西に延びる。上端の幅は約40cm、深さは5~10cm、長さは約4.8mである。覆土に浅いピット状の掘り込みが連続していた。出土遺物はなかったが、遺構の時期は中世であろう。

第17号溝 (第197図)

H-20・21グリッドに位置し、第16号溝と並行し、東西に延びる。上端の幅は50~90cm、深さは約15cm、長さは約6.5mである。覆土中にピット状の掘り込みを持つ。出土遺物は近世以降と思われる瓦片を検出した。遺構の時期は16号溝跡と同じで、中世であろう。

第18号溝 (第197図)

遺跡西部、G-20・21グリッドに位置し、東西に延びる。上端の幅は約70cm、深さは約20cm、長さは約9.5mである。覆土にピット状の掘り込みを持つ。出土遺物はなかったが、遺構の時期は中世であろう。

第19号溝 (第197図)

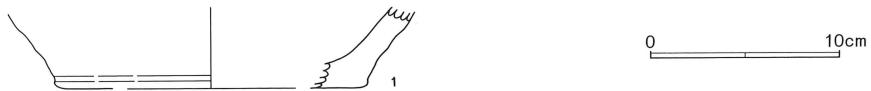
G-20・21グリッドに位置し、東西に延びる。上端の幅は約40cm、深さは約5cmと浅く、長さは約10.5mである。出土遺物はなかったが、遺構の時期は中世であろう。

第20号溝 (第197図)

遺跡西部、G-21グリッドに位置し、第19号溝から分岐し、南北に延びる、小規模の溝である。上端の幅は約40cm、深さは10cm、長さは約2mである。遺物はタタキメのある甕の破片を遺構確認面で検出したが、遺構に伴う遺物であるかはつきりしない。遺構の時期は不明である。

第21号溝 (第196・197図)

遺跡西部、H-21~F-22グリッドに位置し、南北に延び、東に屈曲し、第4、26号溝と合流する。上端の幅は150~200cm、深さは約25cmで、南部より北部の方が深い。長さは約37mである。遺物1は焼きの悪い、在地産の鉢である。他に、天目茶碗の底部を検出した。遺構の時期は15世紀頃であろう。



第196図 第21号溝跡出土遺物

第21号溝跡出土遺物観察表 (第196図)

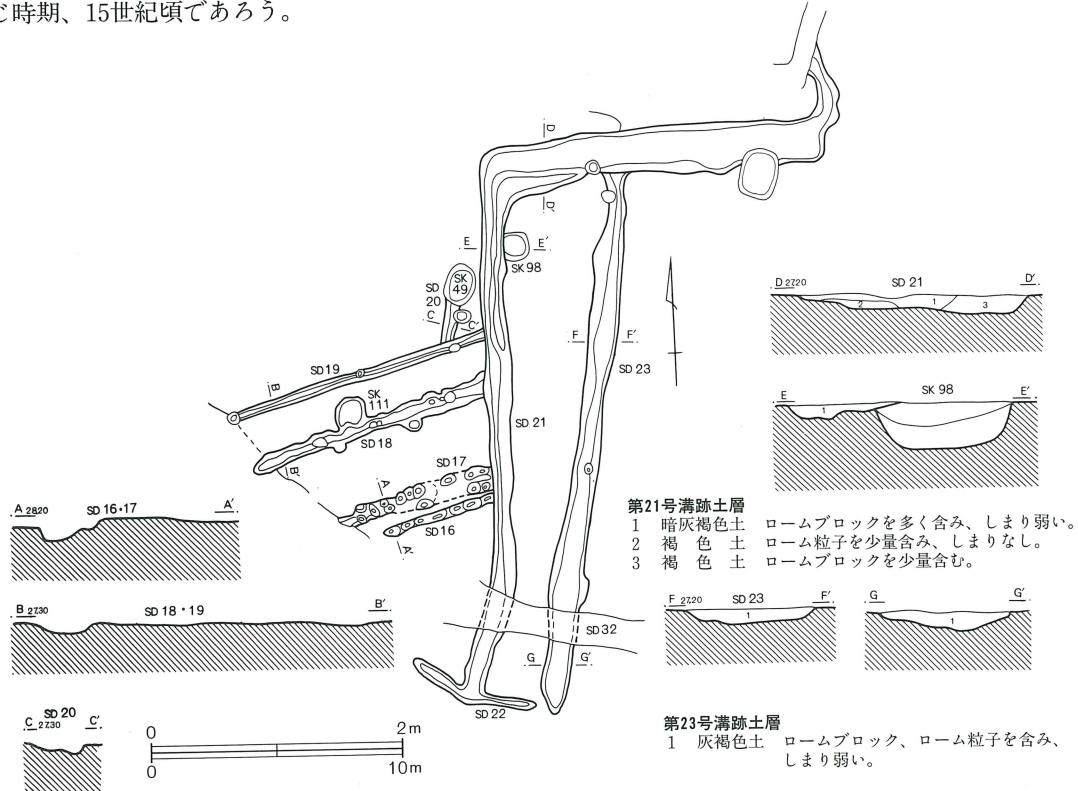
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	鉢		(15.8)		A B G H	B	灰白	10%	覆土一括、色調外面は黒

第22号溝 (第197図)

遺跡西部、H-21グリッドに位置し、東西に延び、第21号溝の南端部と重複する遺構である。第21号と切り合いは無く、同時存在のものである。上端の幅は約40cm、深さは約10cm、長さは約5.5mである。出土遺物はなかったが、遺構の時期は第21号溝跡と同じ時期、15世紀頃であろう。

第23号溝 (第197図)

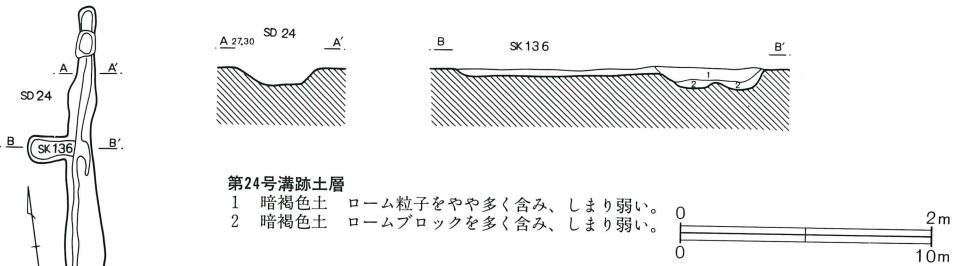
遺跡西部、H-21～G-21グリッドに位置し、第21号溝と並行して、南北に延びる。上端の幅は80～120cm、深さは約15cm、長さは約21.5mである。南部より北部の方が深い。出土遺物は8世紀代と思われる須恵器片を検出したが、第21号溝跡と並行することから、遺構の時期は第21号溝跡と同じ時期、15世紀頃であろう。



第197図 第16・17・18・19・20・21・22・23号溝跡

第24号溝（第198図）

遺跡中央部やや西より、G・H-21グリッドに位置する。第6、23号溝と並行し、南北に延びる遺構で、第136号土壙を切る。上端の幅は70～160cm、深さは約15cm、長さは約11mである。出土遺物はなかったが、第23号溝跡の時期と同じ頃、15世紀頃の遺構であろう。



第198図 第24号溝跡

第25号溝（第199図）

遺跡西部、G-19・20グリッドに位置する。第26号溝から分岐し、南東に延び、第37号住居跡内で屈曲して東に延びる。上端の幅は約40cm、深さは10～15cm、長さは約16mである。出土遺物はなかった。遺構の時期は8世紀の第37号住居跡を切ることから古代でなく、第30号溝跡と並行することから中世末であろう。

第26号溝（第199図）

遺跡西部、F-19～F-22グリッドに位置する。第30号溝と並行して南東に延び、途中屈曲し、東に延びる。上端の幅は約80cm、深さは約15cm、長さは約38mである。出土遺物はなかったが、遺構の時期は第30号溝跡と並行することから中世末であろう。

第27号溝（第199図）

遺跡西部、F-21グリッドに位置し、南北に延びる遺構で、第26号溝と合流する。上端の幅は約50cm、深さは5～7cm、長さは約5.5mである。出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

第28号溝（第199図）

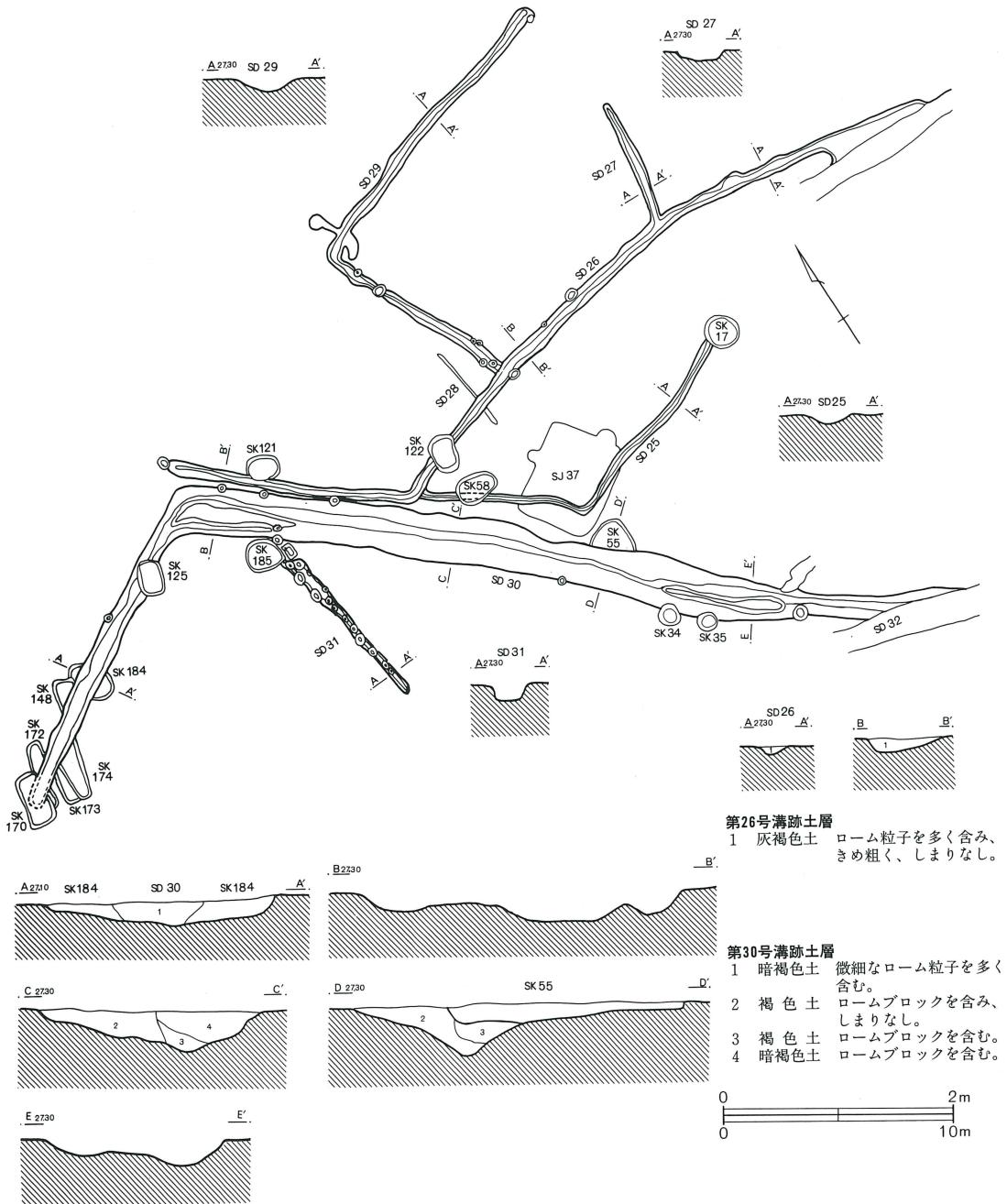
遺跡西部、F・G-20グリッドに位置し、南北に延び、遺構精査時に第26号溝を切ることを確認した。上端の幅は約20cm、深さは約5cm、長さは約4mである。出土遺物はなく、遺構の時期は第26号溝より新しい時期、近世以降である。

第29号溝（第199図）

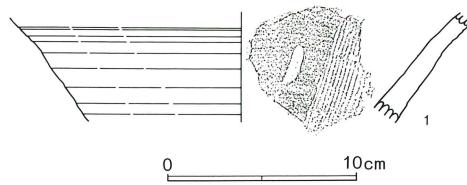
遺跡西北部、E-21～F-20グリッドに位置し、南西に延び、途中屈曲し、南東に延び、第26号溝と合流する。上端の幅は約65cm、深さは5～10cmで、深さは北部より南部の方が深い。長さは約23mである。出土遺物は羽口を検出したが、製鉄関連遺物の項で報告する。その他の遺物はなかったが、遺構の時期は中世末であろう。

第30号溝 (第199・200図)

遺跡西部、G-18～H-21グリッドに位置する。北東に延び、途中屈曲し、南東に延びる。西端で隅丸長方形をした土壙群を切る。上端の幅は100～190cm、深さは20～45cm、長さは約45mである。遺物1の擂鉢は鉄軸がかり、内外面の色調は紫灰だが、胎土は粒子細かく、均質で、時期は16世紀のものであろう。遺構の時期もその頃であろう。



第199図 第25・26・27・28・29・30・31号溝跡



第200図 第30号溝跡出土遺物

第30号溝跡出土遺物観察表（第200図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	擂鉢				B G	A	紫灰	10%	覆土一括、鉄釉

第31号溝（第199図）

遺跡西部、G-19グリッドに位置し、南北に延び、北端で第5号火葬墓と東側で隣接し、第185号土壙に切られていた。上端の幅は約30cm、深さは約10cm、長さは約9mである。覆土に連続したピット状の掘り込みを持つ。出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

(5) 土壙

足洗遺跡では193基の土壙が検出された。形態は多様であり、円形、楕円形、隅丸方形、隅丸長方形、不整形に分類できる。円形が39基、楕円形が52基、隅丸の方形が2基、隅丸長方形が89基、不整形が11基である。検出された遺物は覆土一括の小片で遺構の時期を捉えられた場合は少なかった。土壙の時期を特定できたものは少なく、ここでまとめて紹介する。また、第1号、第2号土壙は奈良時代の遺物が良好な状態で検出できたので、先に記述する事にし、それ以外のものは一括して報告することにした。

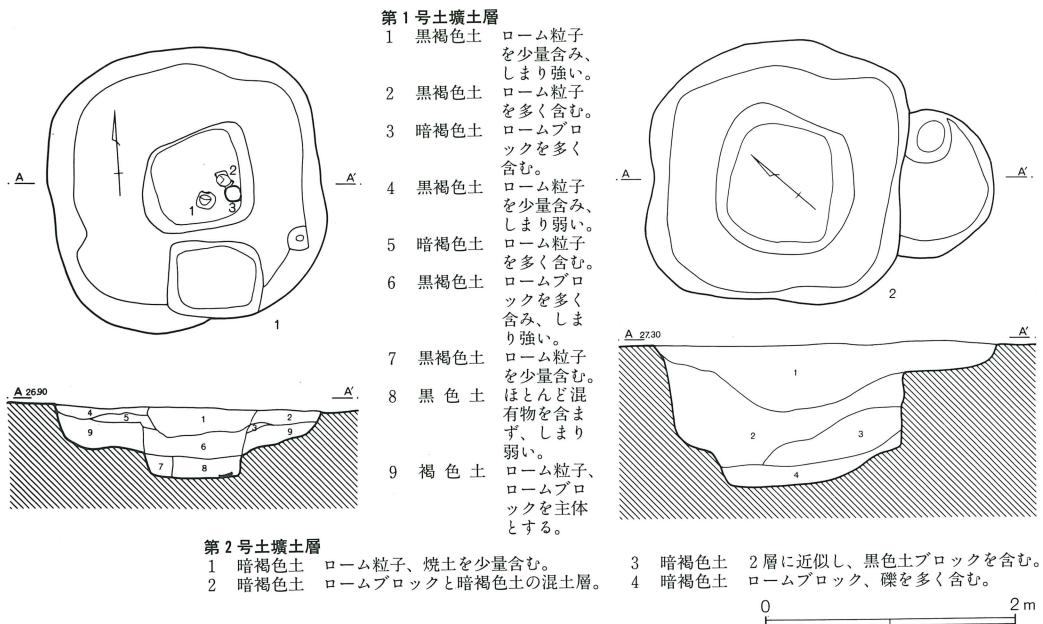
第1号土壙（第201・202図）

遺跡東北部、E-27グリッドに位置する。規模は約2.2m×2.1mの隅丸方形で、深さは約55cm。全体を平坦に掘り窪めた中に、さらに約90cm×75cmの方形の掘り込みを持つ。土層観察からロームブロックを主体とした、しまりを持つ9層が人為的な堆積を示し、中央の掘り込みを支えるような状況を持っていた。床面直上から壙と蓋が完形に近い状態で検出された。他に覆土からは縄文時代の土器や打製石斧も出土したが、遺構の時期は8世紀初頭であろう。

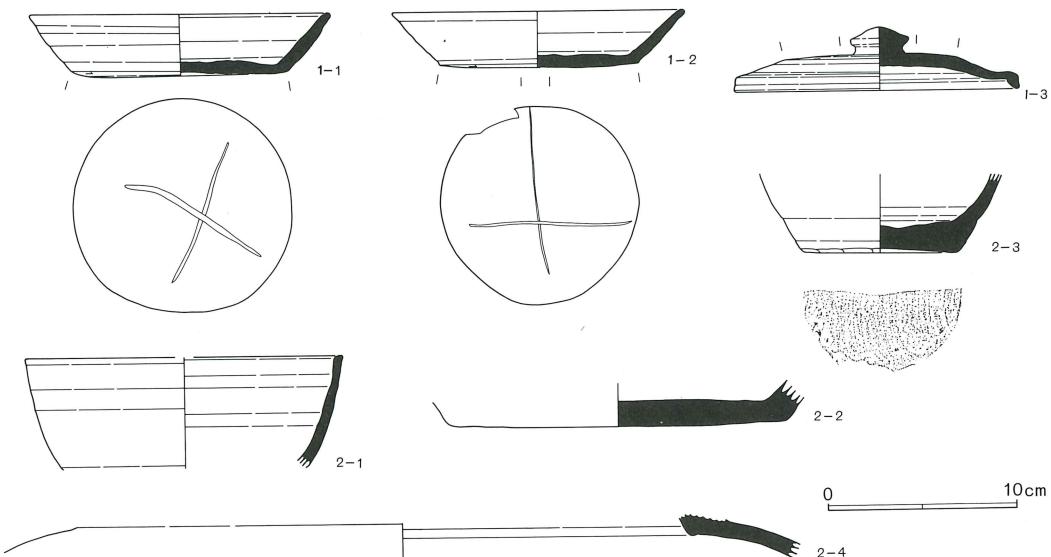
第2号土壙（第201・202図）

遺跡南部、I-22グリッドに位置する。形態は第1号土壙によく似ており、規模は2.1m×2mの隅丸方形で、1.2m×0.7mの円形の張出しを持つ。深さは1.1m。覆土の2、3、4層はロームブロックと暗褐色土の混土層で、自然堆積を示さない。

出土遺物は覆土一括のものであるが、8世紀初頭のもので、遺構の時期も同じ頃であろう。



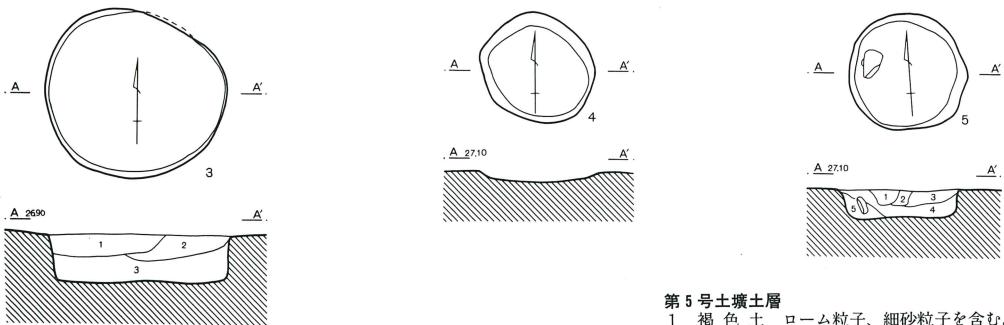
第201図 第1・2号土壤



第202図 第1・2号土壤出土遺物

第1・2号土壤出土遺物観察表 (第202図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1-1	壺	15.7	3.2	11.4	B C G	A	灰白	95%	SK1・No.22・床面直上
1-2	壺	15.2	3.0	10.4	B C G	A	灰白	60%	SK1・No.21・床面直上
1-3	蓋	14.8	3.3		B C G	A	暗青灰	100%	SK1・No.23・床面直上
2-1	椀	(16.6)			B C G	A	暗青灰	10%	SK2・覆土一括
2-2	鉢			(17.8)	B C G	A	灰白	10%	SK2・覆土一括
2-3	壺			(8.0)	B C G	A	灰白	10%	SK2・覆土一括
2-4	甕				B G	A	青灰	5%	SK2・覆土一括

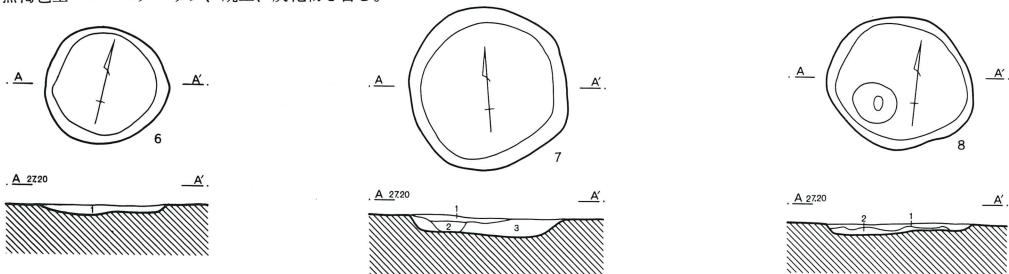


第3号土壤土層

- 1 褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含み、きめ細かい。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、焼土、炭化物を含み、しまり持つ。
- 3 黒褐色土 ロームブロック、焼土、炭化物を含む。

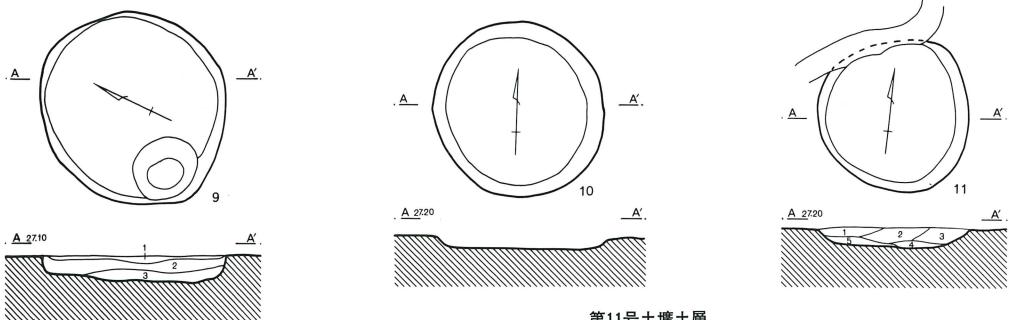
第5号土壤土層

- 1 褐色土 ローム粒子、細砂粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 きめ粗く、しまりやや弱い。
- 4 黒褐色土 きめ細かく、しまり持つ。
- 5 黒褐色土 ロームブロックを含む。



第6・7・8号土壤土層

- 1 黒褐色土 ロームブロックをわずかに含み、しまり弱い。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を含み、しまり弱い。
- 3 黒褐色土 ロームブロックをやや多く含む。

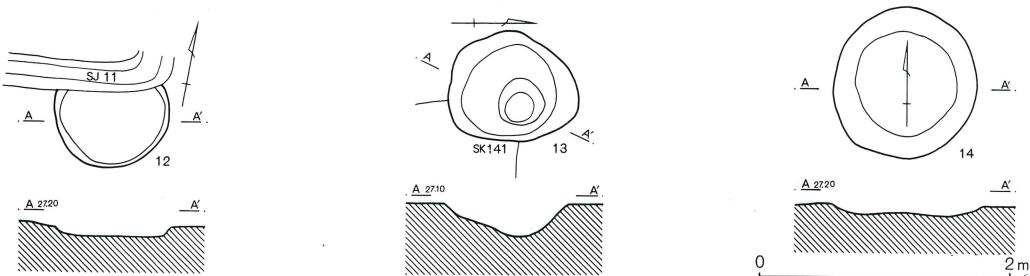


第9号土壤土層

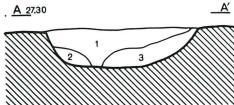
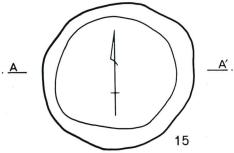
- 1 黒褐色土 ローム粒子をわずかに含む。
- 2 黒褐色土 粒の大きいローム粒子を多く含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

第11号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 やや大きめのロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 第1層に近似し、しまりやや弱い。
- 4 黑褐色土 ローム粒子を均一に含み、きめ細かい。
- 5 黑褐色土 4層に近似し、ロームブロックを少量含む。

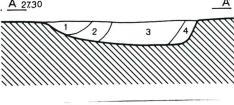
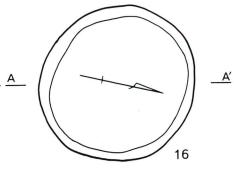


第203図 第3～14号土壤



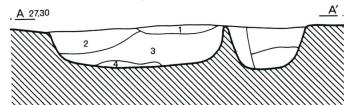
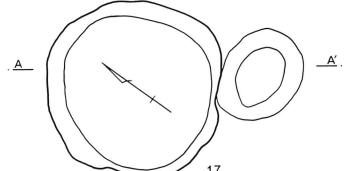
第15号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 3 茶褐色土 ローム粒子、砂粒を含む。



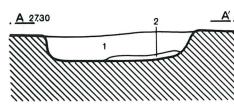
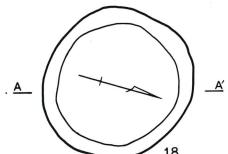
第16号土壤土層

- 1 暗褐色土 ローム粒子をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックとの混土層で、黒色土ブロックを混在。
- 3 暗褐色土 ローム粒子をほとんど含まず、きめ細かい。
- 4 黒褐色土 ローム粒子を含む。



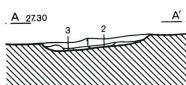
第17号土壤土層

- 1 褐色土
- 2 黄褐色土
- 3 暗褐色土 きめ粗い。
- 4 黑褐色土



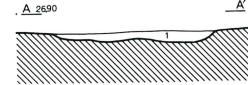
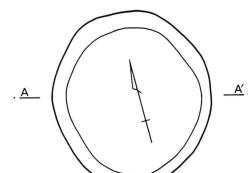
第18号土壤土層

- 1 褐色土 ロームブロックとの混土層。
- 2 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。



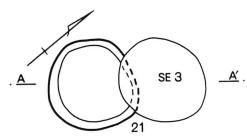
第19号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックを混在。
- 2 黑褐色土
- 3 褐色土 ローム粒子を少量含む。



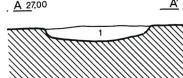
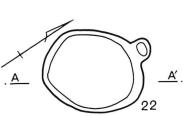
第20号土壤土層

- 1 黑褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。



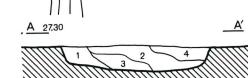
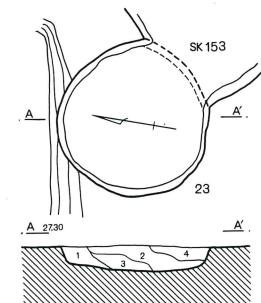
第21号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。



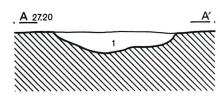
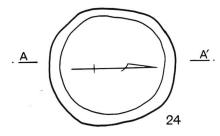
第22号土壤土層

- 1 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。



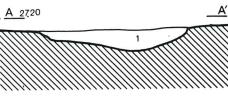
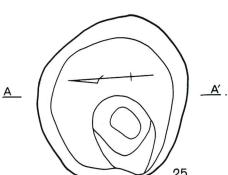
第23号土壤土層

- 1 黑褐色土 混有物をほとんど含まず。
- 2 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 黑褐色土 ローム粒子を多量に含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。



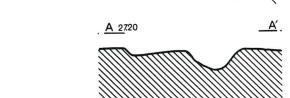
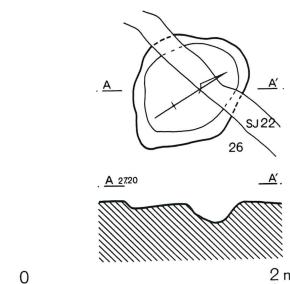
第24号土壤土層

- 1 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。



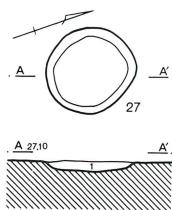
第25号土壤土層

- 1 黑褐色土 ローム粒子を少量含む。

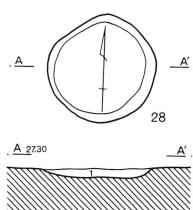


0 2 m

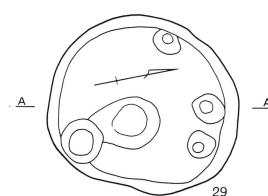
第204図 第15~26号土壤



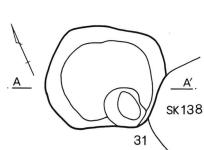
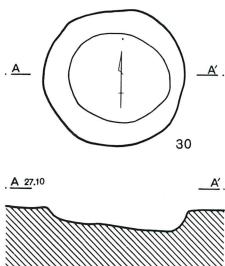
第27号土壤土層
1 暗褐色土 ローム粒子、粗砂を含む。



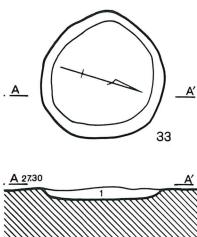
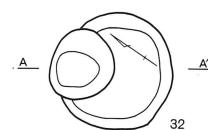
第28号土壤土層
1 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く、炭化物を少量含む。



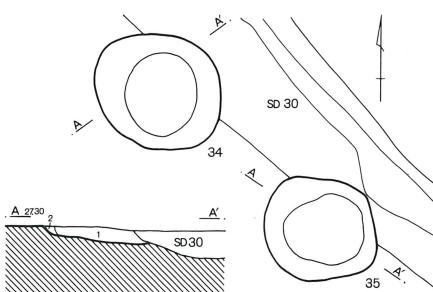
第29号土壤土層
1 黒褐色土 ロームブロックを含む。
1' 黒褐色土 ローム粒子は少ない。
2 暗褐色土 ロームブロックやや多く、全体に混じる。



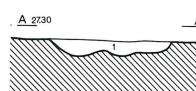
第31号土壤土層
1 黄褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含む。



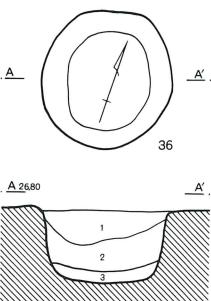
第33号土壤土層
1 黑褐色土 烧土、ローム粒子を少量含む。



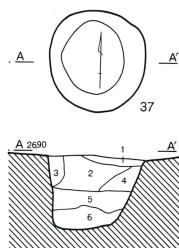
第34号土壤土層
1 暗褐色土 ロームブロック、黑色土ブロックを含む。
2 黑褐色土



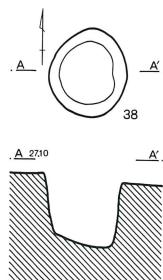
第35号土壤土層
1 黑褐色土 ローム粒子を多量、烧土を少量含み、しまり弱い。



第36号土壤土層
1 黑褐色土 ローム粒子を混在し、きめやや細かい。
2 黑褐色土 ローム粒子、ロームブロックを多く含み、しまり弱い。
3 黑灰色土 ローム粒子、烧土を混在し、やや粘性強い。

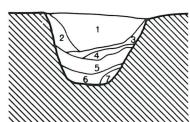
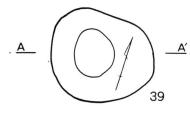


第37号土壤土層
1 黑褐色土 ローム粒子、炭化物、烧土を含み、しまり持つ。
2 黑褐色土 烧土、ローム粒子を混在し、暗い。
3 暗褐色土 ローム粒子やや多く、烧土、炭化物を少量含む。
4 黑褐色土 ロームブロックを含む。
5 黑褐色土 4層に近似し、しまりやや持つ。
6 黑褐色土 ローム粒子を含み、しまり強い。



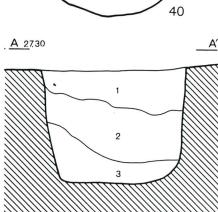
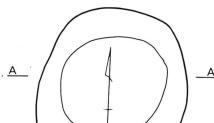
0 2m

第205図 第27～38号土壤



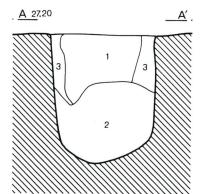
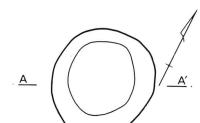
第39号土壤土層

- 1 黒色土 ローム粒子、焼土、炭化物を含み、しまり弱い。
- 2 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを混在し、しまり持つ。
- 3 赤褐色土 酸化鉄を主体とする。
- 4 黒褐色土 ローム粒子を含み、しまり、粘性持つ。
- 5 黒褐色土 4層に比べ暗い。
- 6 黒褐色土 5層に比べより暗い。
- 7 黒褐色土 ローム粒子、ロームブロックを少量含み、しまり弱い。



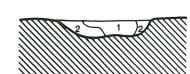
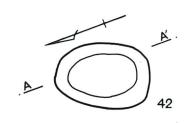
第40号土壤土層

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 小径のロームブロックを少量含む。



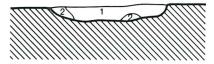
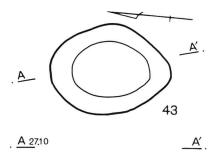
第41号土壤土層

- 1 暗褐色土 小径のロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 1層に近似し、しまり欠く。



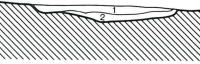
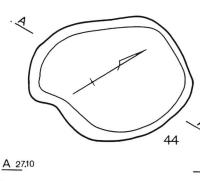
第42号土壤土層

- 1 褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 褐色土 黒色土、ロームブロックを混在。



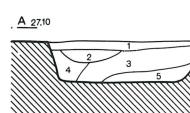
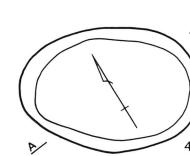
第43号土壤土層

- 1 褐色土 焼土、炭化物をわずかに、ローム粒子を多く含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒子を多く含む。



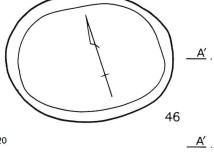
第44号土壤土層

- 1 黑褐色土 ローム粒子をわずかに含み、きめ粗雑。
- 2 褐色土 ローム粒子を含む。



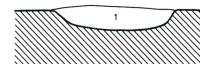
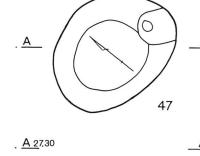
第45号土壤土層

- 1 黄褐色土 きめ細かいロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックと褐色土を含む。
- 3 暗褐色土 2層よりロームブロックが少ない。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを含み、しまり持つ。
- 5 暗褐色土 ローム粒子、褐色土を含み、きめ細かい。



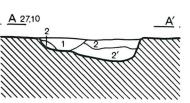
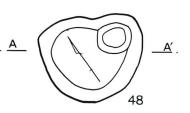
第46号土壤土層

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多量に含み、しまり弱い。



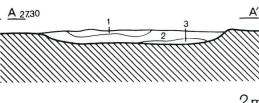
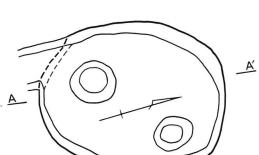
第47号土壤土層

- 1 褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。



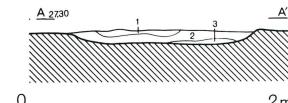
第48号土壤土層

- 1 黄褐色土 ローム粒子を多く、黒色土を少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子を多く、黒色土を少量含む。
- 2' 褐色土 2層よりローム粒子が多い。

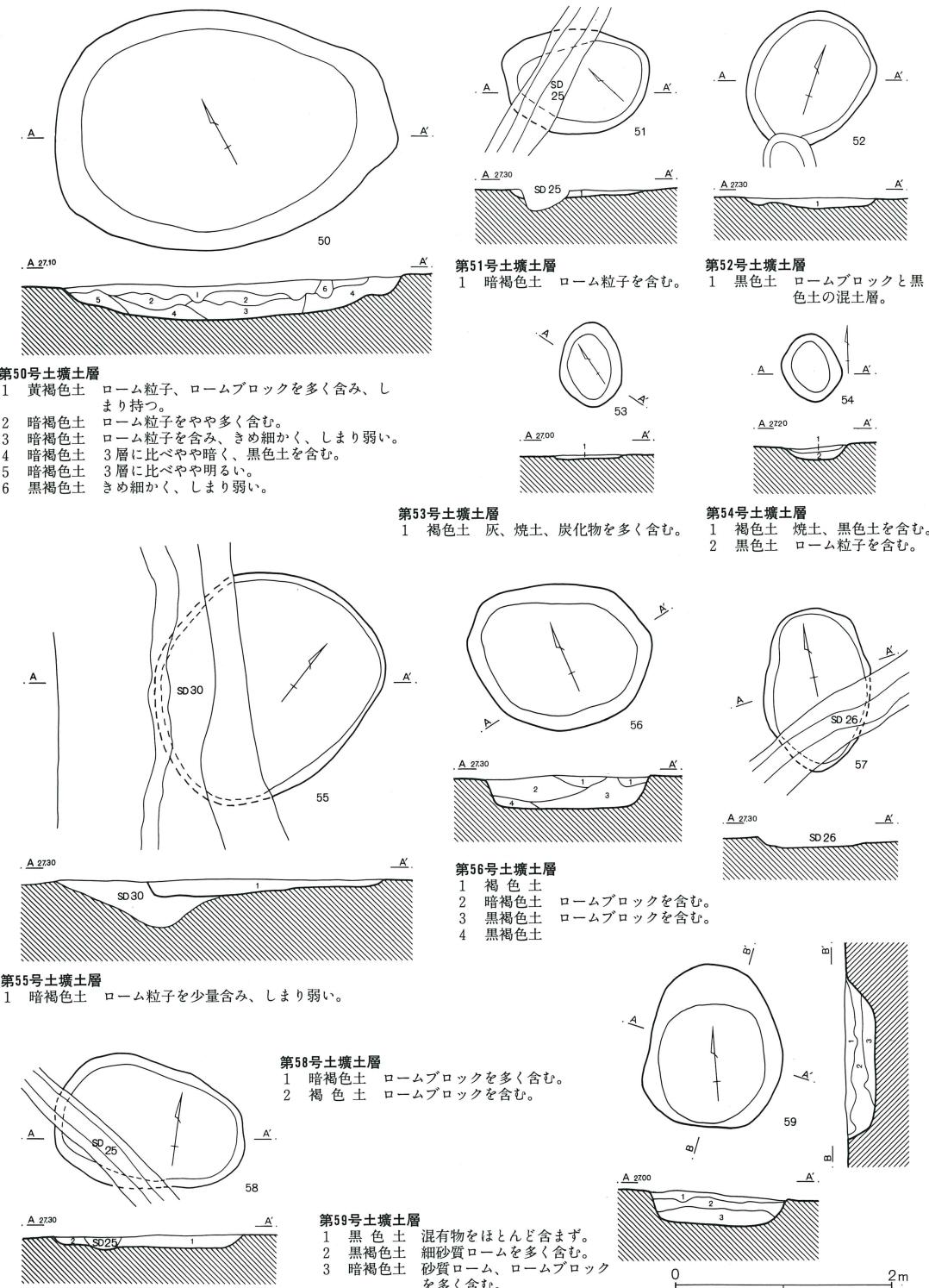


第49号土壤土層

- 1 褐色土
- 2 暗褐色土 ロームブロックを霜降り状に含む。
- 3 黑褐色土 ローム粒子をわずかに含む。



第206図 第39～49号土壤



第207図 第50~59号土壤